

令和2年度健やか親子21実態調査 その2

思春期保健に関する実態調査

報告書

令和3年3月

千葉県

健康福祉部児童家庭課

はじめに

「健やか親子21」は、21世紀の母子保健の取組の方向性と目標を示し、関係機関・団体が一体となって推進する国民運動計画として、平成13年から取り組みが開始されました。平成27年度からは、令和6年度までを運動期間とする「健やか親子21（第2次）」が開始されており、思春期保健対策は、次世代の健康づくりに直結するため、基盤課題のひとつに位置付けられています。

これを受け、本県においても「すべての子どもが健やかに育つ社会」の実現を目指す「健やか親子21（第2次）」を推進するため様々な取り組みが行われています。今回、思春期保健に関する現状を把握し、今後の母子保健施策に反映させるため、健やか親子21実態調査その2として「思春期保健に関する調査」を実施しました。

初回調査から20年が経過し、高校生の喫煙率(16.2%→0.4%)や飲酒率(47.7%→3.3%)は大幅に減少しましたが、ひとりひとりの喫煙量、飲酒量が増加するなど、将来の依存症の恐れが心配されます。また、性に対する考え方が多様化していることもうかがえ、昨年度、児童家庭課で開始した「にんしんSOSちば」へ十代からの予期せぬ妊娠などの相談が増加している現状と併せて考えると、性教育や食育・自身の体に関する様々な健康教育の充実について、より積極的な取り組みが必要です。

これらの調査で得られた結果を踏まえ、思春期における健全な心と身体の発育・発達を促すために、思春期保健対策を促進してまいりたいと考えております。

また、本報告書が関係者の皆様のお役に立てることができれば幸いです。

最後に、調査に御協力をいただきました高校生をはじめ、学校関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

令和3年3月

千葉県健康福祉部児童家庭課長

尾関 範子

I 調査概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査期間	1
3. 調査対象者	1
4. 調査の方法	1
5. 回収結果	1
6. 調査の内容	1
7. 時系列比較	1
8. 調査実施機関	1
II 調査結果	2
1. 回答者の属性	2
(1) 性別	2
(2) 家族構成	3
2. 日頃の生活	4
(1) 起床時間	4
(2) 就寝時間	5
(3) 朝食摂取状況	6
(4) 家族との夕食摂取状況	8
(5) 夕食を家族と食べない理由	10
(6) 門限の時刻	11
(7) クラブ活動参加状況	12
(8) 母親との会話の状況	13
(9) 父親との会話の状況	15
(10) 毎月の小遣い	17
(11) 親友の有無	18
(11-1) 親友の人数	19
(12) 悩みの相談相手の有無	20
(13) 悩みの相談相手	22
(14) 日頃の意識	23
3. 喫煙	43
(1) 未成年者の喫煙意識	43
(2) 喫煙の有無	45
(2-1) 1日あたりの平均喫煙本数	47
(3) 初めての喫煙時期	48
(4) 心や体への影響についての認知	49
(5) 受動喫煙による健康への悪い影響	50
(6) 煙の成分	51
(7) 肺がんとの関連	52
(8) たばこを吸う家族の有無	53

目 次

4. 飲酒	55
(1) 未成年者の飲酒意識	55
(2) 飲酒の有無	57
(3) 初めての飲酒の時期	59
(4) 飲酒のきっかけ	60
(5) 飲酒の頻度	61
(6) 心や体への影響についての認知	62
(7) 急性アルコール中毒についての認知	64
5. 薬物	65
(1) 薬物の認知状況	65
(2) 薬物乱用による薬物依存状態の認知	67
(3) 脳などへの影響の認知	68
(4) 幻視・幻聴に関する知識の認知	69
(5) 薬物使用のすすめを断る自信度	70
(6) 薬物への関心度	73
(7) 若者の薬物乱用に対する認識	77
6. 性	79
(1) セックスに対する考え方	79
(2) 避妊法の認知	81
(3) 避妊法の知識	82
(4) 性感染症に対する知識	83
(5) 保健所の性感染症検査実施の認知	85
(6) 性についての相談者の有無	86
(7) 性に関する関心項目	88
(8) にんしんSOSちばの認知	90
(9) にんしんSOSちばへの相談希望	91
7. 周囲の人々との関わりや行動	92
(1) 赤ちゃんを抱いた経験	92
(2) 赤ちゃんを抱いた機会	93
(3) 育児に対する意識	94
(4) 地域活動の経験	96
(5) 地域活動の具体的活動内容	97
(6) 近所の人への挨拶	98
III まとめ	100
IV 使用した調査票	103

I 調査概要

1. 調査の目的

思春期にある男女の生活や意識の実態を調査することにより、「健やか親子21」をはじめとする母子保健の施策に反映させることを目的とする。

2. 調査期間

令和2年9月1日～10月31日

3. 調査対象者

保健所管轄地域16区から各1校ずつ無作為に抽出された16校に在学する高校2年生3,941人。

4. 調査の方法

学校を通じ、各クラス担任から学生に調査票を配布。各自が記入し、密封した状態（無記名）で回収し、学校ごとに調査実施機関へ郵送。

5. 回収結果

対象者数：3,941人

回答者数：3,740人（回収率：94.9%）

6. 調査の内容

- （1）生活状況（起床時間・朝食摂取状況・相談相手の有無等）
- （2）喫煙（喫煙の有無・入手経路・有害性の認識等）
- （3）飲酒（飲酒の有無・入手経路・有害性の認識等）
- （4）薬物（知識周知・情報経路・使用の認識等）
- （5）性（知識周知・性に対する悩み・相談者の有無・性感染症等）
- （6）地域交流や自己意識（地域活動への参加状況・人間関係等）

7. 時系列比較

この調査は平成12年度、17年度、24年度にも実施され、その結果をもとに一部時系列比較を行った。

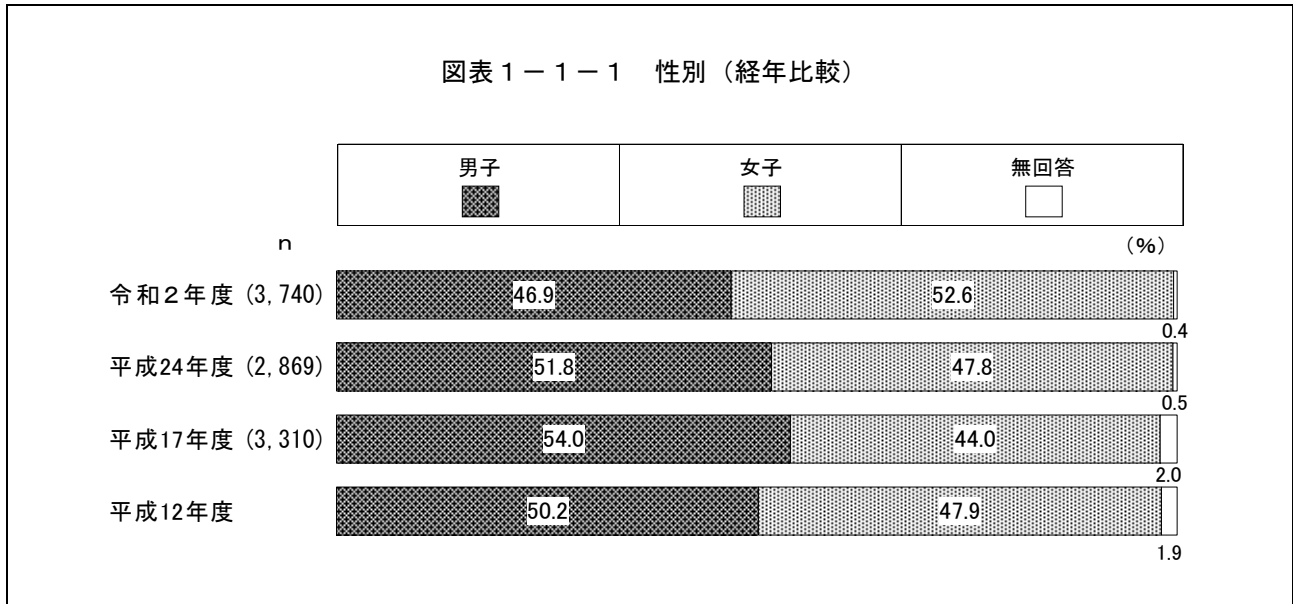
8. 調査実施機関

千葉県が株式会社エスピー研に委託して実施した。

Ⅱ 調査結果

1. 回答者の属性

(1) 性別

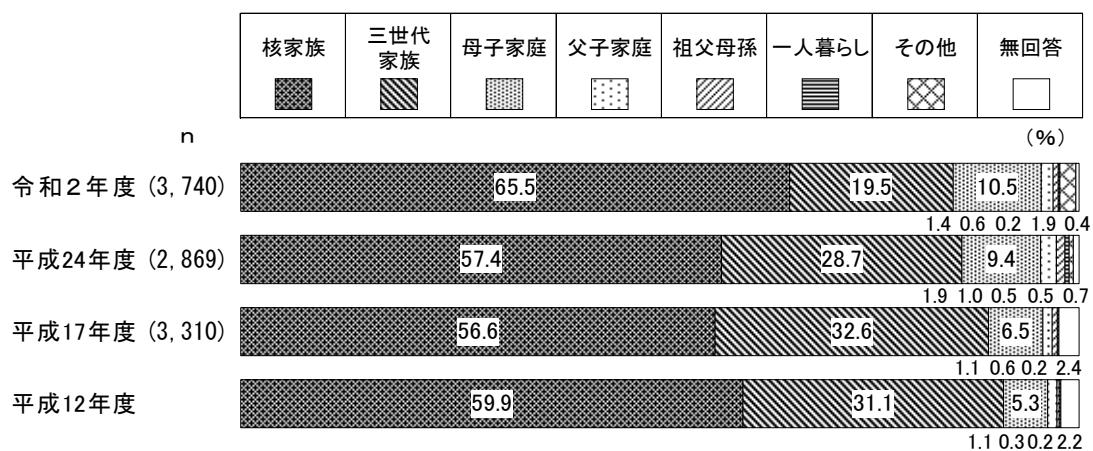


性別は、「男子」が46.9%、「女子」が52.6%となっており、「女子」が「男子」より5.7ポイント高くなっている。

過去の調査と比較すると、「女子」は平成24年度より4.8ポイント増加している。

(2) 家族構成

図表 1-2-1 家族構成（経年比較）



※「その他」は平成24年度から追加された選択肢

家族構成は、「核家族」が65.5%で最も高く、次いで「三世代家族」（19.5%）、「母子家庭」（10.5%）、「父子家庭」（1.4%）となっている。

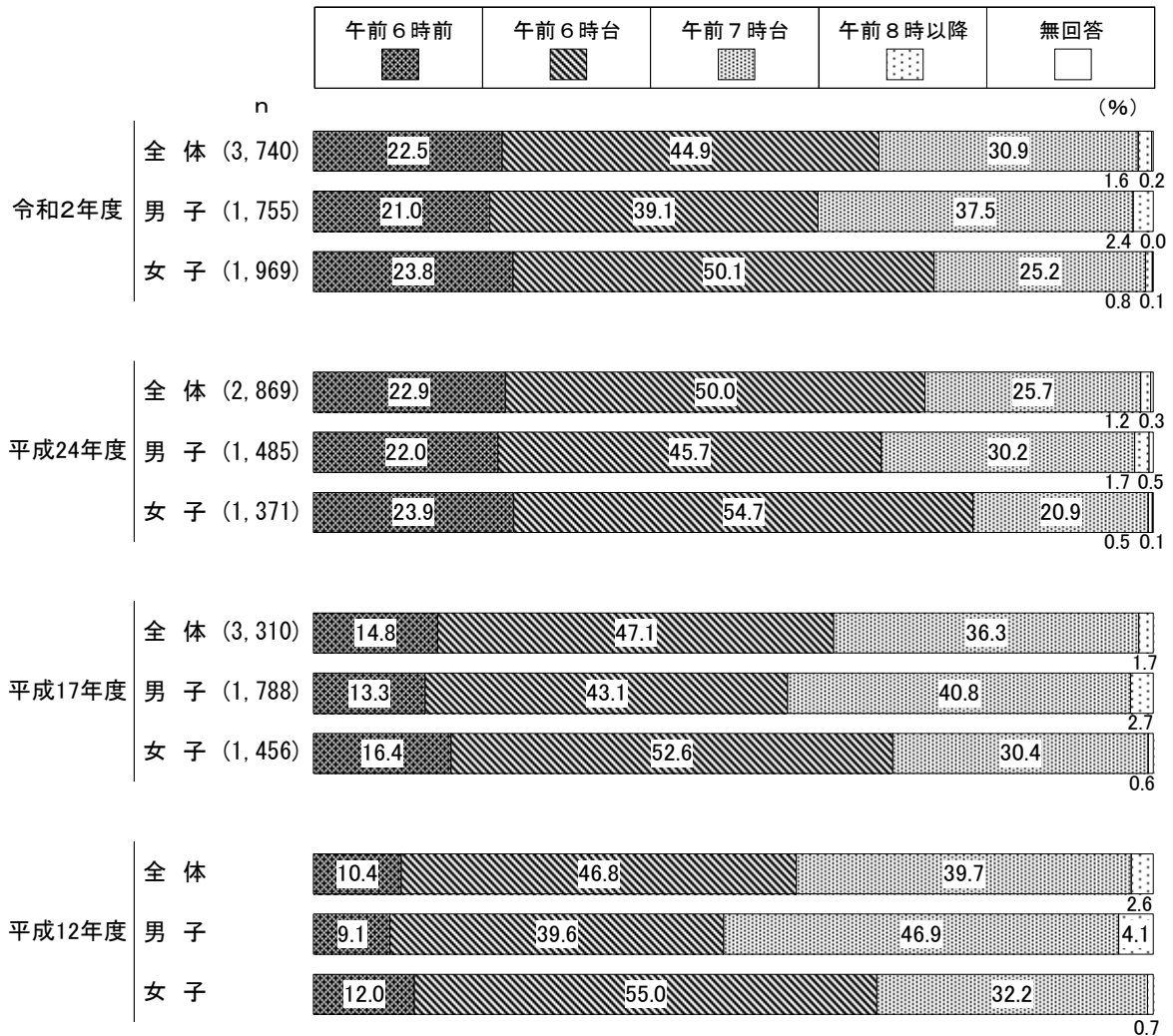
過去の調査と比較すると、「核家族」は平成24年度より8.1ポイント増加している。一方、「三世代家族」は平成24年度より9.2ポイント減少している。

2. 日頃の生活

(1) 起床時間

問1 普段何時に起きていますか（休日を除く）。

図表2-1-1 起床時間（経年比較）



普段何時に起きていますか聞いたところ、「午前6時台」が44.9%で最も高く、次いで「午前7時台」（30.9%）、「午前6時前」（22.5%）、「午前8時以降」（1.6%）となっている。

男女別で見ると、「午前7時台」は男子（37.5%）が女子（25.2%）より12.3ポイント高くなっている。一方、「午前6時台」は女子（50.1%）が男子（39.1%）より11.0ポイント高くなっている。

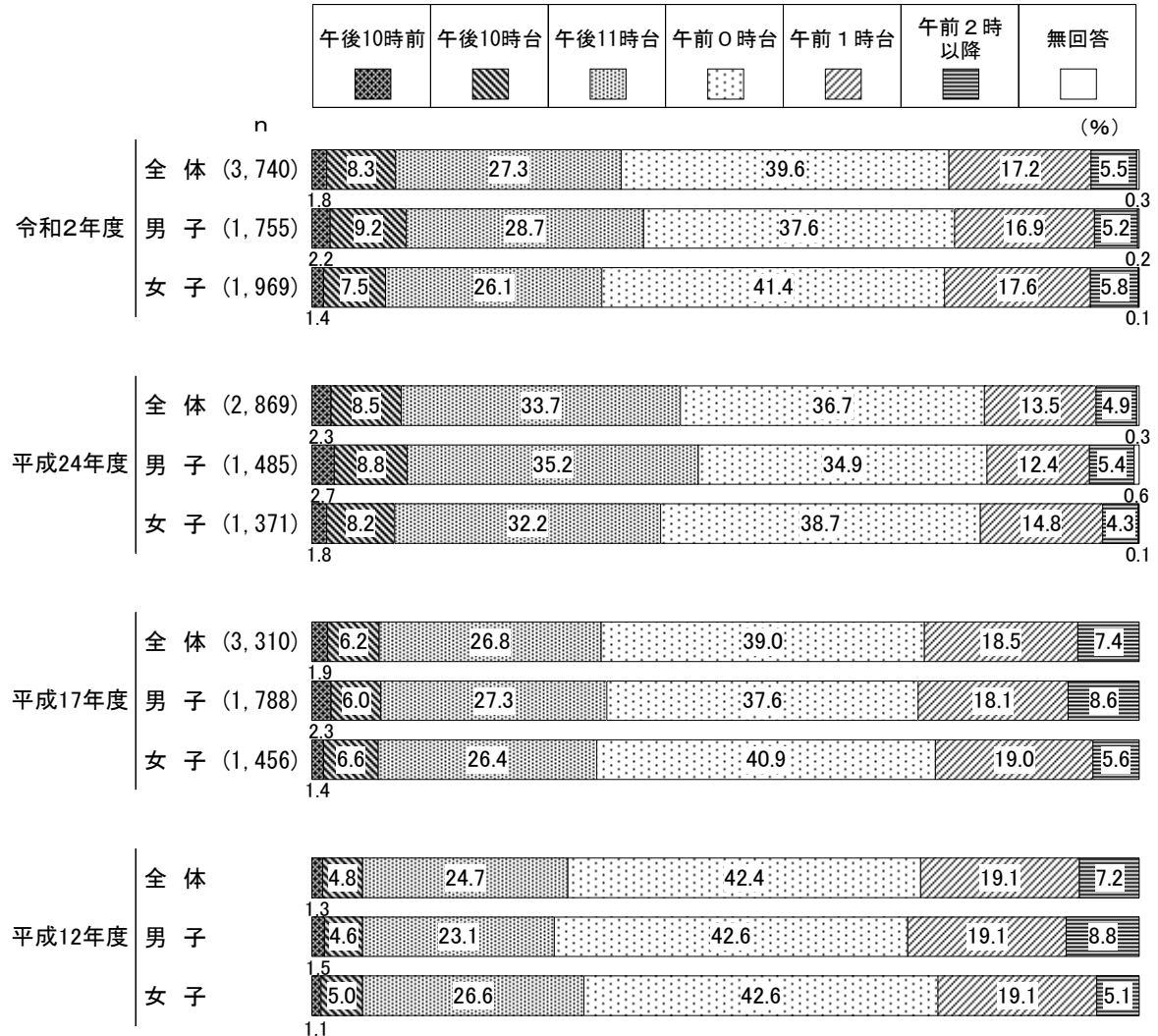
過去の調査と比較すると、全体では「午前7時台」は平成24年度より5.2ポイント増加している。一方、「午前6時台」は平成24年度より5.1ポイント減少している。

男女別では「午前7時台」は平成24年度より男子で7.3ポイント、女子で4.3ポイント、それぞれ増加している。一方、「午前6時台」は平成24年度より男子で6.6ポイント、女子で4.6ポイント、それぞれ減少している。

(2) 就寝時間

問2 普段何時に寝ていますか（休日を除く）。

図表2-2-1 就寝時間（経年比較）



普段何時に寝ているか聞いたところ、「午前0時台」が39.6%で最も高く、次いで「午後11時台」（27.3%）、「午前1時台」（17.2%）、「午後10時台」（8.3%）となっている。

男女別でみると、「午前0時台」は女子（41.4%）が男子（37.6%）より3.8ポイント高くなっている。

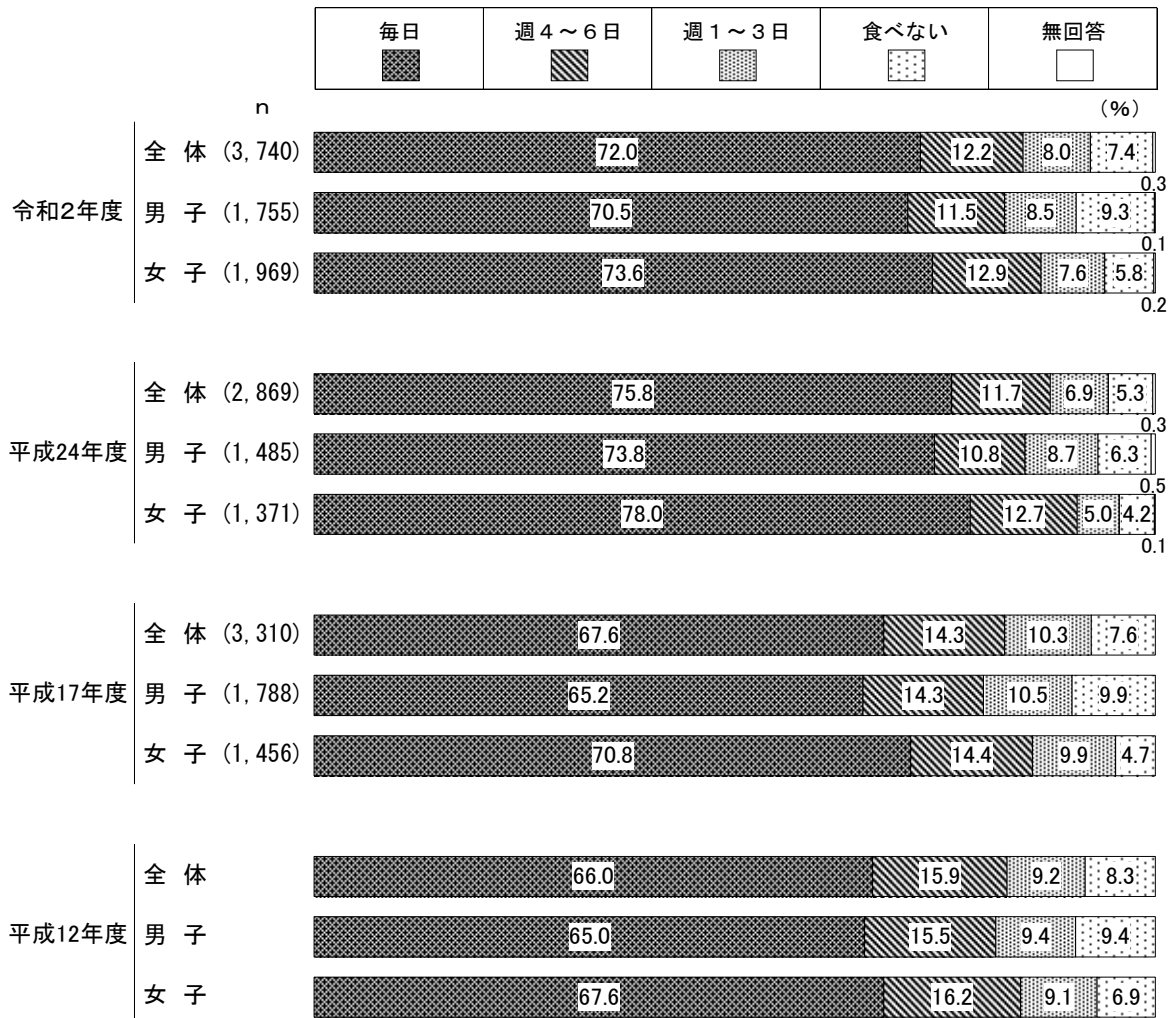
過去の調査と比較すると、全体では「午前1時台」は平成24年度より3.7ポイント増加している。一方、「午後11時台」は平成24年度より6.4ポイント減少している。

男女別では「午前1時台」は平成24年度より男子で4.5ポイント増加している。一方、「午後11時台」は平成24年度より男子で6.5ポイント、女子で6.1ポイント、それぞれ減少している。

(3) 朝食摂取状況

問3 週にどのくらい朝食を食べていますか。

図表2-3-1 朝食摂取状況（経年比較）



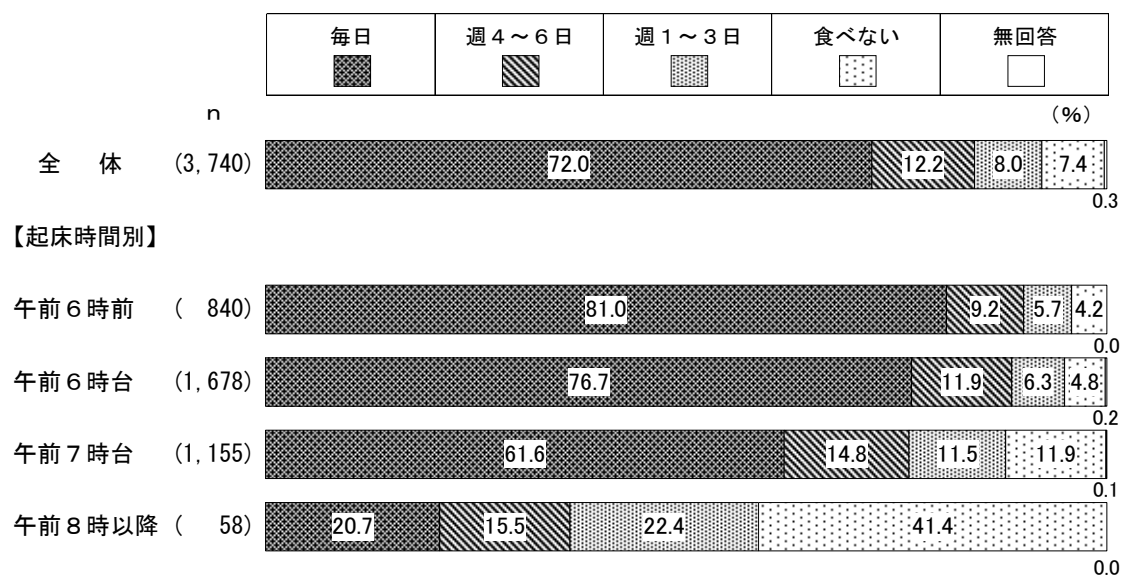
週にどのくらい朝食を食べているか聞いたところ、「毎日」が72.0%で最も高く、次いで「週4~6日」(12.2%)、「週1~3日」(8.0%)、「食べない」(7.4%)となっている。

男女別で見ると、「食べない」は男子(9.3%)が女子(5.8%)より3.5ポイント高くなっている。一方、「毎日」は女子(73.6%)が男子(70.5%)より3.1ポイント高くなっている。

過去の調査と比較すると、全体では「毎日」は平成24年度より3.8ポイント減少している。

男女別では「食べない」は平成24年度より男子で3.0ポイント増加している。一方、「毎日」は平成24年度より男子で3.3ポイント、女子で4.4ポイント、それぞれ減少している。

図表 2-3-2 朝食摂取状況（起床時間別）

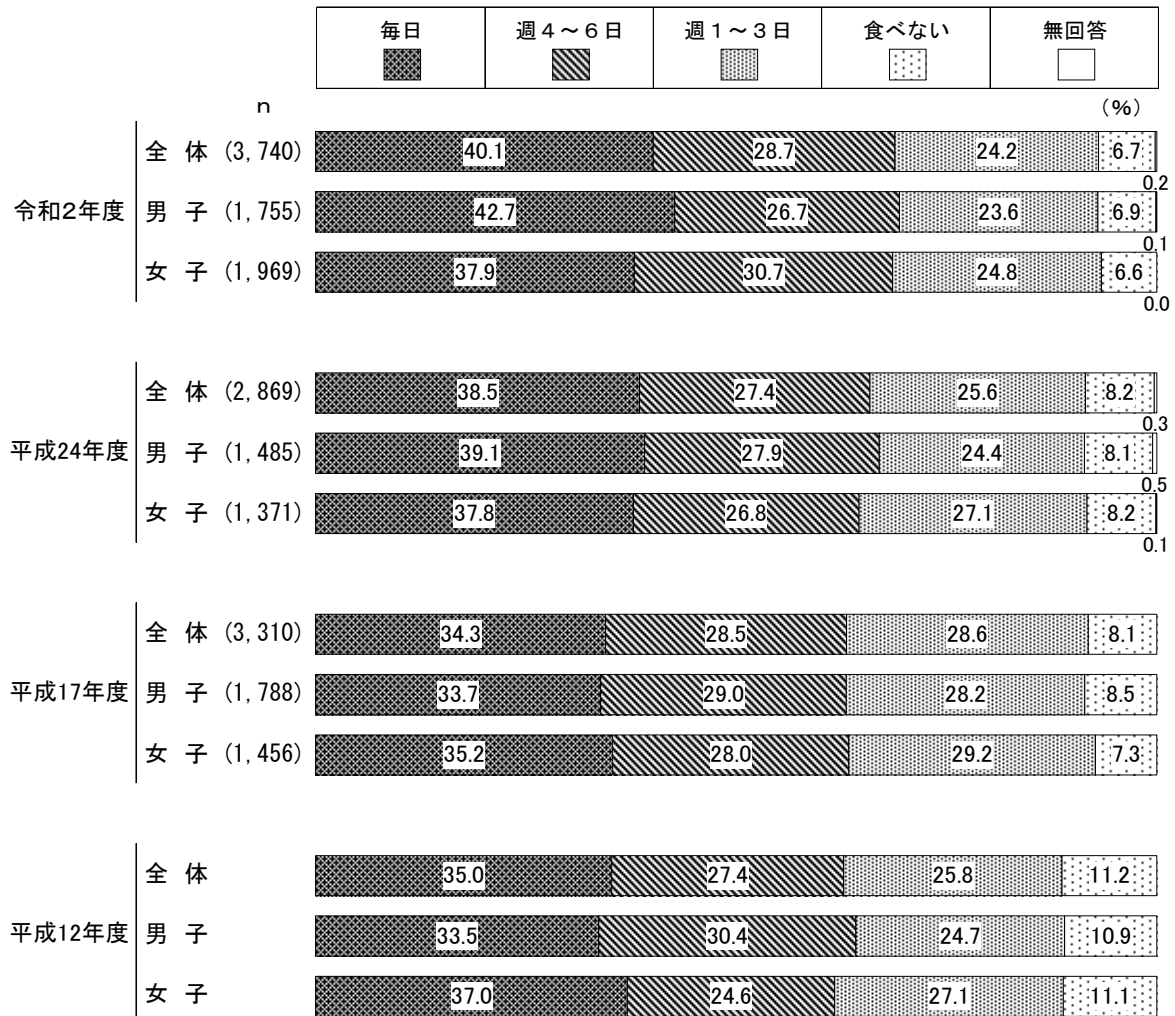


起床時間別でみると、「毎日」は起床時間が早くなるほど割合が高く、“午前6時前”で81.0%と高くなっている。一方、「食べない」は起床時間が遅くなるほど割合が高く、“午前8時以降”で41.4%と高くなっている。

(4) 家族との夕食摂取状況

問4 週にどのくらい家族と一緒に夕食を食べますか。

図表2-4-1 家族との夕食摂取状況（経年比較）



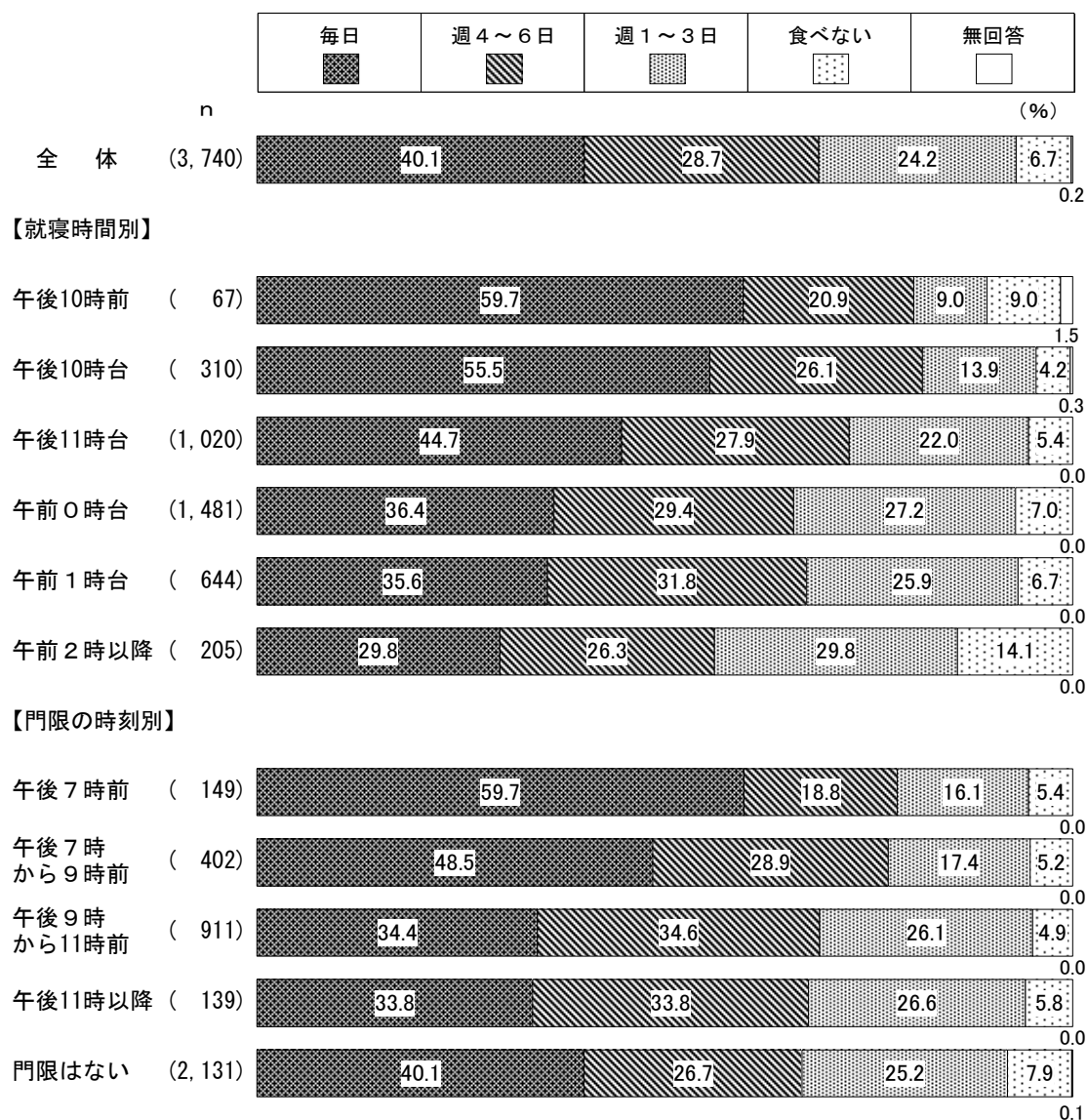
週にどのくらい家族と一緒に夕食を食べているか聞いたところ、「毎日」が40.1%で最も高く、次いで「週4~6日」(28.7%)、「週1~3日」(24.2%)、「食べない」(6.7%)となっている。

男女別でみると、「毎日」は男子(42.7%)が女子(37.9%)より4.8ポイント高くなっている。一方、「週4~6日」は女子(30.7%)が男子(26.7%)より4.0ポイント高くなっている。

過去の調査と比較すると、全体では「毎日」は平成17年度以降増加傾向にある。

男女別では「毎日」は平成24年度より男子で3.6ポイント増加している。「週4~6日」は平成24年度より女子で3.9ポイント増加している。

図表 2-4-2 家族との夕食摂取状況（就寝時間別、門限の時刻別）



就寝時間別で見ると、「毎日」は就寝時間が早くなるほど割合が高く、「午後10時前」で59.7%と高くなっている。「週4～6日」は「午前1時台」で31.8%と高くなっている。

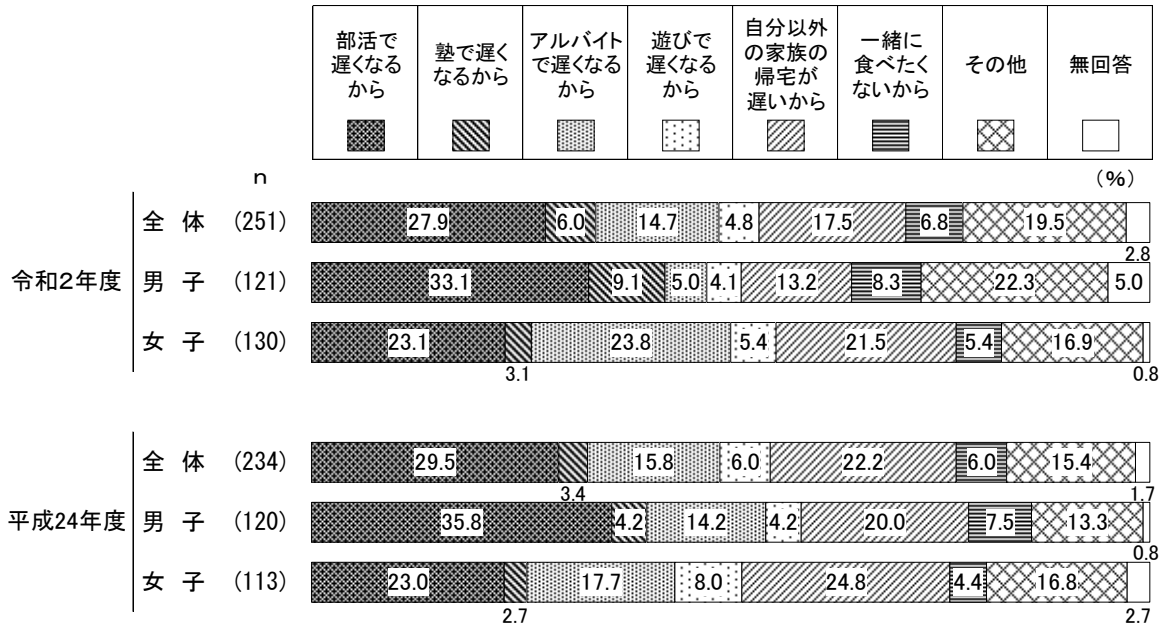
門限の時刻別で見ると、「毎日」は「午後7時前」で59.7%と高くなっている。「週4～6日」は「午後9時から11時前」で34.6%、「午後11時以降」で33.8%と高くなっている。

(5) 夕食を家族と食べない理由

問4で「食べない」と答えた方へ

問4-1 食べない(食べられない)理由は何ですか。最もあてはまる理由1つに○をつけてください。

図表2-5-1 夕食を家族と食べない理由(経年比較)



家族と一緒に夕食を「食べない」と答えた人(251人)に、夕食を家族と食べない理由を聞いたところ、「部活で遅くなるから」が27.9%で最も高く、次いで「自分以外の家族の帰宅が遅いから」(17.5%)、「アルバイトで遅くなるから」(14.7%)、「一緒に食べたくないから」(6.8%)となっている。

男女別で見ると、「アルバイトで遅くなるから」は女子(23.8%)が男子(5.0%)より18.8ポイント、「自分以外の家族の帰宅が遅いから」は女子(21.5%)が男子(13.2%)より8.3ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「部活で遅くなるから」は男子(33.1%)が女子(23.1%)より10.0ポイント、「塾で遅くなるから」は男子(9.1%)が女子(3.1%)より6.0ポイント、それぞれ高くなっている。

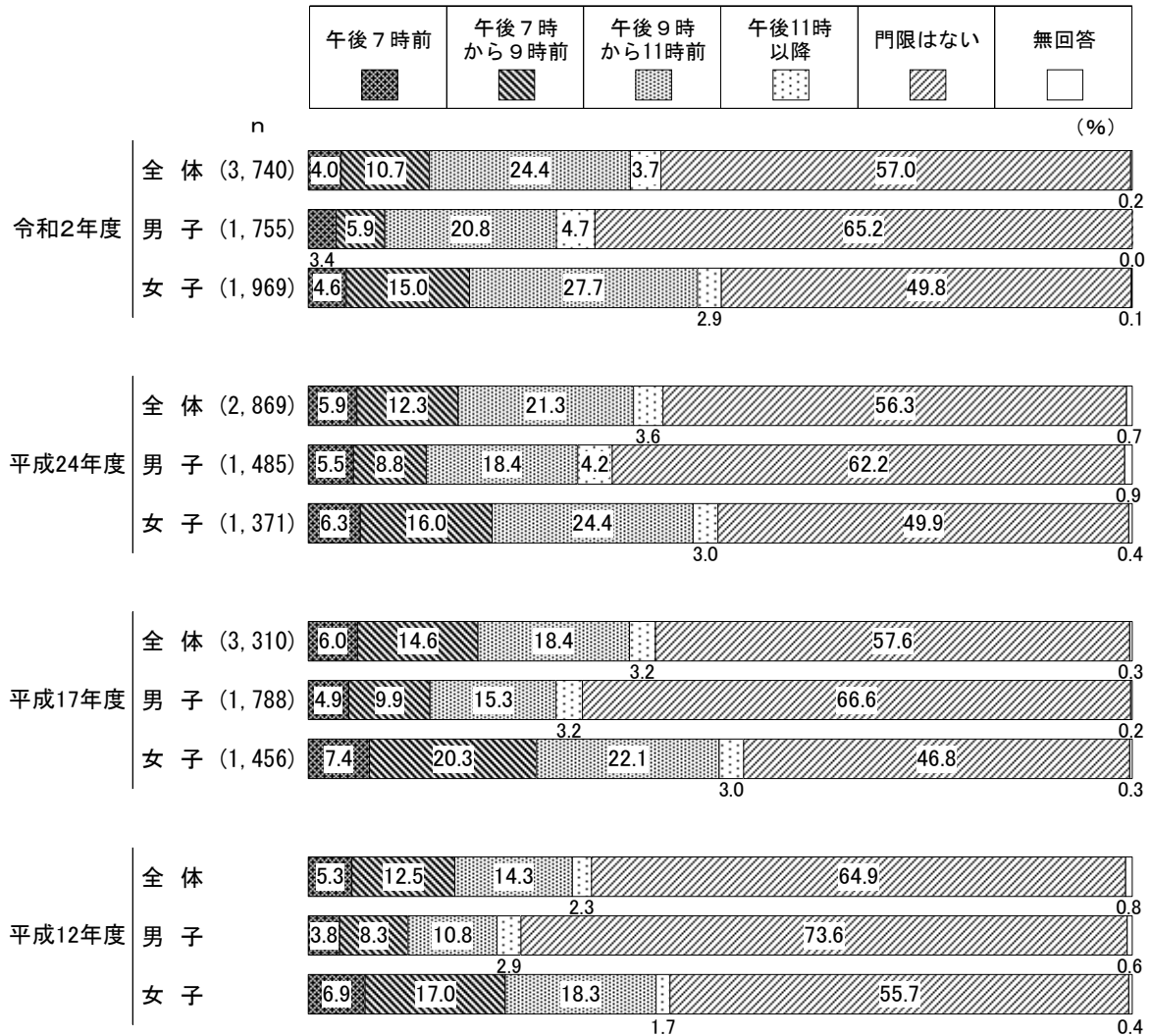
過去の調査と比較すると、全体では「自分以外の家族の帰宅が遅いから」は平成24年度より4.7ポイント減少している。

男女別では「アルバイトで遅くなるから」は平成24年度より女子で6.1ポイント、「塾で遅くなるから」は平成24年度より男子で4.9ポイント、それぞれ増加している。一方、「アルバイトで遅くなるから」は平成24年度より男子で9.2ポイント、「自分以外の家族の帰宅が遅いから」は平成24年度より男子で6.8ポイント、それぞれ減少している。

(6) 門限の時刻

問5 門限は何時ですか。

図表2-6-1 門限の時刻（経年比較）



門限の時刻を聞いたところ、「門限はない」が57.0%で最も高く、次いで「午後9時から11時前」(24.4%)、「午後7時から9時前」(10.7%)、「午後7時前」(4.0%)となっている。

男女別でみると、「門限はない」は男子(65.2%)が女子(49.8%)より15.4ポイント高くなっている。一方、「午後7時から9時前」は女子(15.0%)が男子(5.9%)より9.1ポイント、「午後9時から11時前」は女子(27.7%)が男子(20.8%)より6.9ポイント、それぞれ高くなっている。

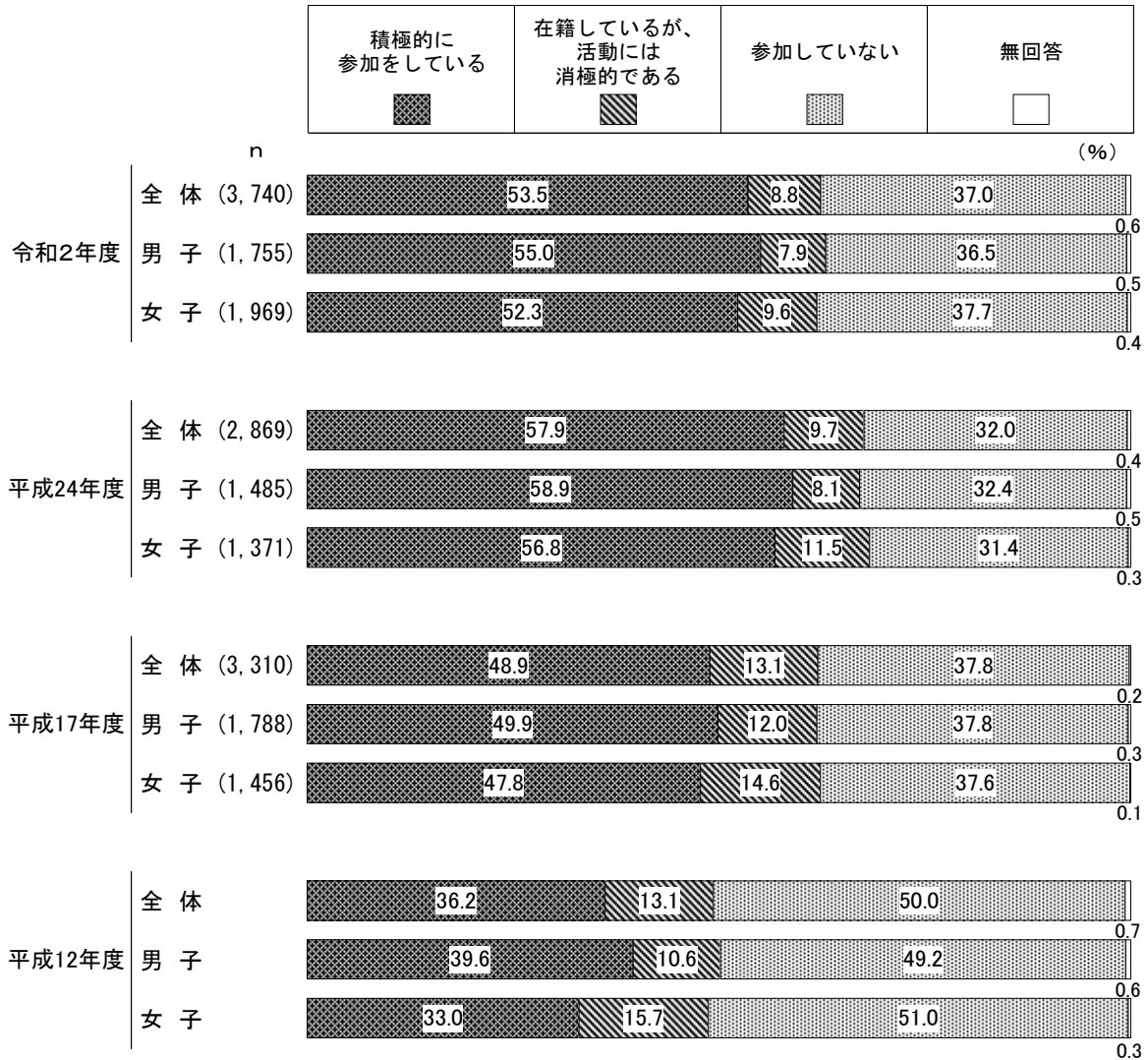
過去の調査と比較すると、全体では「午後9時から11時前」は平成24年度より3.1ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。

男女別では「午後9時から11時前」は平成24年度より女子で3.3ポイント、「門限はない」は平成24年度より男子で3.0ポイント、それぞれ増加している。

(7) クラブ活動参加状況

問6 クラブ活動は参加していますか。

図表2-7-1 クラブ活動参加状況（経年比較）



クラブ活動は参加しているか聞いたところ、「積極的に参加をしている」が53.5%、「在籍しているが、活動には消極的である」は8.8%となっている。一方、「参加していない」は37.0%となっている。

男女別でみると、男女間で大きな違いはみられない。

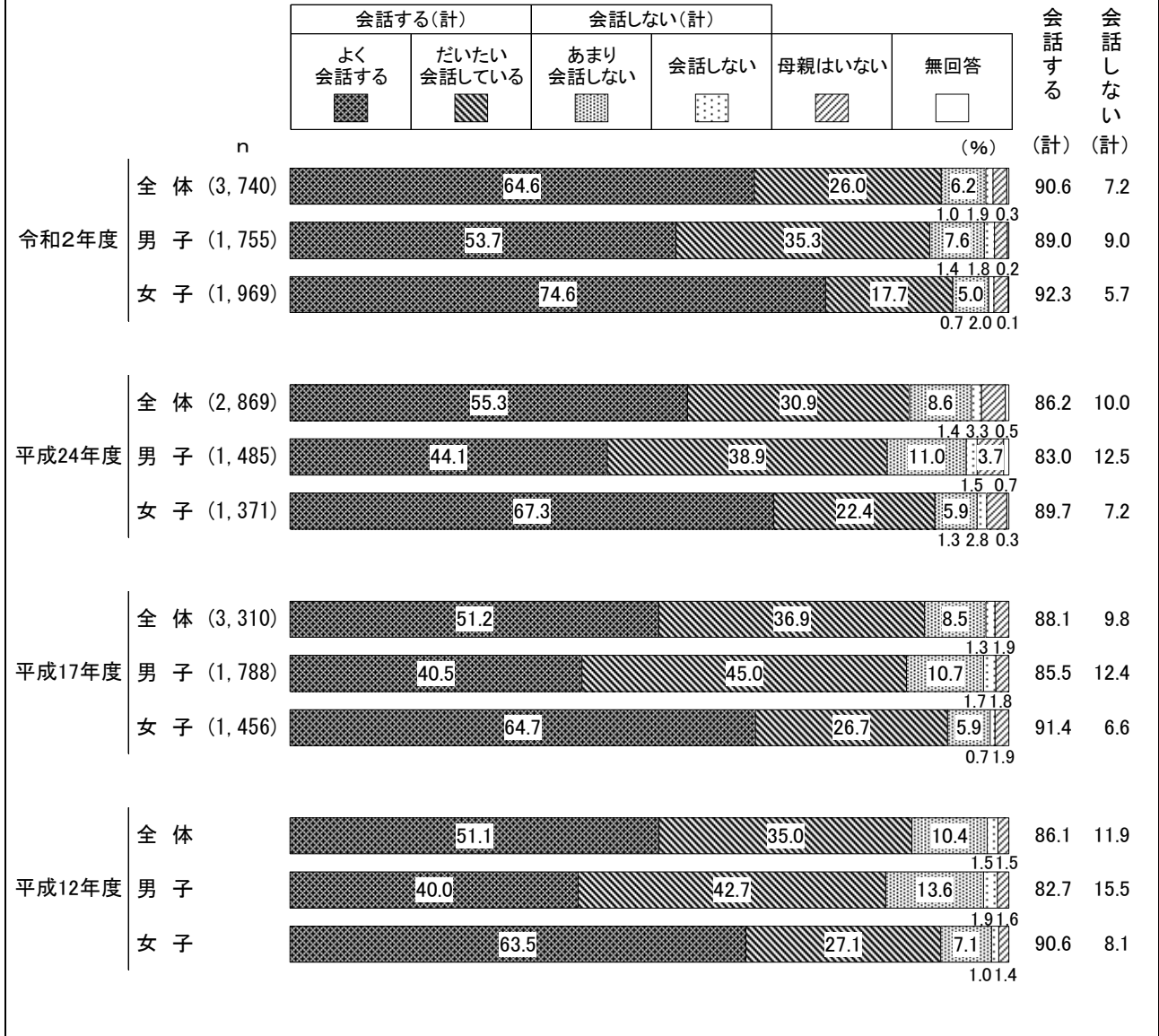
過去の調査と比較すると、全体では「参加していない」は平成24年度より5.0ポイント増加している。一方、「積極的に参加をしている」は平成24年度より4.4ポイント減少している。

男女別では「参加していない」は平成24年度より男子で4.1ポイント、女子で6.3ポイント、それぞれ増加している。一方、「積極的に参加をしている」は平成24年度より男子で3.9ポイント、女子で4.5ポイント、それぞれ減少している。

(8) 母親との会話の状況

問7 母親と会話をしていますか。

図表2-8-1 母親との会話の状況（経年比較）



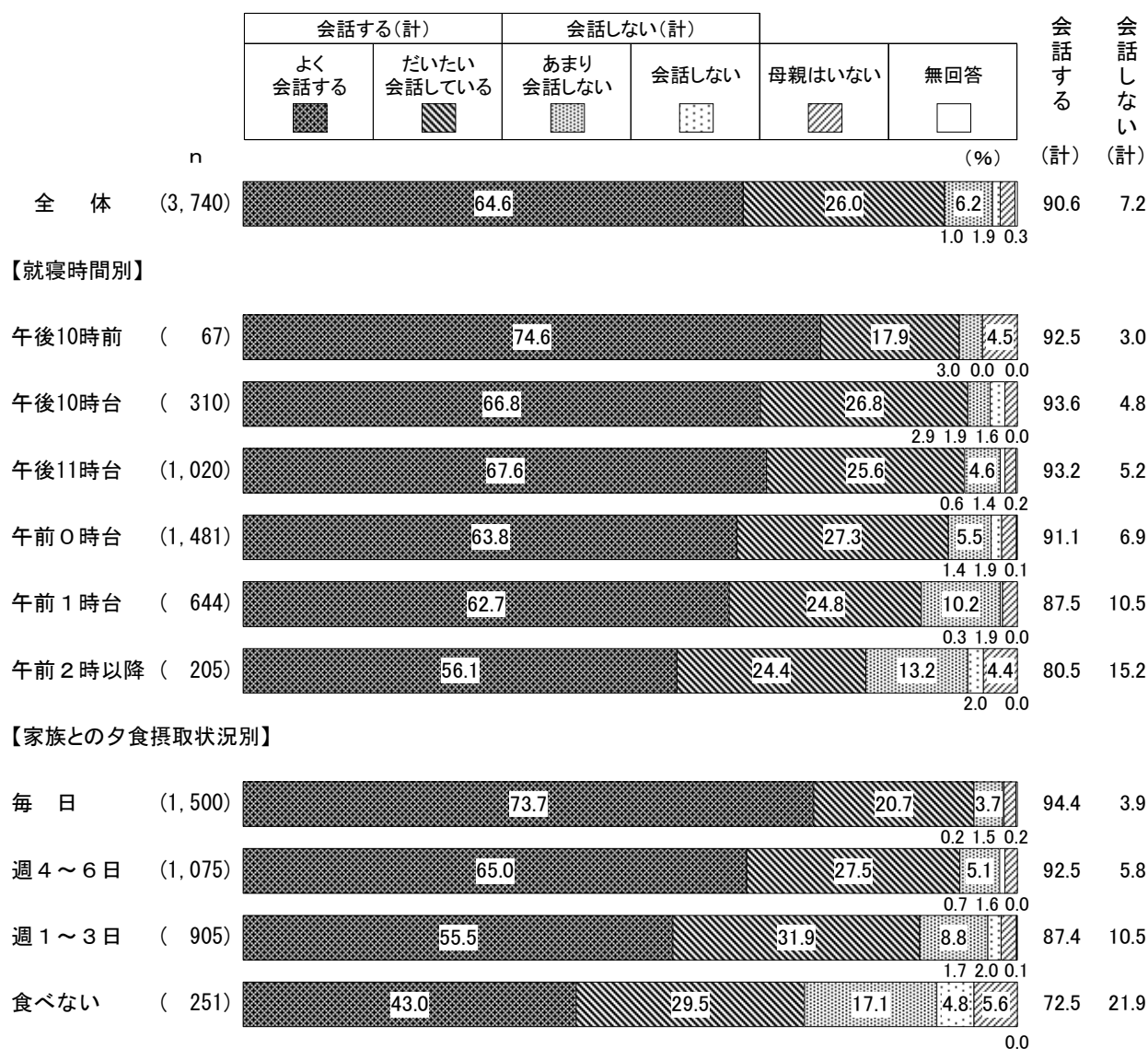
母親と会話をしているか聞いたところ、「よく会話する」が64.6%で最も高く、これに「だいたい会話している」(26.0%)を合わせた『会話する(計)』は90.6%となっている。一方、「あまり会話しない」(6.2%)と「会話しない」(1.0%)を合わせた『会話しない(計)』は7.2%となっている。

男女別で見ると、『会話する(計)』は女子(92.3%)が男子(89.0%)より3.3ポイント高くなっている。

過去の調査と比較すると、全体では『会話する(計)』は平成24年度より4.4ポイント増加している。

男女別では『会話する(計)』は平成24年度より男子で6.0ポイント増加している。

図表 2-8-2 母親との会話の状況（就寝時間別、家族との夕食摂取状況別）



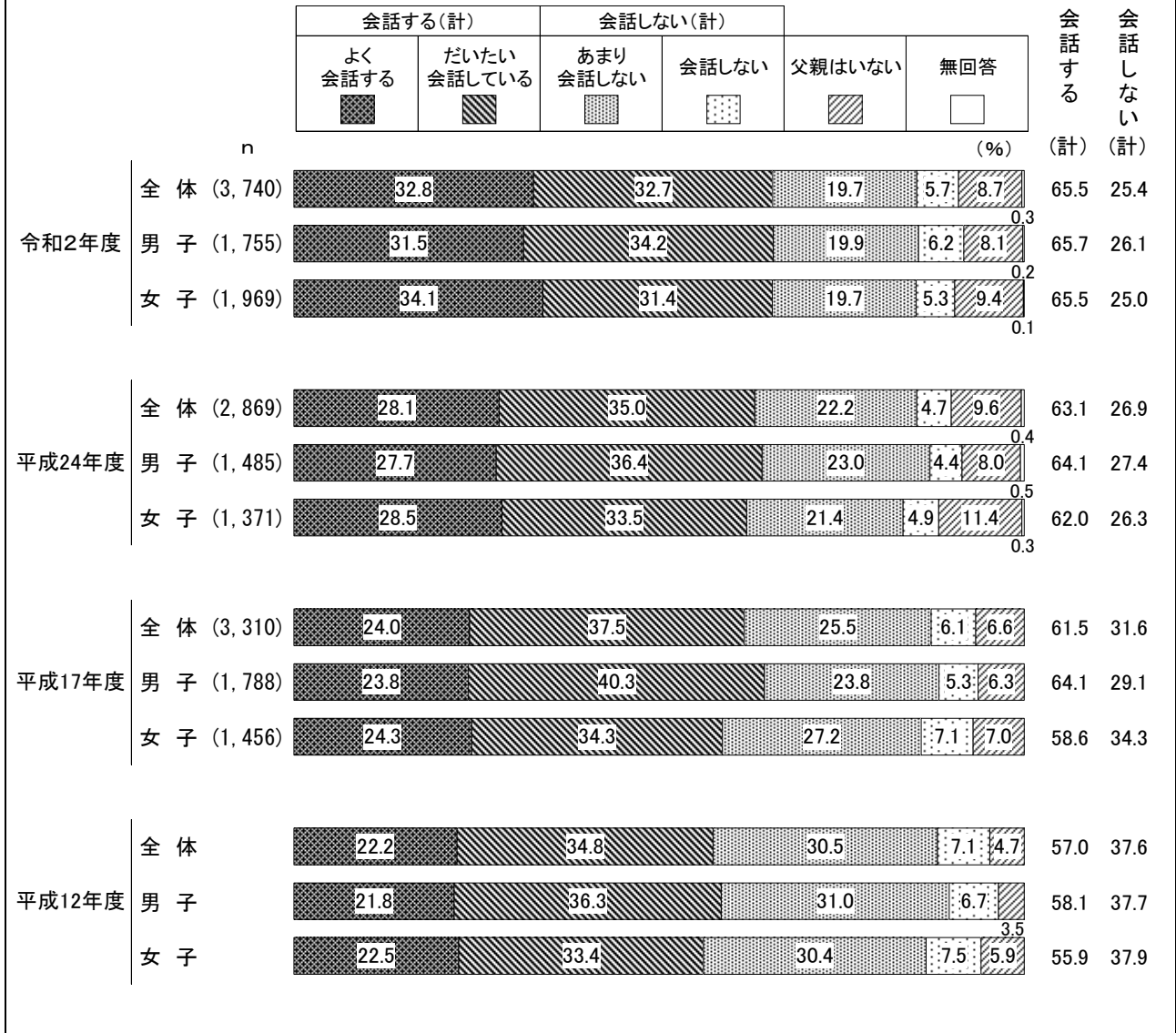
就寝時間別でみると、「よく会話する」はおおむね就寝時間が早くなるほど割合が高く、“午後10時前”で74.6%と高くなっている。

家族との夕食摂取状況別でみると、『会話する(計)』は家族との夕食摂取頻度が高くなるほど割合が高く、“毎日”で94.4%と高くなっている。一方、『会話しない(計)』は“食べない”で21.9%と高くなっている。

(9) 父親との会話の状況

問8 父親と会話をしていますか。

図表2-9-1 父親との会話の状況（経年比較）



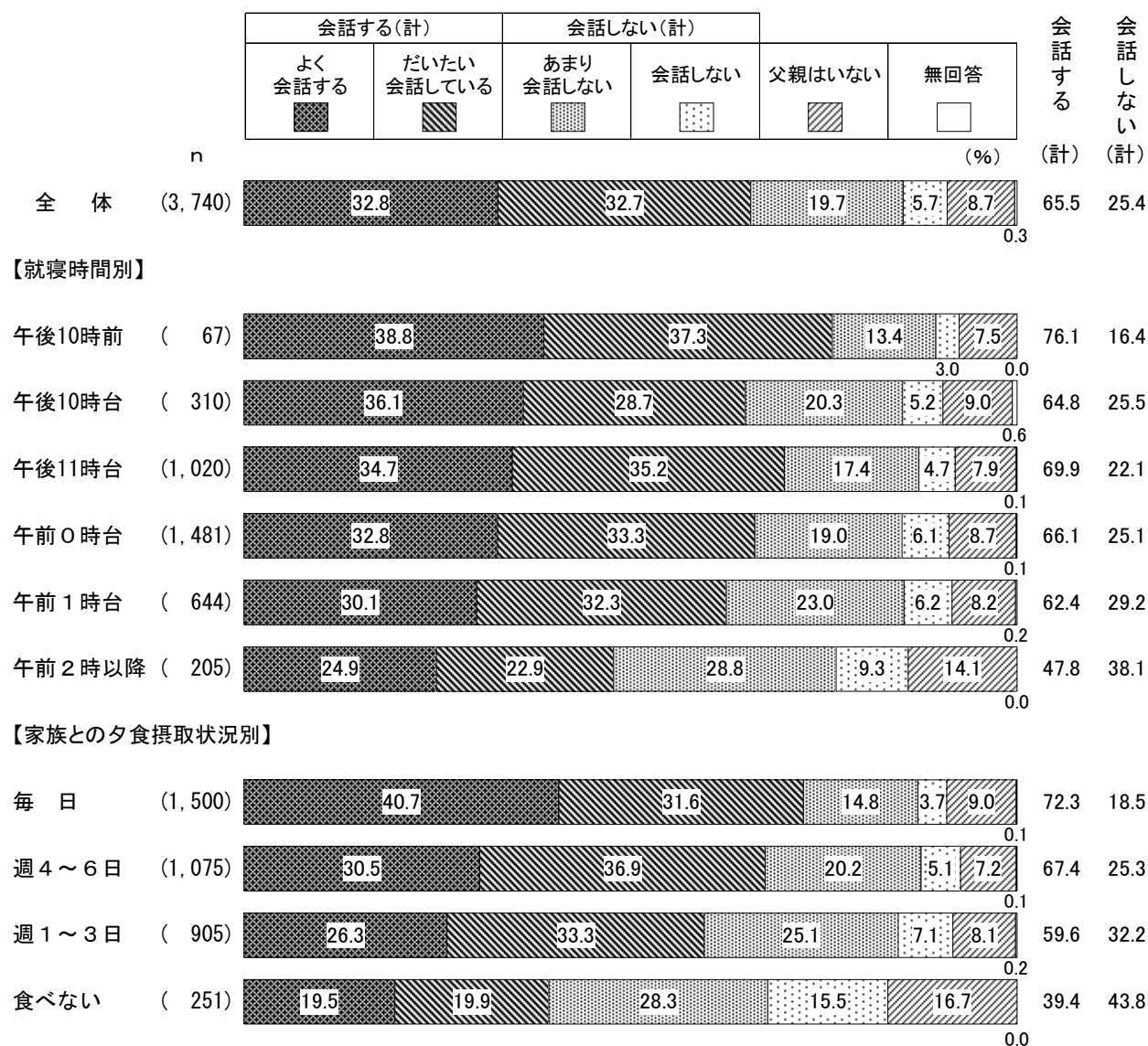
父親と会話をしているか聞いたところ、「よく会話する」が32.8%で最も高く、これに「だいたい会話している」(32.7%)を合わせた『会話する(計)』は65.5%となっている。一方、「あまり会話しない」(19.7%)と「会話しない」(5.7%)を合わせた『会話しない(計)』は25.4%となっている。

男女別でみると、男女間で大きな違いはみられない。

過去の調査と比較すると、全体では「よく会話する」は平成24年度より4.7ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。

男女別では『会話する(計)』は平成24年度より女子で3.5ポイント増加している。

図表 2-9-2 父親との会話の状況（就寝時間別、家族との夕食摂取状況別）



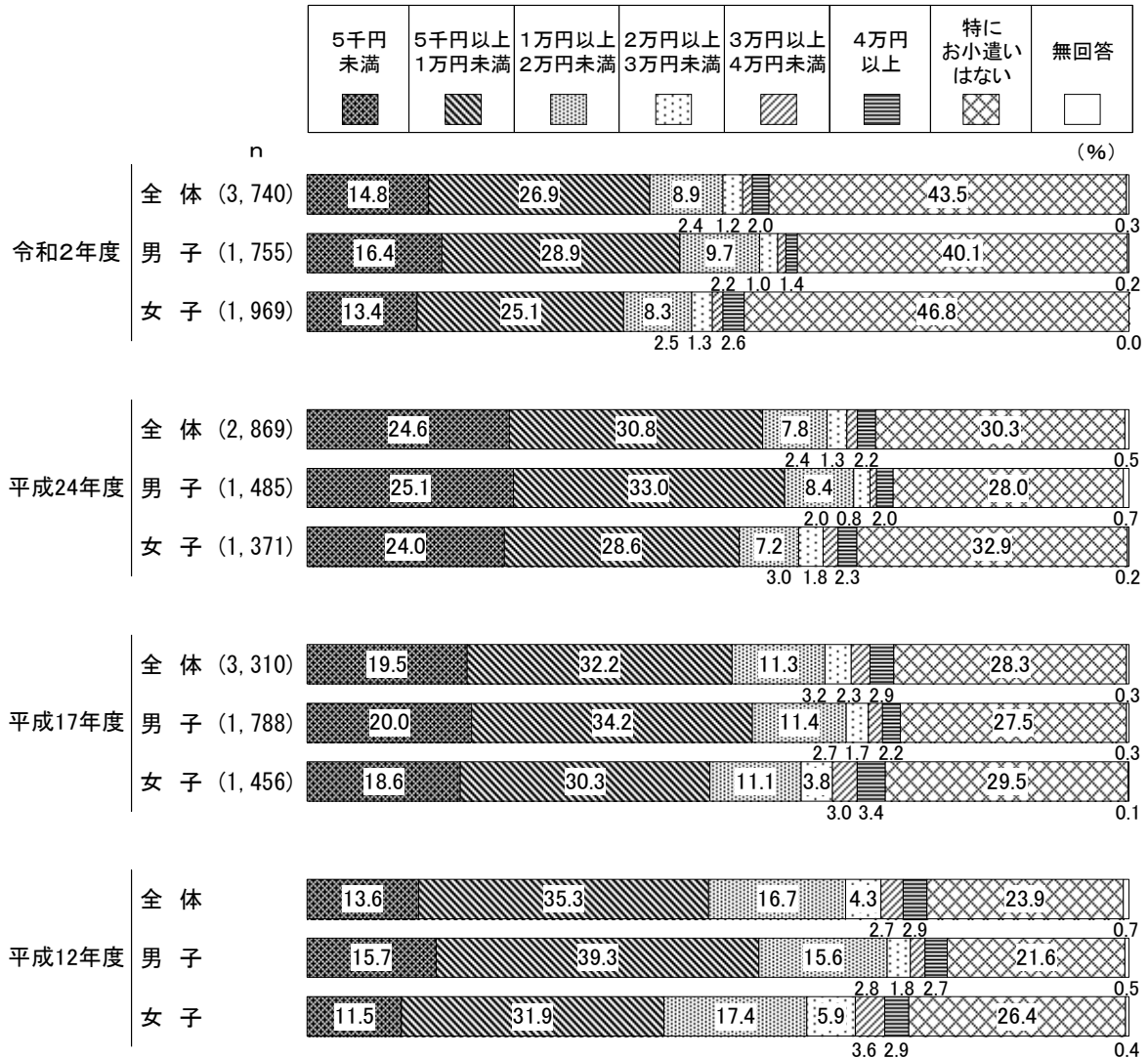
就寝時間別で見ると、「よく会話する」は就寝時間が早くなるほど割合が高く、“午後10時前”で38.8%と高くなっている。『会話する(計)』は“午後10時前”で76.1%と高くなっている。一方、『会話しない(計)』は“午前2時以降”で38.1%と高くなっている。

家族との夕食摂取状況別で見ると、『会話する(計)』は家族との夕食摂取頻度が高くなるほど割合が高く、“毎日”で72.3%と高くなっている。一方、『会話しない(計)』は“食べない”で43.8%と高くなっている。

(10) 毎月の小遣い

問9 お小遣い（自由に使えるお金）は毎月どのくらいですか。

図表2-10-1 毎月の小遣い（経年比較）



お小遣いは毎月どのくらいか聞いたところ、「特にお小遣いはない」が43.5%で最も高く、次いで「5千円以上1万円未満」（26.9%）、「5千円未満」（14.8%）、「1万円以上2万円未満」（8.9%）となっている。

男女別でみると、「特にお小遣いはない」は女子（46.8%）が男子（40.1%）より6.7ポイント高くなっている。一方、「5千円以上1万円未満」は男子（28.9%）が女子（25.1%）より3.8ポイント高くなっている。

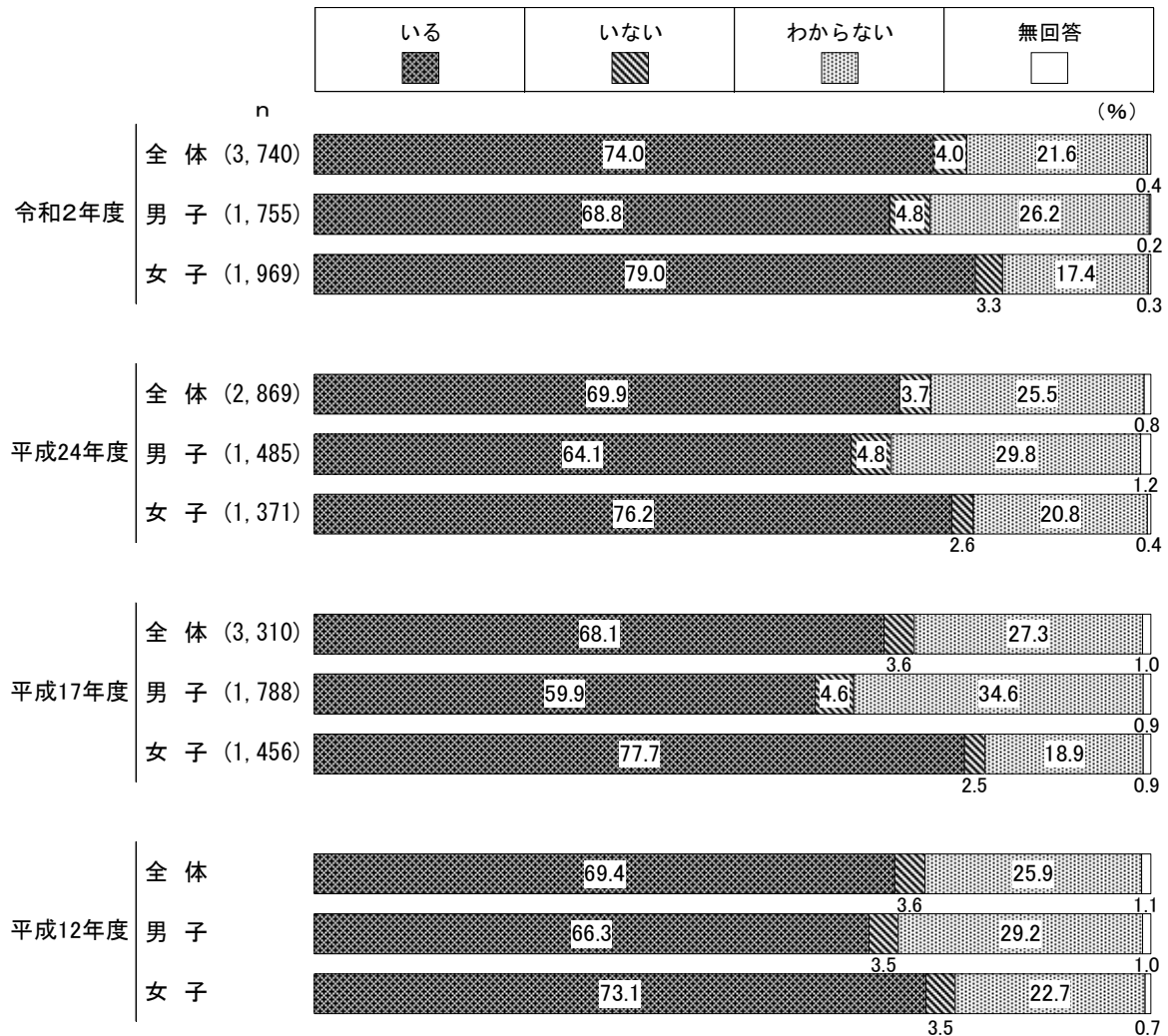
過去の調査と比較すると、全体では「特にお小遣いはない」は平成24年度より13.3ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。一方、「5千円未満」は平成24年度より9.8ポイント減少している。

男女別では「特にお小遣いはない」は平成24年度より男子で12.1ポイント、女子で13.9ポイント、それぞれ増加している。一方、「5千円未満」は平成24年度より男子で8.7ポイント、女子で10.6ポイント、それぞれ減少している。

(11) 親友の有無

問10 あなたには親友がいますか。いる場合には、カッコ内に親友の人数を書いてください。

図表2-11-1 親友の有無（経年比較）



親友がいるか聞いたところ、「いる」が74.0%、「いない」は4.0%となっている。また、「わからない」は21.6%となっている。

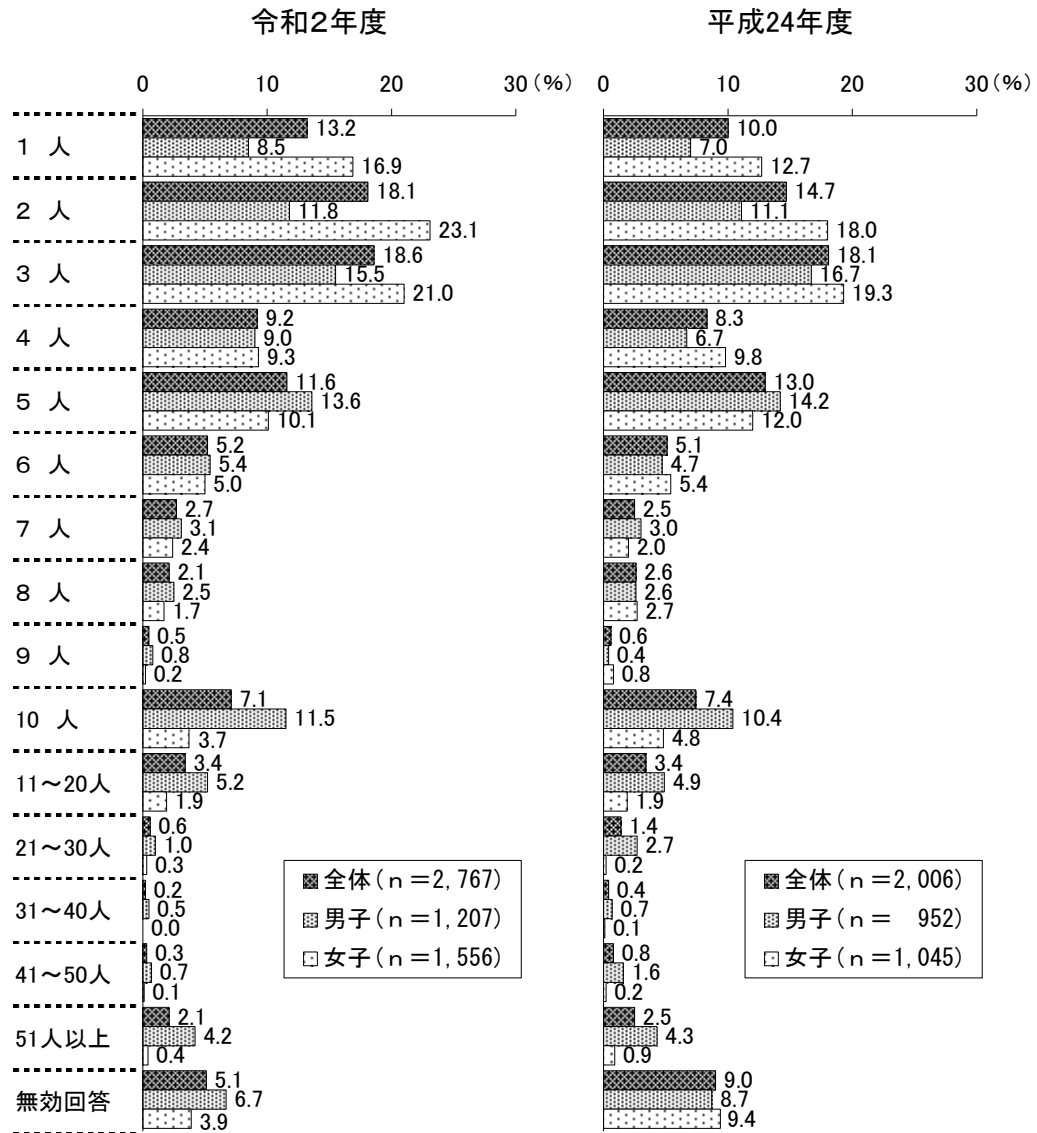
男女別で見ると、「いる」は女子（79.0%）が男子（68.8%）より10.2ポイント高くなっている。一方、「わからない」は男子（26.2%）が女子（17.4%）より8.8ポイント高くなっている。

過去の調査と比較すると、全体では「いる」は平成24年度より4.1ポイント増加している。男女別では「いる」は平成24年度より男子で4.7ポイント増加している。

(11-1) 親友の人数

問10 あなたには親友がいますか。いる場合には、カッコ内に親友の人数を書いてください。

図表2-11-2 親友の人数（経年比較）



親友が「いる」と答えた人（2,767人）に、親友の人数を聞いたところ、「3人」が18.6%で最も高く、次いで「2人」（18.1%）、「1人」（13.2%）、「5人」（11.6%）となっている。

男女別でみると、「10人」は男子（11.5%）が女子（3.7%）より7.8ポイント高くなっている。一方、「2人」は女子（23.1%）が男子（11.8%）より11.3ポイント、「1人」は女子（16.9%）が男子（8.5%）より8.4ポイント、それぞれ高くなっている。

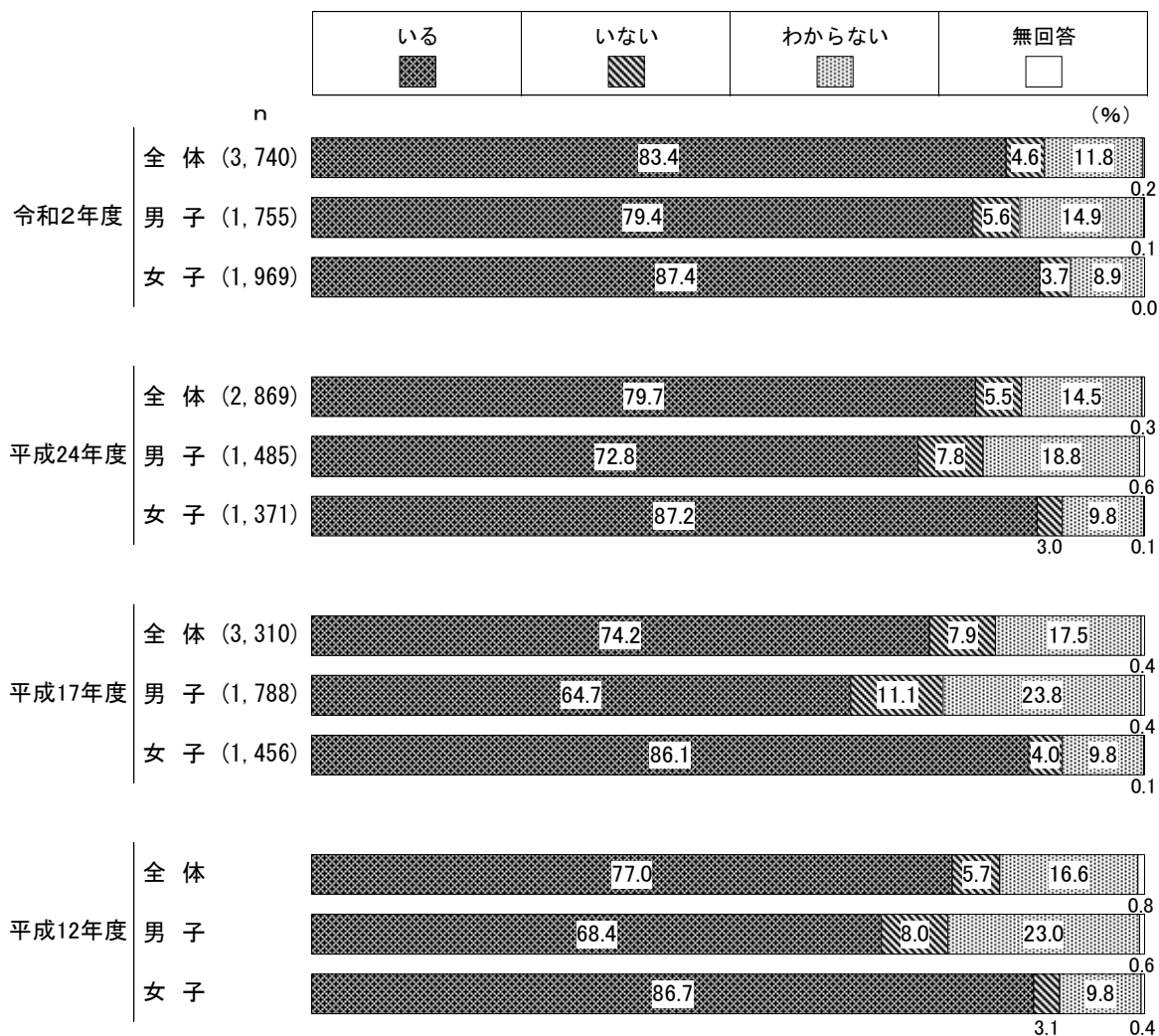
過去の調査と比較すると、全体では「2人」は平成24年度より3.4ポイント、「1人」は平成24年度より3.2ポイント、それぞれ増加している。

男女別では「2人」は平成24年度より女子で5.1ポイント、「1人」は平成24年度より女子で4.2ポイント、それぞれ増加している。

(12) 悩みの相談相手の有無

問11 悩みを相談できる人はいますか。

図表 2-12-1 悩みの相談相手の有無（経年比較）



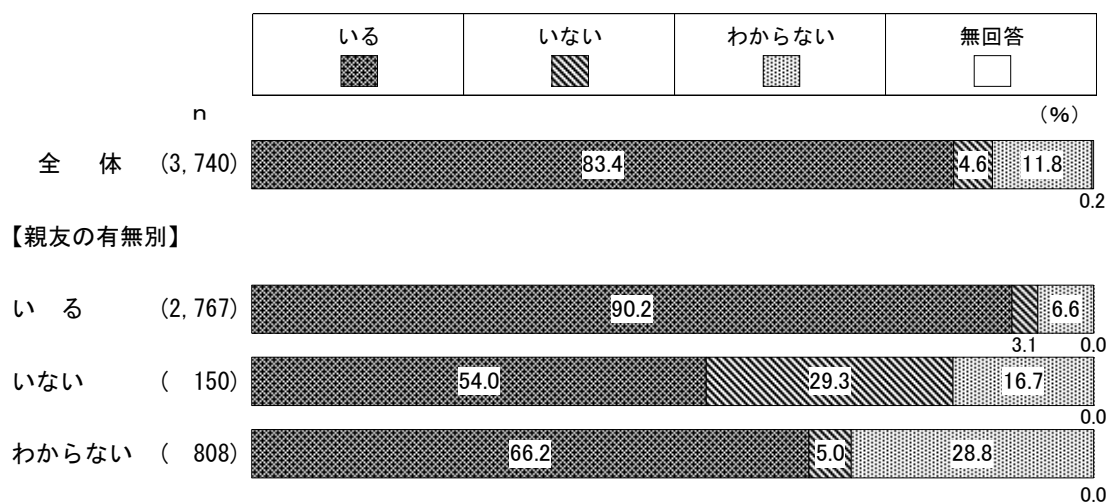
悩みを相談できる人はいるか聞いたところ、「いる」が83.4%、「いない」は4.6%となっている。また、「わからない」は11.8%となっている。

男女別でみると、「いる」は女子（87.4%）が男子（79.4%）より8.0ポイント高くなっている。一方、「わからない」は男子（14.9%）が女子（8.9%）より6.0ポイント高くなっている。

過去の調査と比較すると、全体では「いる」は平成24年度より3.7ポイント増加しており、平成17年度以降増加傾向にある。

男女別では「いる」は平成24年度より男子で6.6ポイント増加している。

図表 2-12-2 悩みの相談相手の有無（親友の有無別）



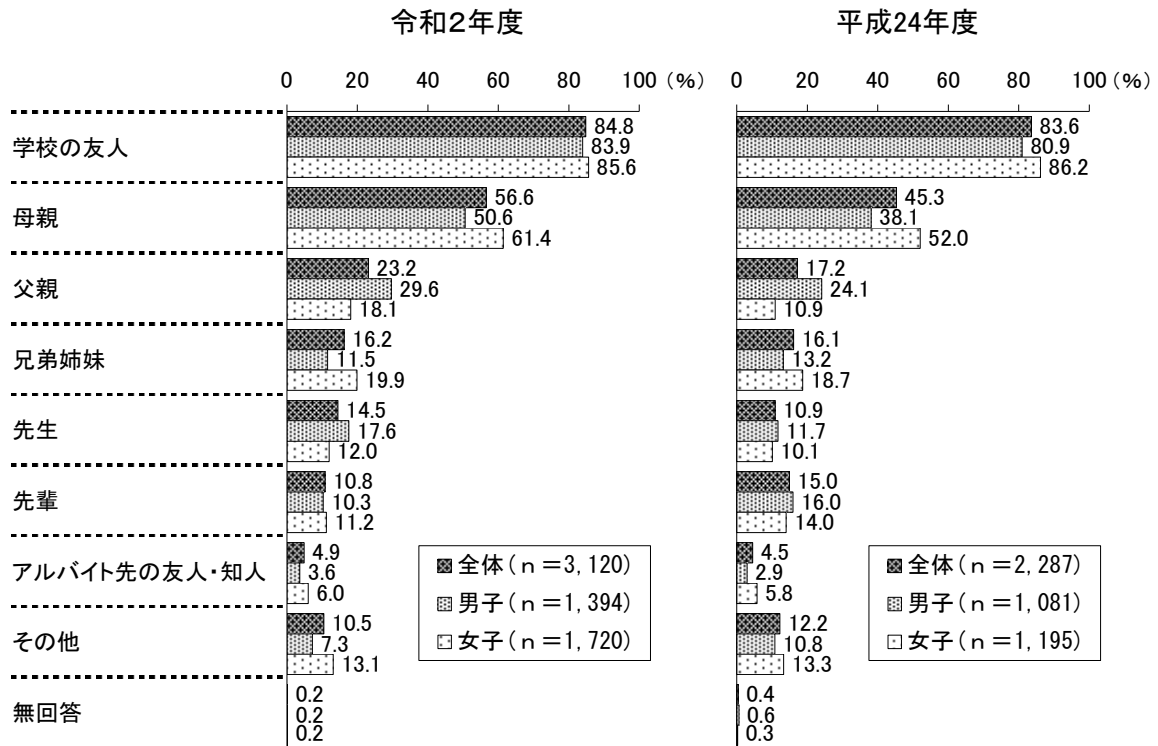
親友の有無別で見ると、「いる」は“親友がいる人”（90.2%）が“親友がいない人”（54.0%）より36.2ポイント高くなっている。一方、「いない」は“親友がいない人”（29.3%）が“親友がいる人”（3.1%）より26.2ポイント高くなっている。

(13) 悩みの相談相手

問11で「いる」と答えた方へ

問11-1 相談できる人とは誰ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

図表2-13-1 悩みの相談相手（経年比較）〔複数回答〕



悩みを相談できる人が「いる」と答えた人（3,120人）に、悩みの相談相手を聞いたところ、「学校の友人」が84.8%で最も高く、次いで「母親」（56.6%）、「父親」（23.2%）、「兄弟姉妹」（16.2%）となっている。

男女別で見ると、「父親」は男子（29.6%）が女子（18.1%）より11.5ポイント、「先生」は男子（17.6%）が女子（12.0%）より5.6ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「母親」は女子（61.4%）が男子（50.6%）より10.8ポイント、「兄弟姉妹」は女子（19.9%）が男子（11.5%）より8.4ポイント、それぞれ高くなっている。

過去の調査と比較すると、全体では「母親」は平成24年度より11.3ポイント、「父親」は平成24年度より6.0ポイント、それぞれ増加している。一方、「先輩」は平成24年度より4.2ポイント減少している。

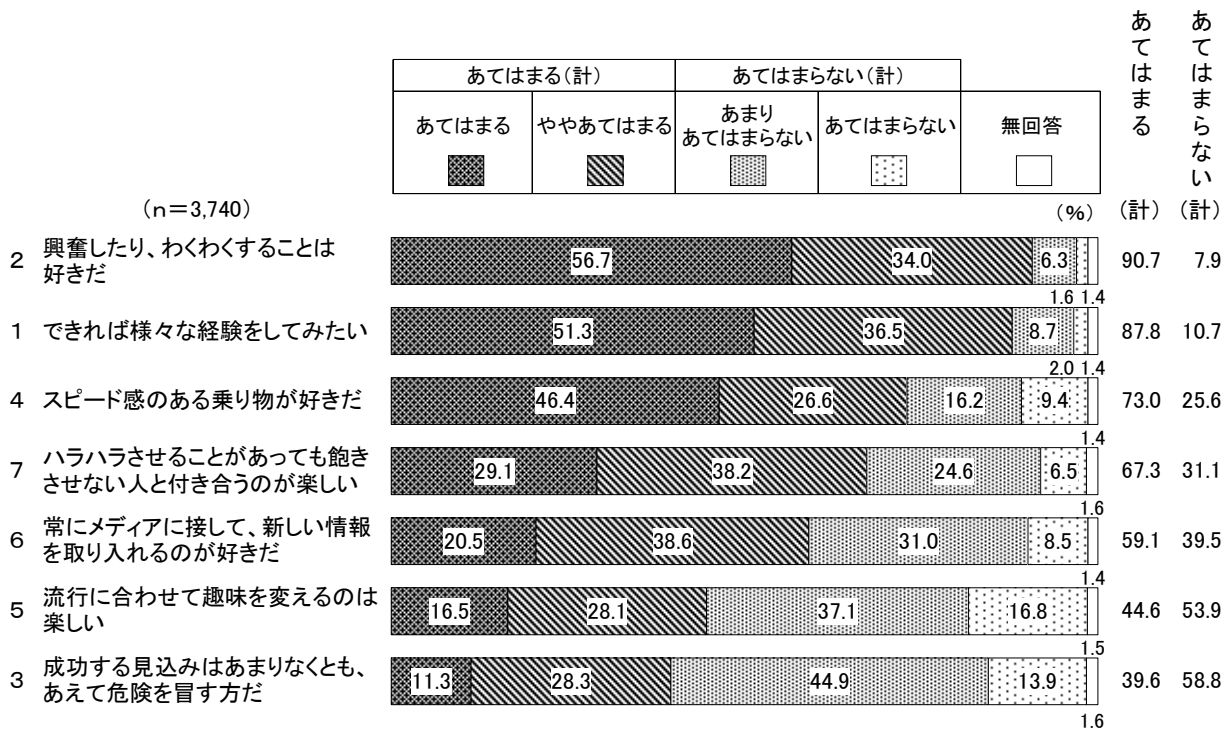
男女別では「母親」は平成24年度より男子で12.5ポイント、女子で9.4ポイント、それぞれ増加している。一方、「先輩」は平成24年度より男子で5.7ポイント減少している。

(14) 日頃の意識

①刺激欲求意識

問12 次の16の質問について、最もあてはまる選択肢の番号に1つだけ○をつけてください。

図表2-14-1 日頃の意識-①刺激欲求意識

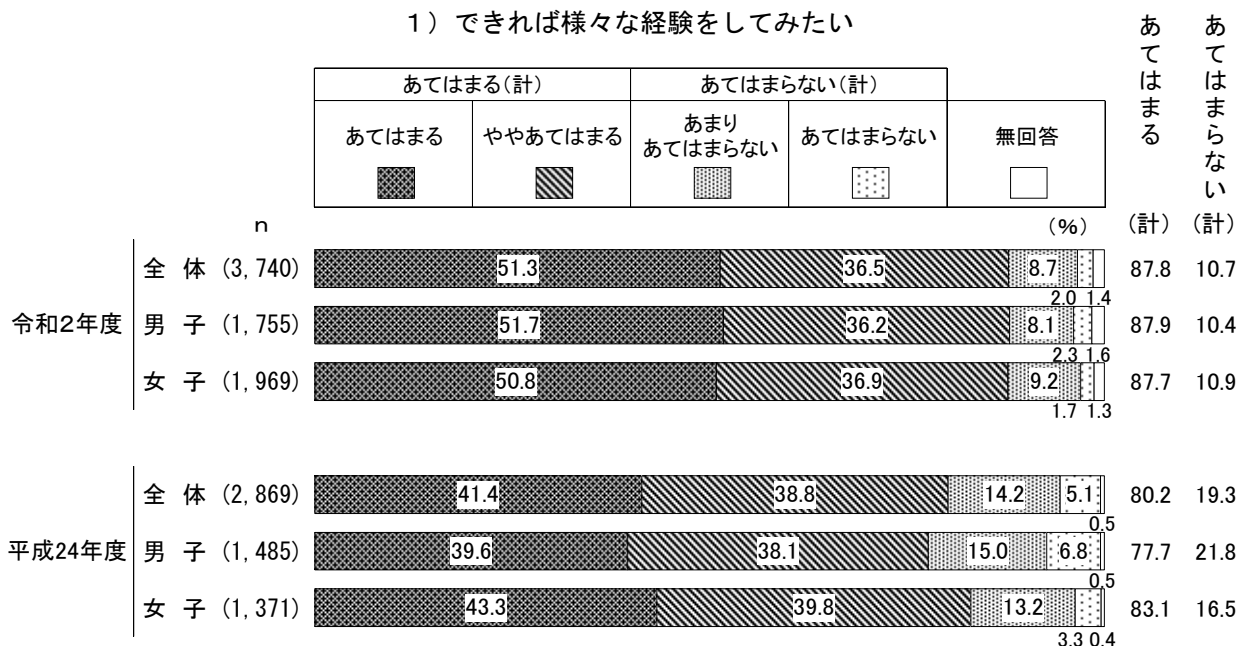


スリルがあること、危険なことに対する欲求を7項目に分けて聞いたところ、「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた『あてはまる(計)』は、“興奮したり、わくわくすることは好きだ”で90.7%と最も高く、次いで“できれば様々な経験をしてみたい”(87.8%)、“スピード感のある乗り物が好きだ”(73.0%)となっている。

一方、「あてはまらない」と「あまりあてはまらない」を合わせた『あてはまらない(計)』は、“成功する見込みはあまりなくとも、あえて危険を冒す方だ”で58.8%と最も高く、次いで“流行に合わせて趣味を変えるのは楽しい”(53.9%)、“常にメディアに接して、新しい情報を取り入れるのが好きだ”(39.5%)となっている。

図表 2-14-2 日頃の意識-①刺激欲求意識（経年比較）

1) できれば様々な経験をしてみたい

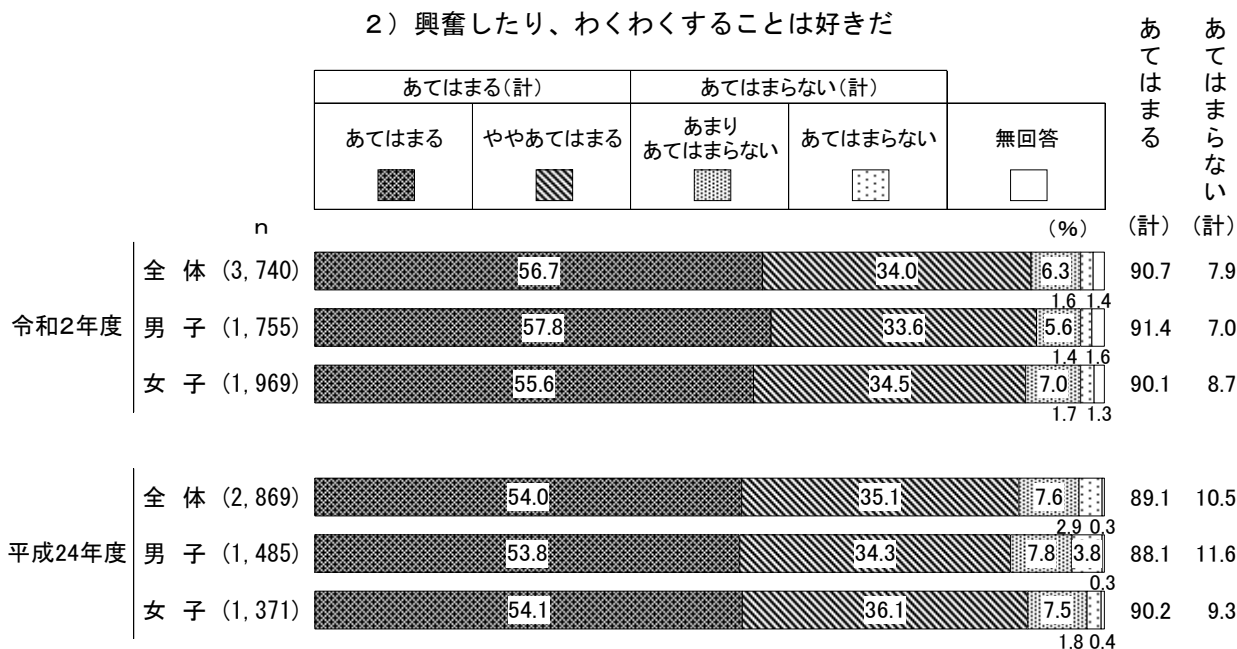


「できれば様々な経験をしてみたい」を過去の調査と比較すると、全体では『あてはまる（計）』は平成24年度より7.6ポイント増加している。

男女別では『あてはまる（計）』は平成24年度より男子で10.2ポイント、女子で4.6ポイント、それぞれ増加している。

図表 2-14-3 日頃の意識-①刺激欲求意識（経年比較）

2) 興奮したり、わくわくすることは好きだ

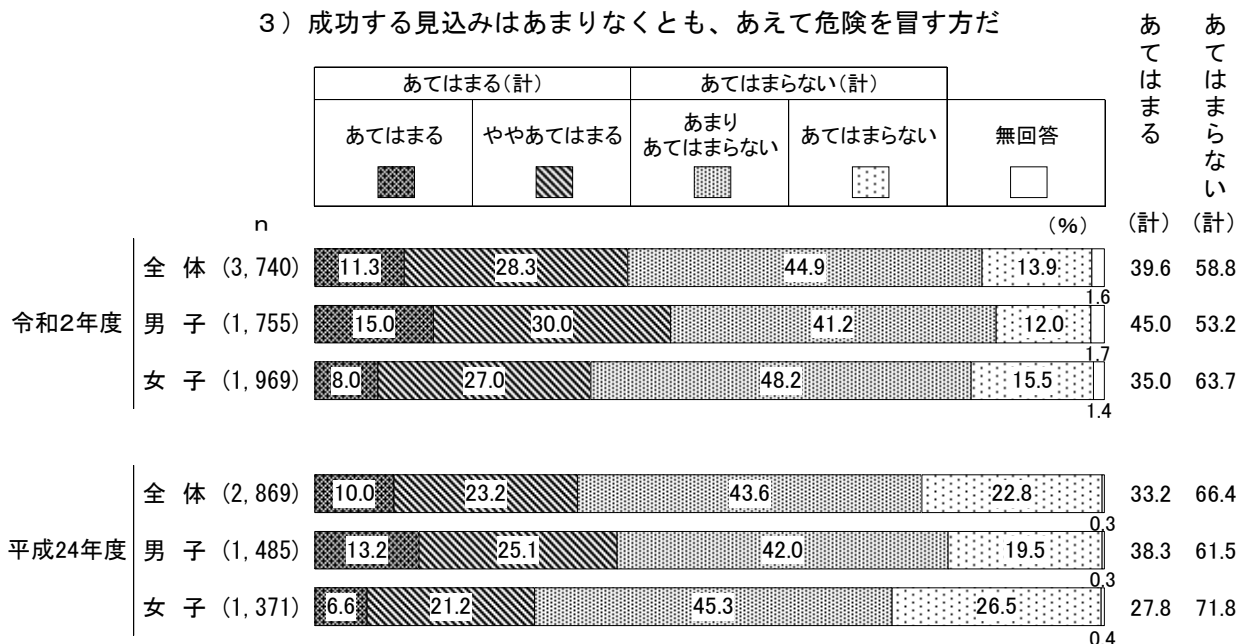


「興奮したり、わくわくすることは好きだ」を過去の調査と比較すると、全体では大きな傾向の変化はみられない。

男女別では『あてはまる（計）』は平成24年度より男子で3.3ポイント増加している。

図表 2-14-4 日頃の意識-①刺激欲求意識（経年比較）

3) 成功する見込みはあまりなくとも、あえて危険を冒す方だ

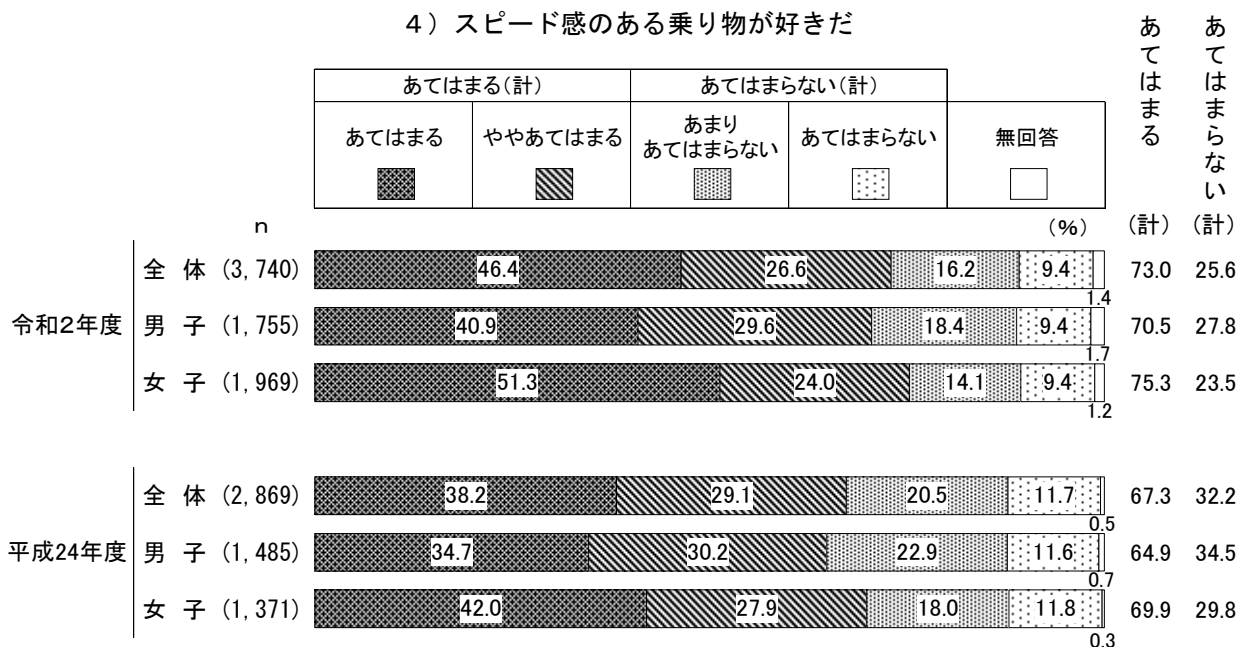


「成功する見込みはあまりなくとも、あえて危険を冒す方だ」を過去の調査と比較すると、全体では『あてはまる（計）』は平成24年度より6.4ポイント増加している。

男女別では『あてはまる（計）』は平成24年度より男子で6.7ポイント、女子で7.2ポイント、それぞれ増加している。

図表 2-14-5 日頃の意識-①刺激欲求意識（経年比較）

4) スピード感のある乗り物が好きだ

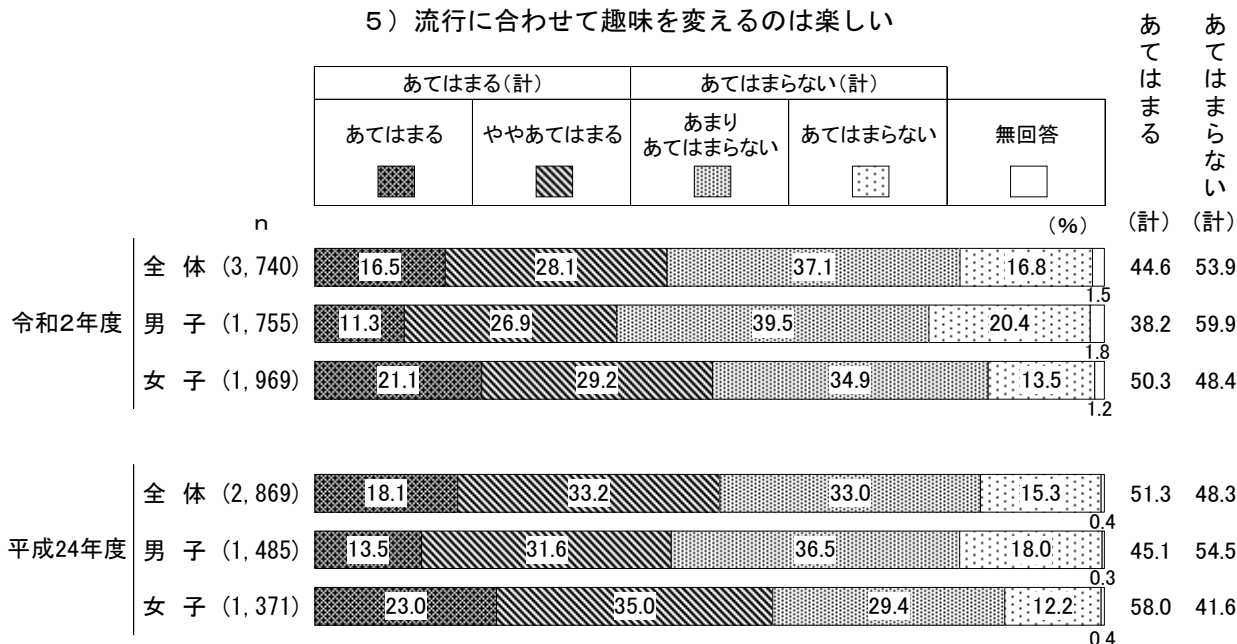


「スピード感のある乗り物が好きだ」を過去の調査と比較すると、全体では『あてはまる（計）』は平成24年度より5.7ポイント増加している。

男女別では『あてはまる（計）』は平成24年度より男子で5.6ポイント、女子で5.4ポイント、それぞれ増加している。

図表 2-14-6 日頃の意識-①刺激欲求意識（経年比較）

5) 流行に合わせて趣味を変えるのは楽しい

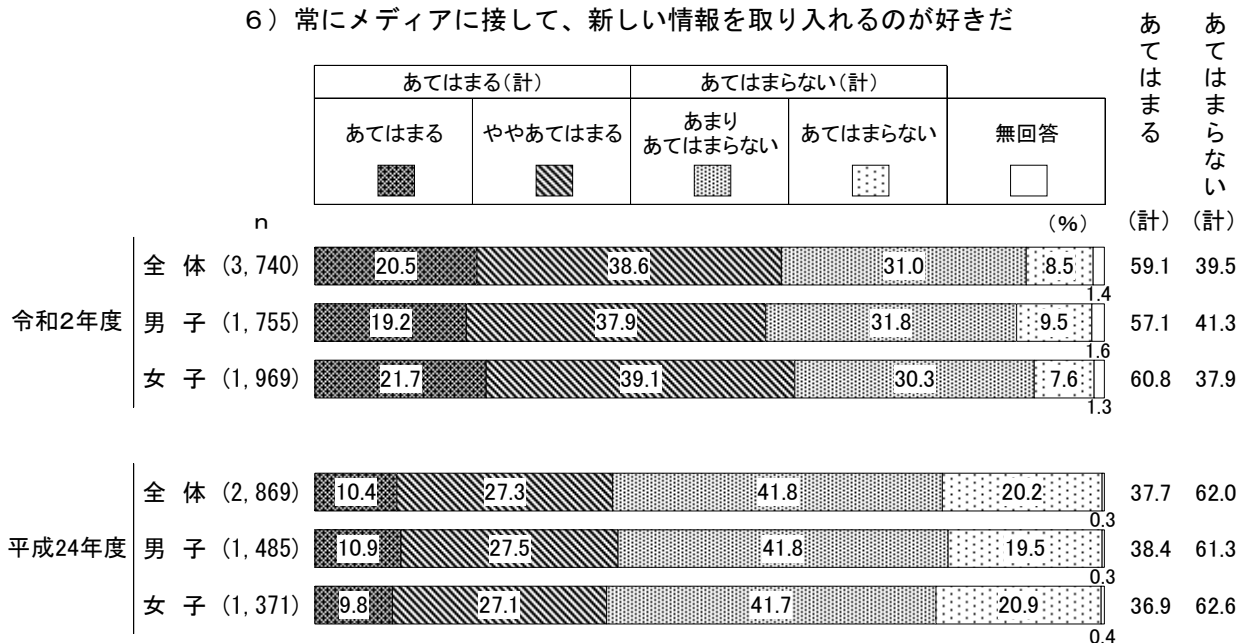


「流行に合わせて趣味を変えるのは楽しい」を過去の調査と比較すると、全体では『あてはまらない(計)』は平成24年度より5.6ポイント増加している。

男女別では『あてはまらない(計)』は平成24年度より男子で5.4ポイント、女子で6.8ポイント、それぞれ増加している。

図表 2-14-7 日頃の意識-①刺激欲求意識（経年比較）

6) 常にメディアに接して、新しい情報を取り入れるのが好きだ

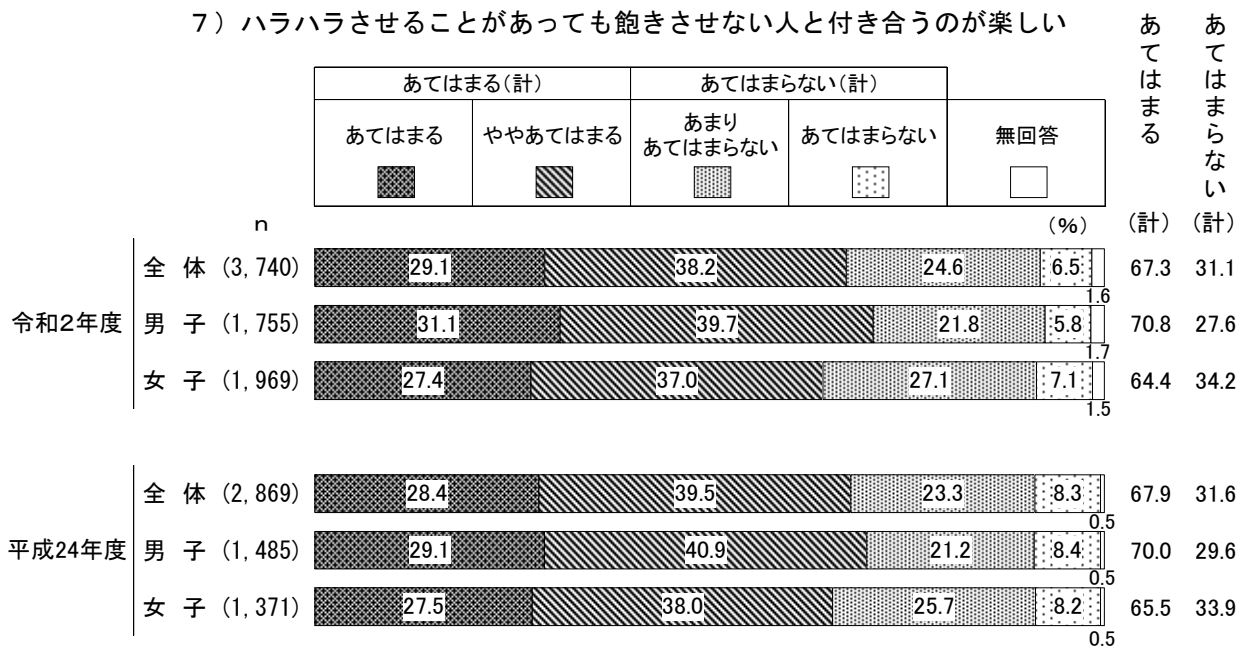


「常にメディアに接して、新しい情報を取り入れるのが好きだ」を過去の調査と比較すると、全体では『あてはまる(計)』は平成24年度より21.4ポイント増加している。

男女別では『あてはまる(計)』は平成24年度より男子で18.7ポイント、女子で23.9ポイント、それぞれ増加している。

図表 2-14-8 日頃の意識-①刺激欲求意識（経年比較）

7) ハラハラさせることがあっても飽きさせない人と付き合うのが楽しい

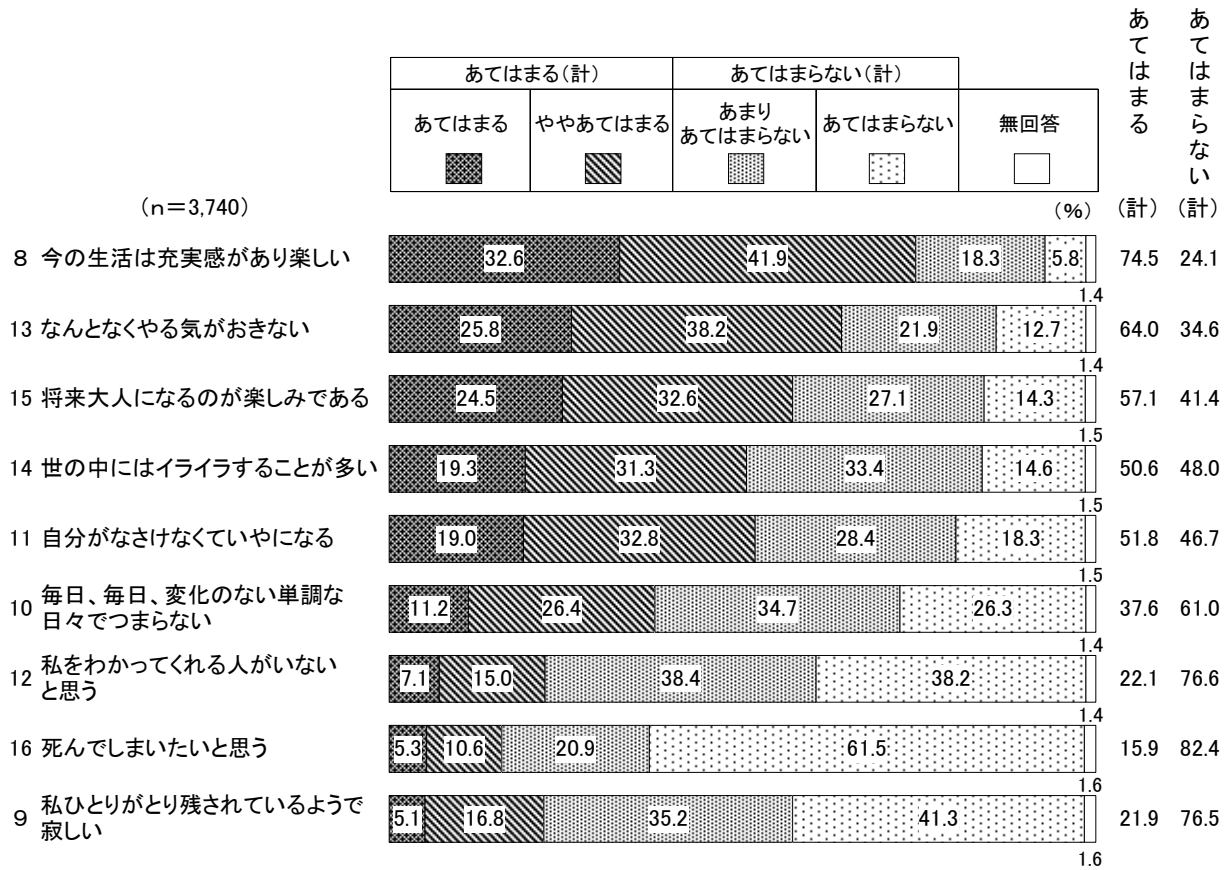


「ハラハラさせることがあっても飽きさせない人と付き合うのが楽しい」を過去の調査と比較すると、全体、男女別ともに大きな傾向の変化はみられない。

②生活感情意識

問12 次の16の質問について、最もあてはまる選択肢の番号に1つだけ○をつけてください。

図表2-14-9 日頃の意識-②生活感情意識

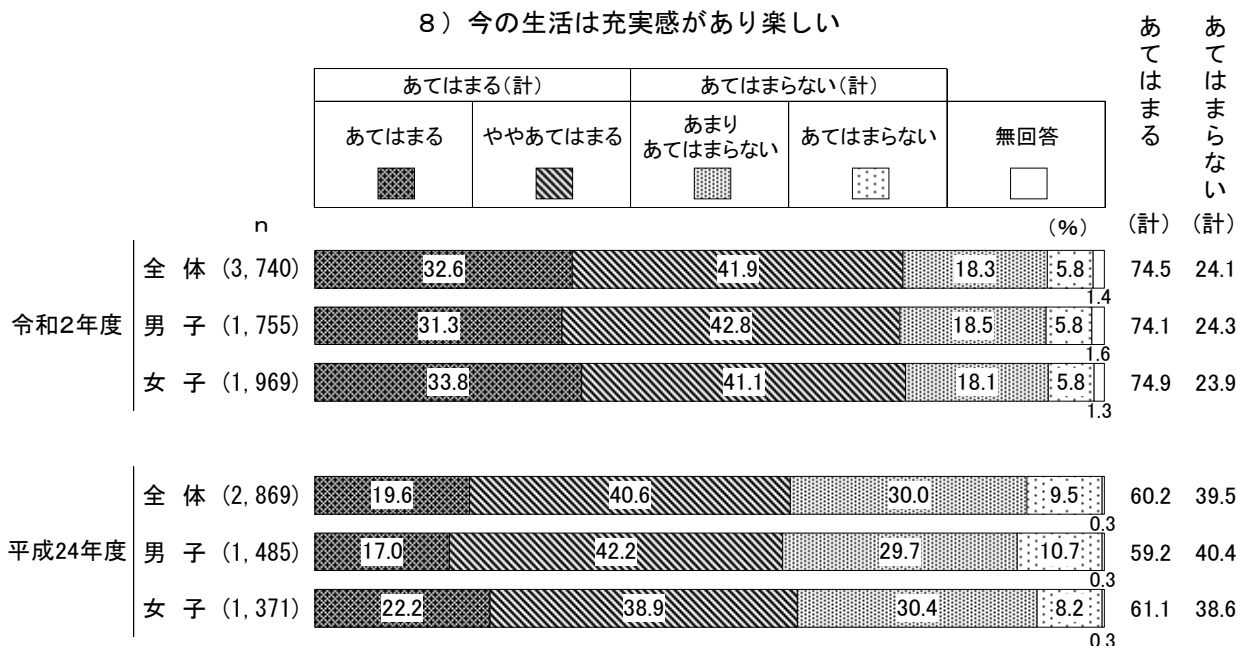


日常生活での感情や生きがいなどについて9項目に分けて聞いたところ、「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた『あてはまる(計)』は、“今の生活は充実感があり楽しい”で74.5%と最も高く、次いで“なんとなくやる気がおきない”(64.0%)、“将来大人になるのが楽しみである”(57.1%)となっている。

一方、「あてはまらない」と「あまりあてはまらない」を合わせた『あてはまらない(計)』は、“死んでしまいたいと思う”で82.4%と最も高く、次いで“私をわかってくれる人がいないと思う”(76.6%)、“私ひとりだけがとり残されているようで寂しい”(76.5%)となっている。

図表 2-14-10 日頃の意識-②生活感情意識（経年比較）

8) 今の生活は充実感があり楽しい

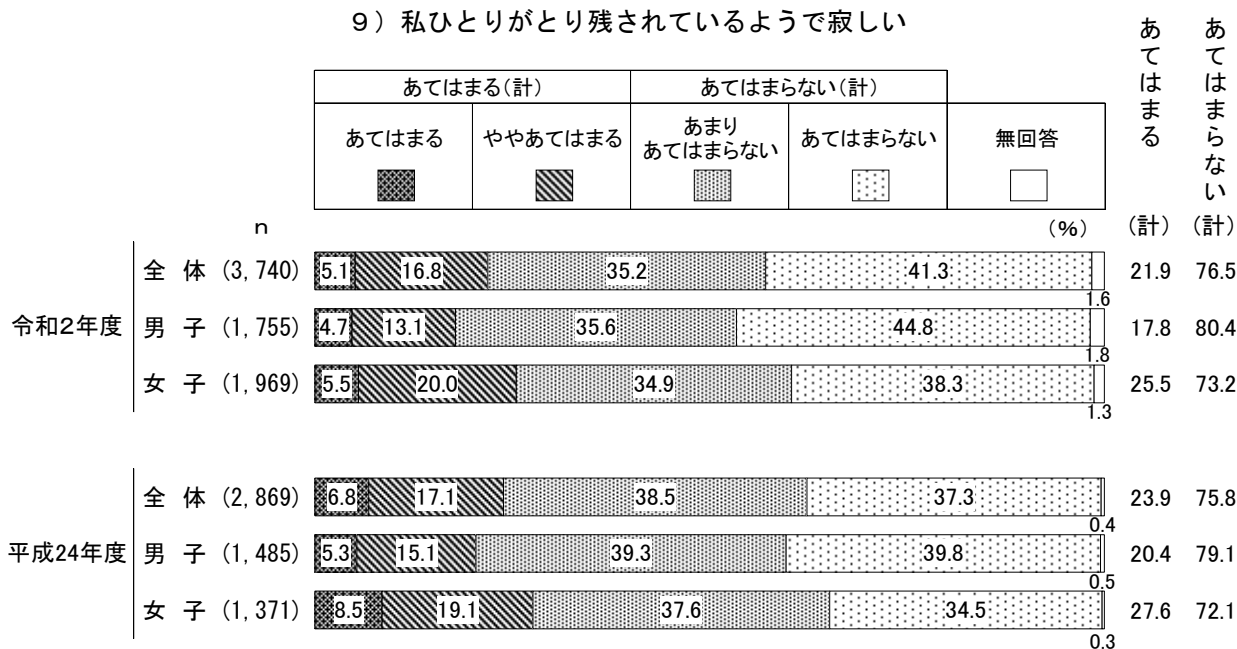


※「今の生活は充実感があり楽しい」は、平成24年度では「生活に充実感で満ちた楽しさがある」としていた

「今の生活は充実感があり楽しい」の過去の調査との比較は、項目の文言が異なるので参考に図示する。

図表 2-14-11 日頃の意識-②生活感情意識（経年比較）

9) 私ひとりがとり残されているようで寂しい

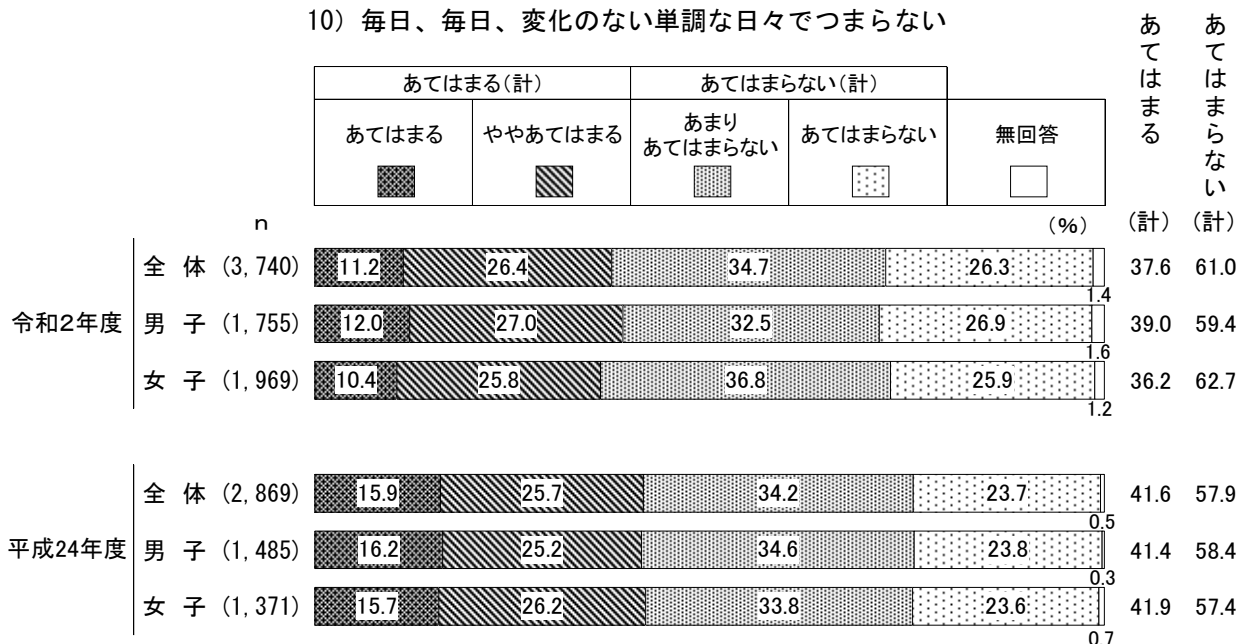


「私ひとりがとり残されているようで寂しい」を過去の調査と比較すると、全体では「あてはまらない」は平成24年度より4.0ポイント増加している。

男女別では「あてはまらない」は平成24年度より男子で5.0ポイント、女子で3.8ポイント、それぞれ増加している。

図表 2-14-12 日頃の意識-②生活感情意識 (経年比較)

10) 毎日、毎日、変化のない単調な日々でつまらない

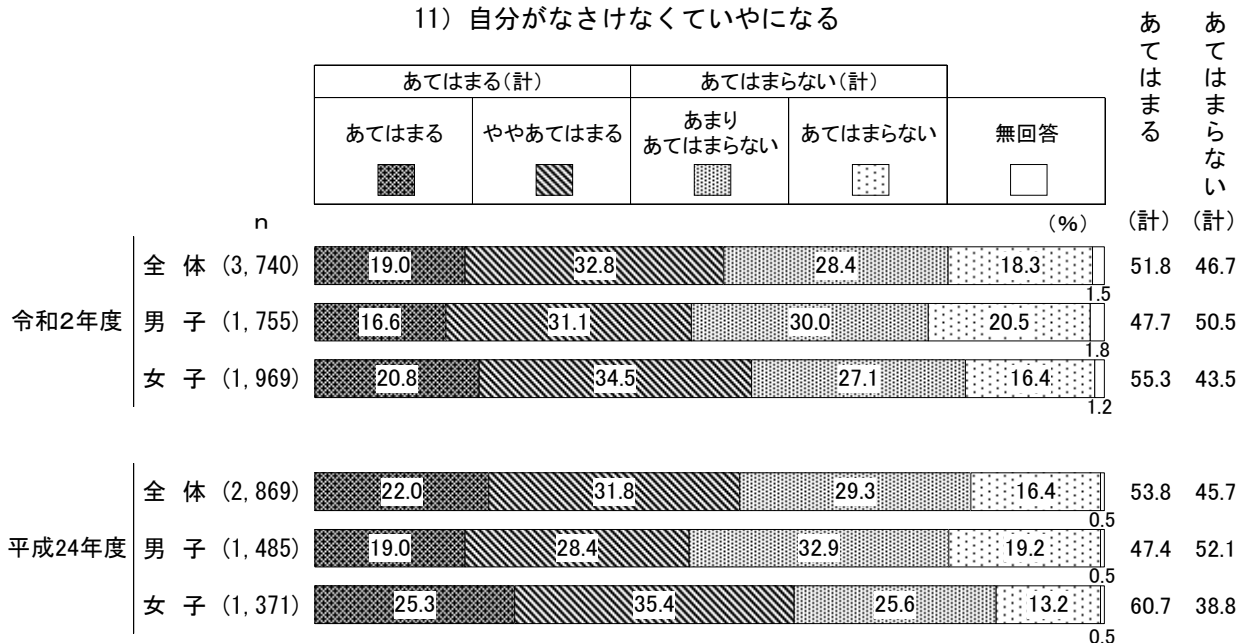


「毎日、毎日、変化のない単調な日々でつまらない」を過去の調査と比較すると、全体では『あてはまらない(計)』は平成24年度より3.1ポイント増加している。

男女別では『あてはまらない(計)』は平成24年度より女子で5.3ポイント増加している。

図表 2-14-13 日頃の意識-②生活感情意識 (経年比較)

11) 自分がなさけなくていやになる

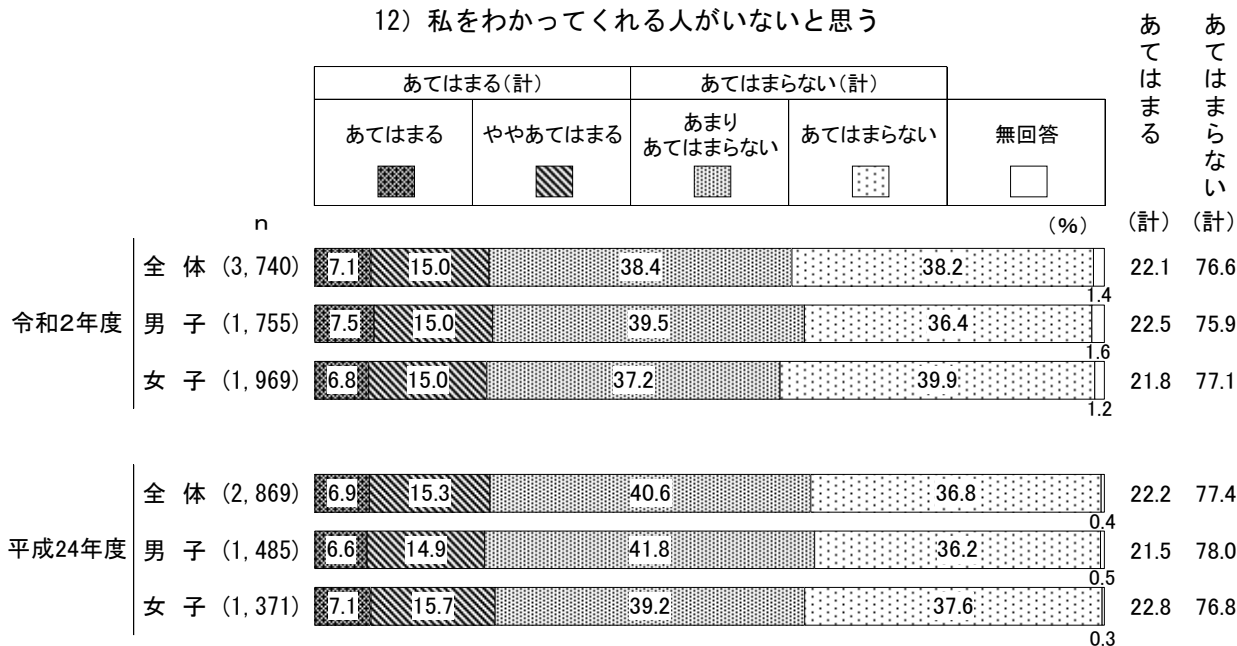


「自分がなさけなくていやになる」を過去の調査と比較すると、全体では大きな傾向の変化はみられない。

男女別では『あてはまらない(計)』は平成24年度より女子で4.7ポイント増加している。

図表 2-14-14 日頃の意識-②生活感情意識（経年比較）

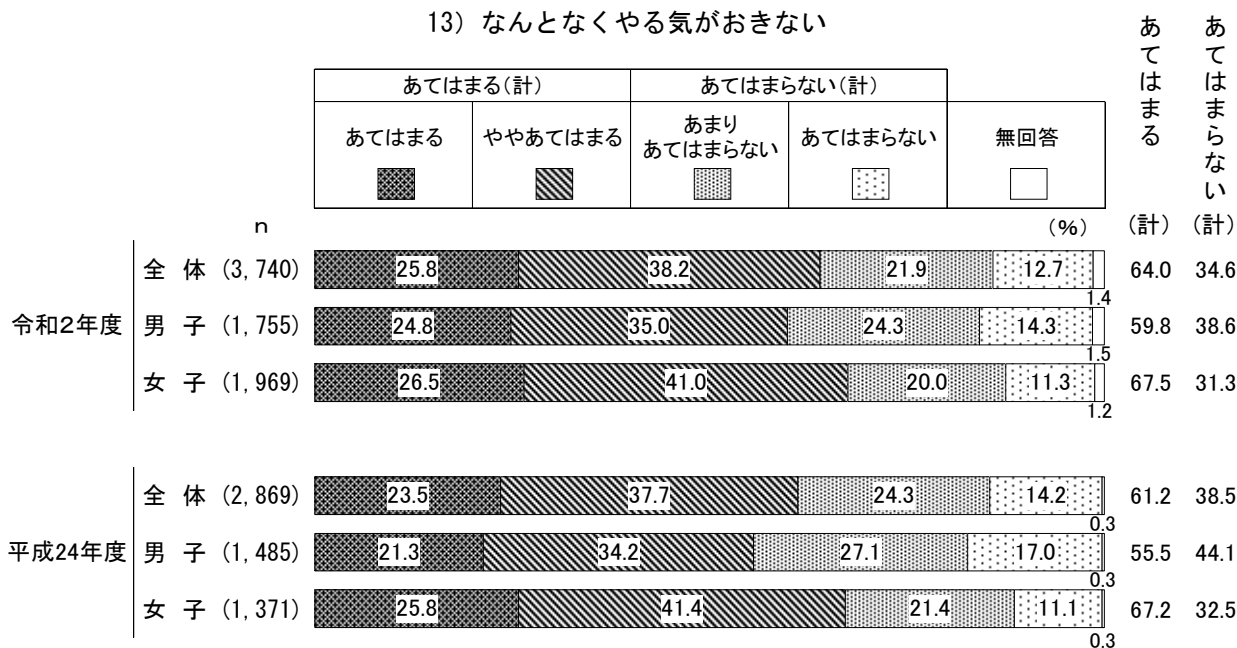
12) 私をわかってくれる人がいないと思う



「私をわかってくれる人がいないと思う」を過去の調査と比較すると、全体、男女別ともに大きな傾向の変化はみられない。

図表 2-14-15 日頃の意識-②生活感情意識（経年比較）

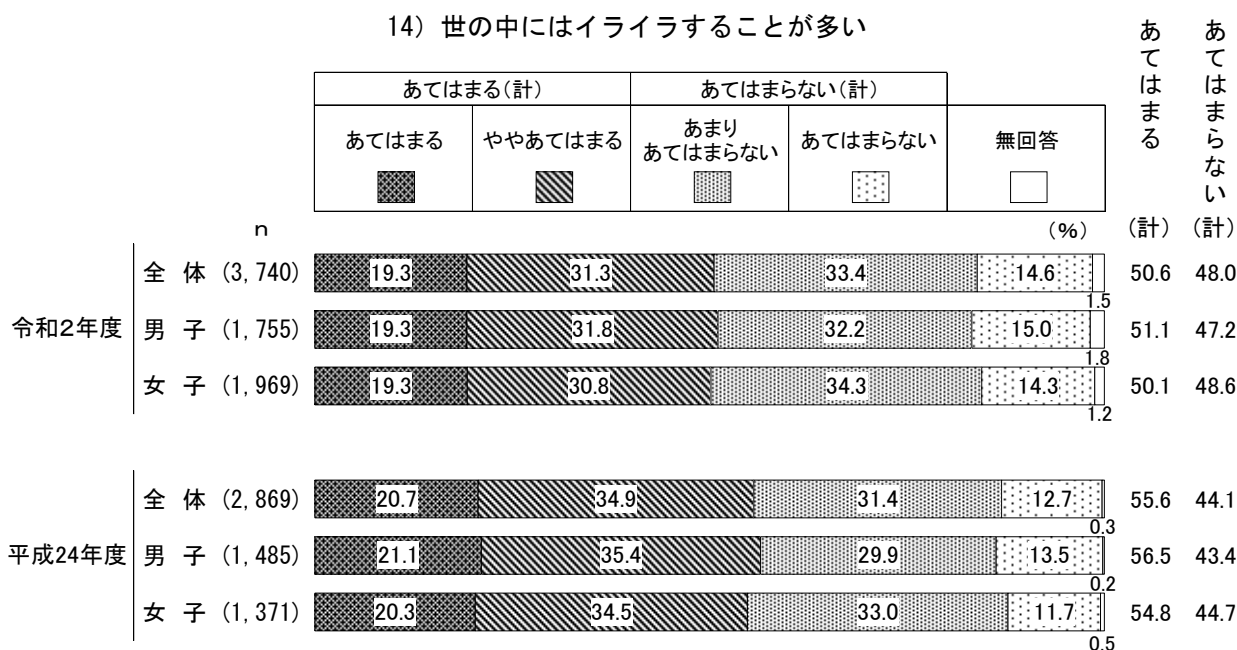
13) なんとなくやる気がおきない



「なんとなくやる気がおきない」を過去の調査と比較すると、全体では『あてはまらない(計)』は平成24年度より3.9ポイント減少している。

男女別では『あてはまる(計)』は平成24年度より男子で4.3ポイント増加している。

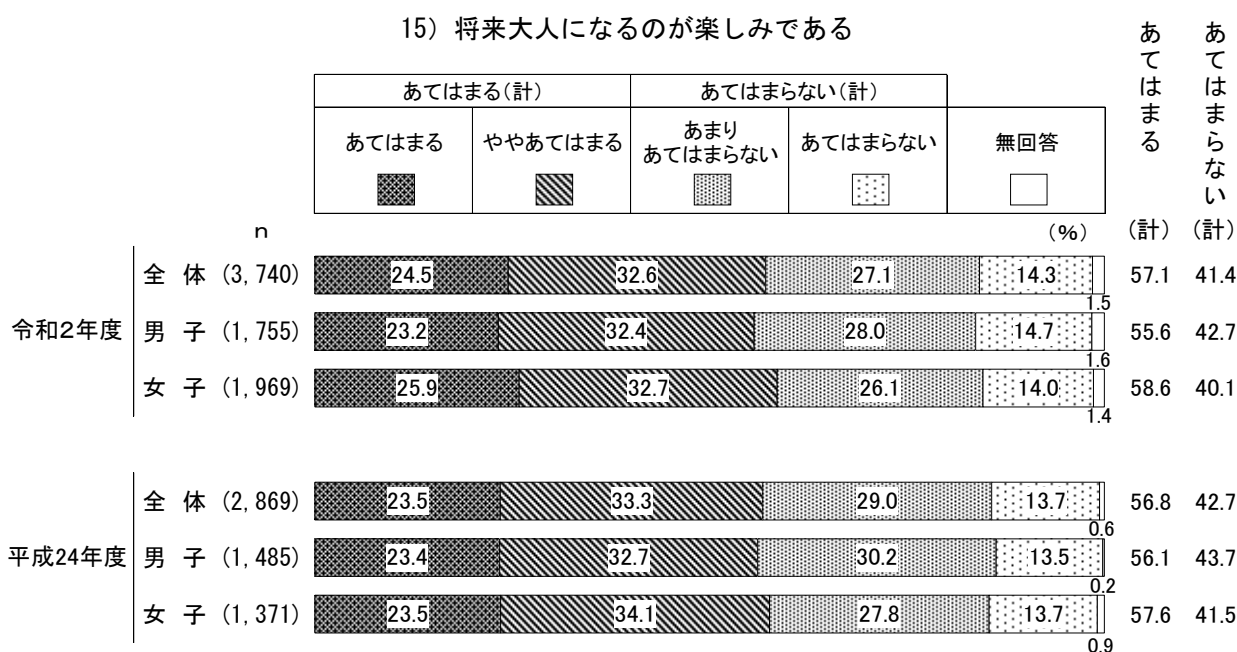
図表 2-14-16 日頃の意識-②生活感情意識 (経年比較)



「世の中にはイライラすることが多い」を過去の調査と比較すると、全体では『あてはまらない(計)』は平成24年度より3.9ポイント増加している。

男女別では『あてはまらない(計)』は平成24年度より男子で3.8ポイント、女子で3.9ポイント、それぞれ増加している。

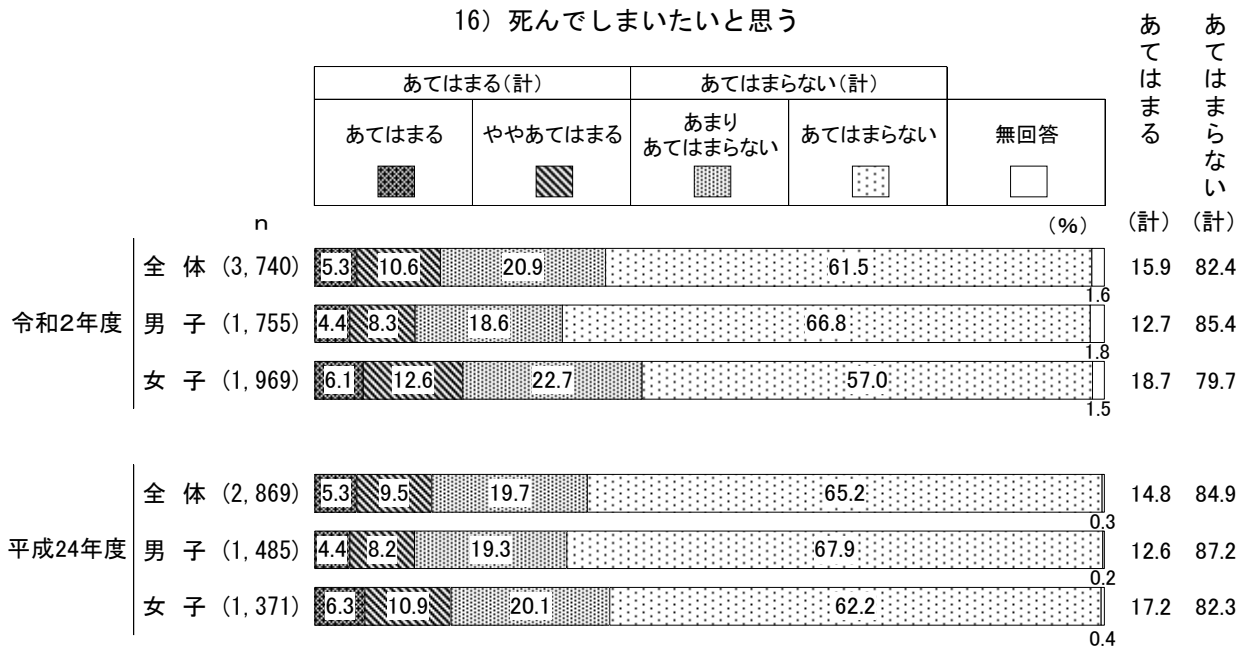
図表 2-14-17 日頃の意識-②生活感情意識 (経年比較)



「将来大人になるのが楽しみである」を過去の調査と比較すると、全体、男女別ともに大きな傾向の変化はみられない。

図表 2-14-18 日頃の意識-②生活感情意識（経年比較）

16) 死んでしまいたいと思う



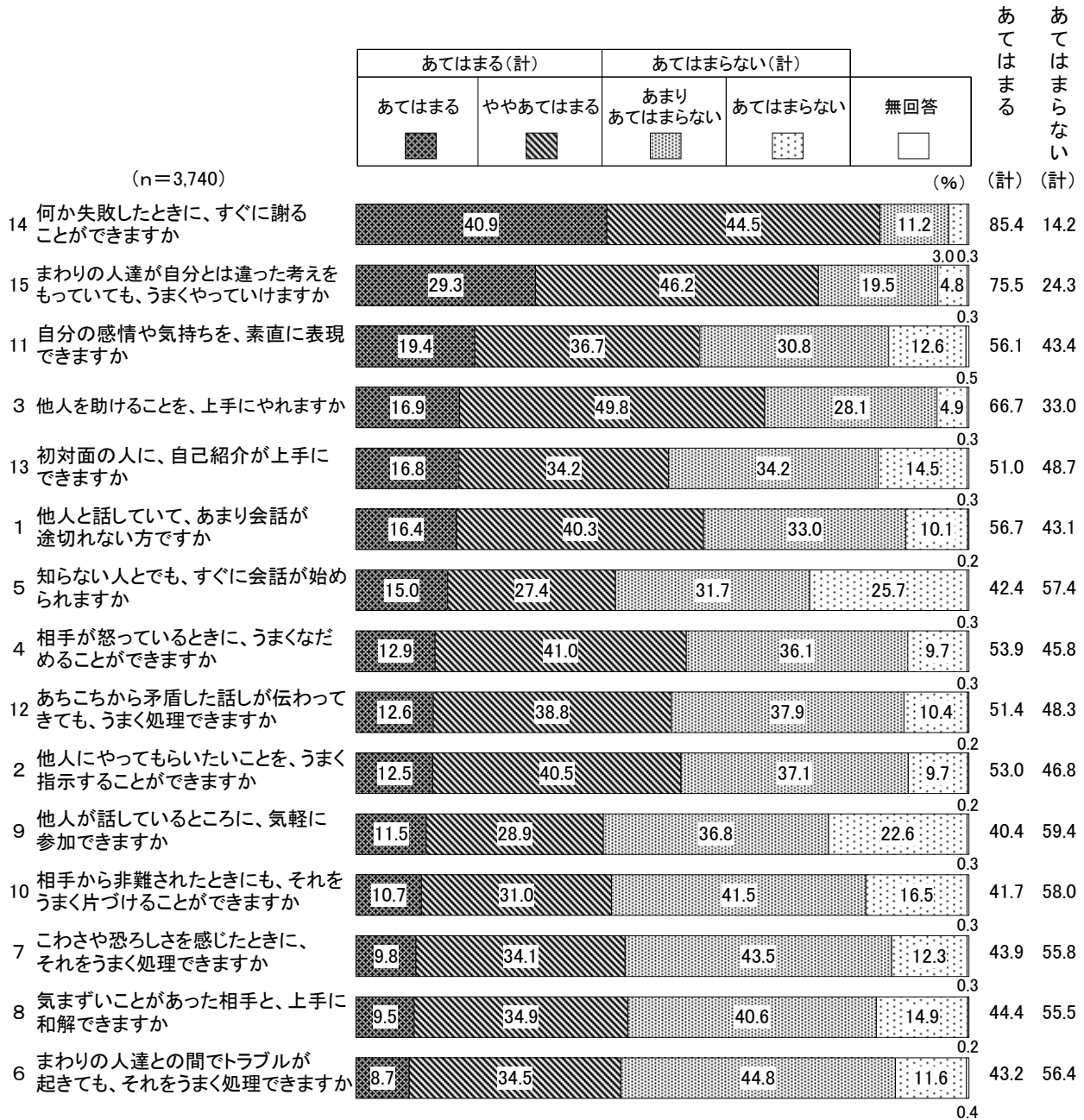
「死んでしまいたいと思う」を過去の調査と比較すると、全体では「あてはまらない」は平成24年度より3.7ポイント減少している。

男女別では「あてはまらない」は平成24年度より女子で5.2ポイント減少している。

③社会対応力

問43 次の15の質問について、最もあてはまる選択肢の番号に1つだけ○をつけてください。

図表 2-14-19 日頃の意識-③社会対応力

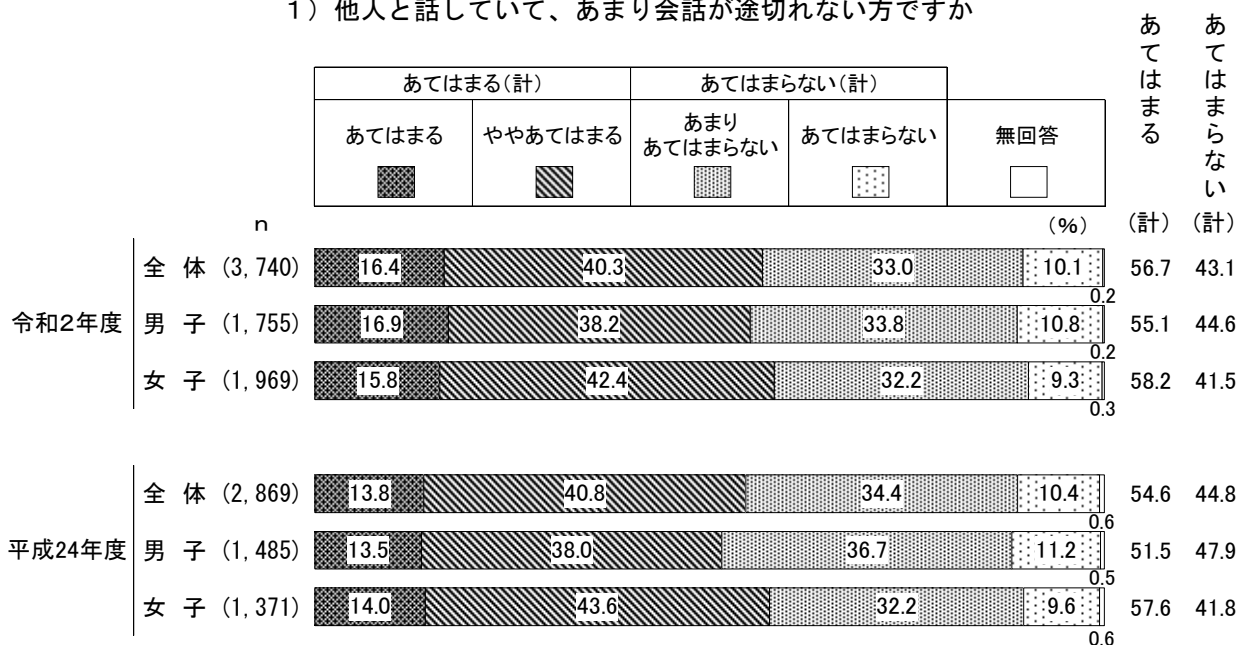


社会生活や対人関係など社会への対応力について15項目に分けて聞いたところ、「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた『あてはまる（計）』は、“何か失敗したときに、すぐに謝ることができますか”で85.4%と最も高く、次いで“まわりの人達が自分とは違った考えをもっている、うまくやっていますか”（75.5%）、“他人を助けることを、上手にやれますか”（66.7%）となっている。

一方、「あてはまらない」と「あまりあてはまらない」を合わせた『あてはまらない（計）』は、“他人が話しているところに、気軽に参加できますか”で59.4%と最も高く、次いで“相手から非難されたときにも、それをうまく片づけることができますか”（58.0%）、“知らない人とでも、すぐに会話が始められますか”（57.4%）となっている。

図表 2-14-20 日頃の意識-③社会対応力（経年比較）

1) 他人と話していて、あまり会話が途切れない方ですか

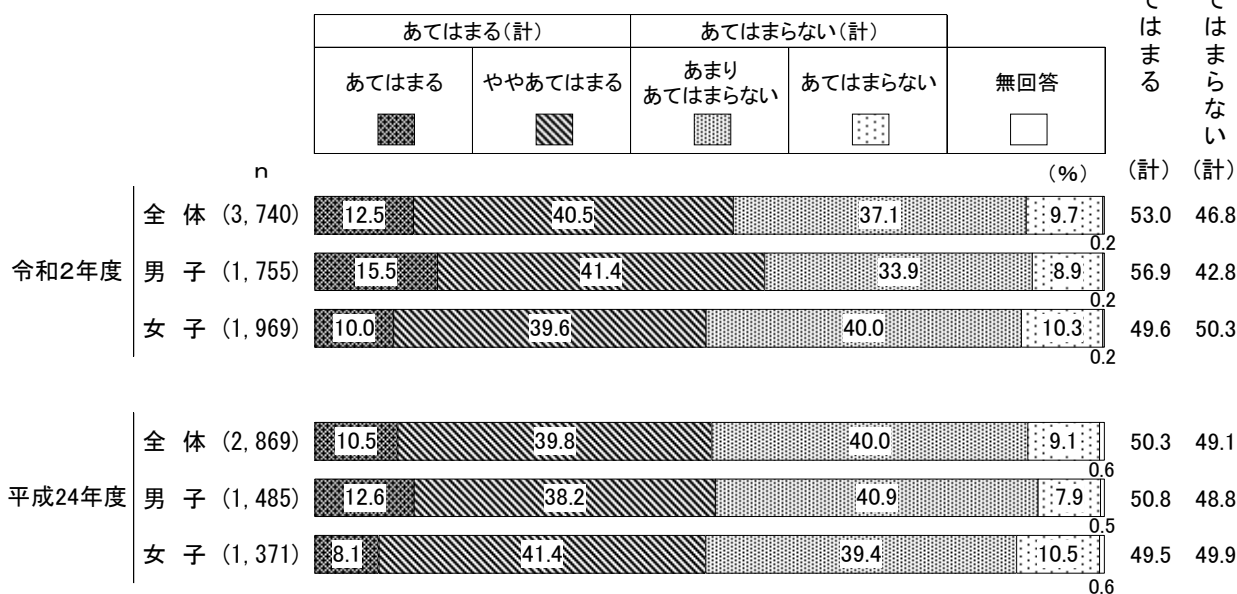


「他人と話していて、あまり会話が途切れない方ですか」を過去の調査と比較すると、全体では大きな傾向の変化はみられない。

男女別では『あてはまる（計）』は平成24年度より男子で3.6ポイント増加している。

図表 2-14-21 日頃の意識-③社会対応力(経年比較)

2) 他人にやってもらいたいことを、うまく指示することができますか

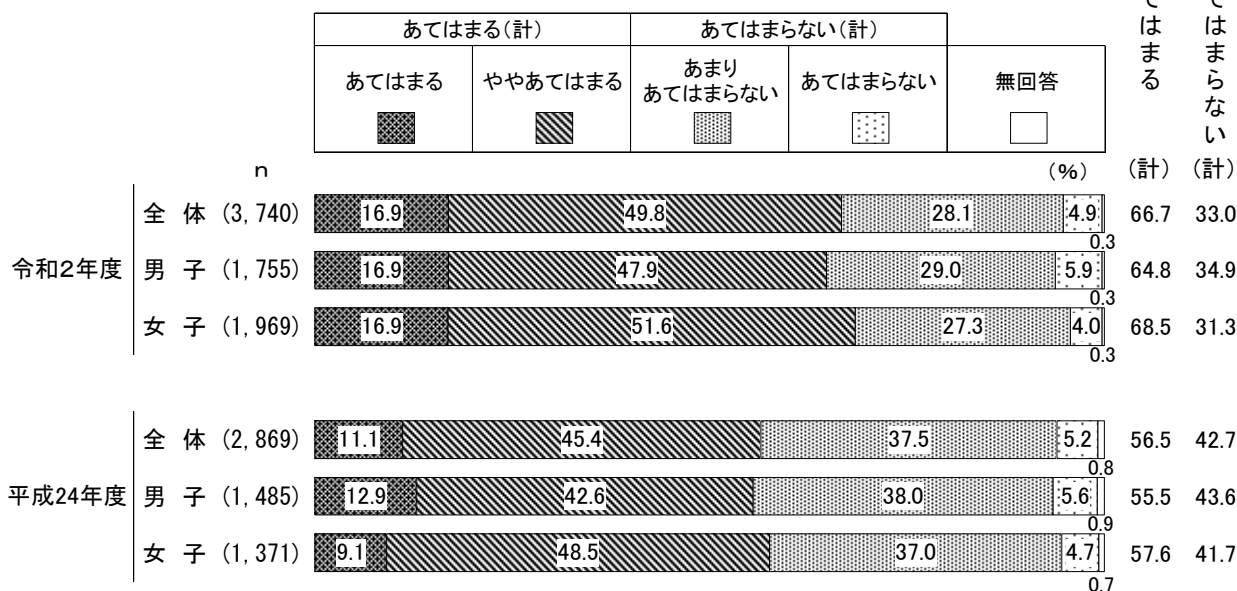


「他人にやってもらいたいことを、うまく指示することができますか」を過去の調査と比較すると、全体では大きな傾向の変化はみられない。

男女別では『あてはまる(計)』は平成24年度より男子で6.1ポイント増加している。

図表 2-14-22 日頃の意識-③社会対応力(経年比較)

3) 他人を助けることを、上手にやれますか

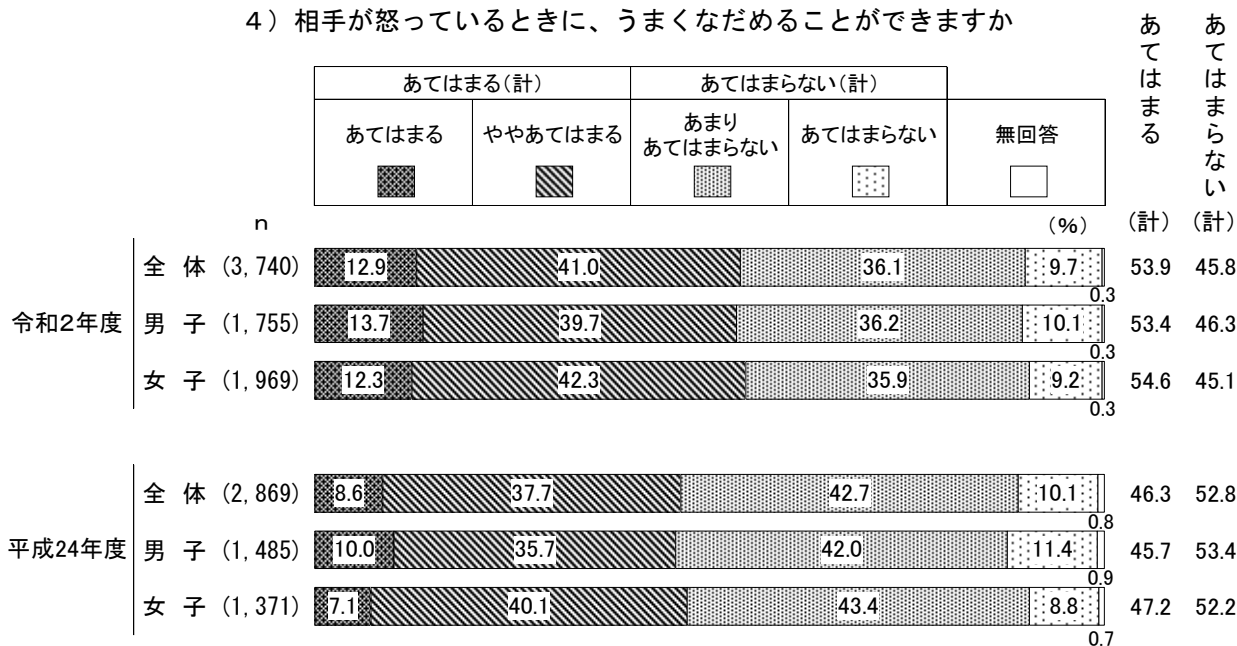


「他人を助けることを、上手にやれますか」を過去の調査と比較すると、全体では『あてはまる(計)』は平成24年度より10.2ポイント増加している。

男女別では『あてはまる(計)』は平成24年度より男子で9.3ポイント、女子で10.9ポイント、それぞれ増加している。

図表 2-14-23 日頃の意識-③社会対応力(経年比較)

4) 相手が怒っているときに、うまくなだめることができますか

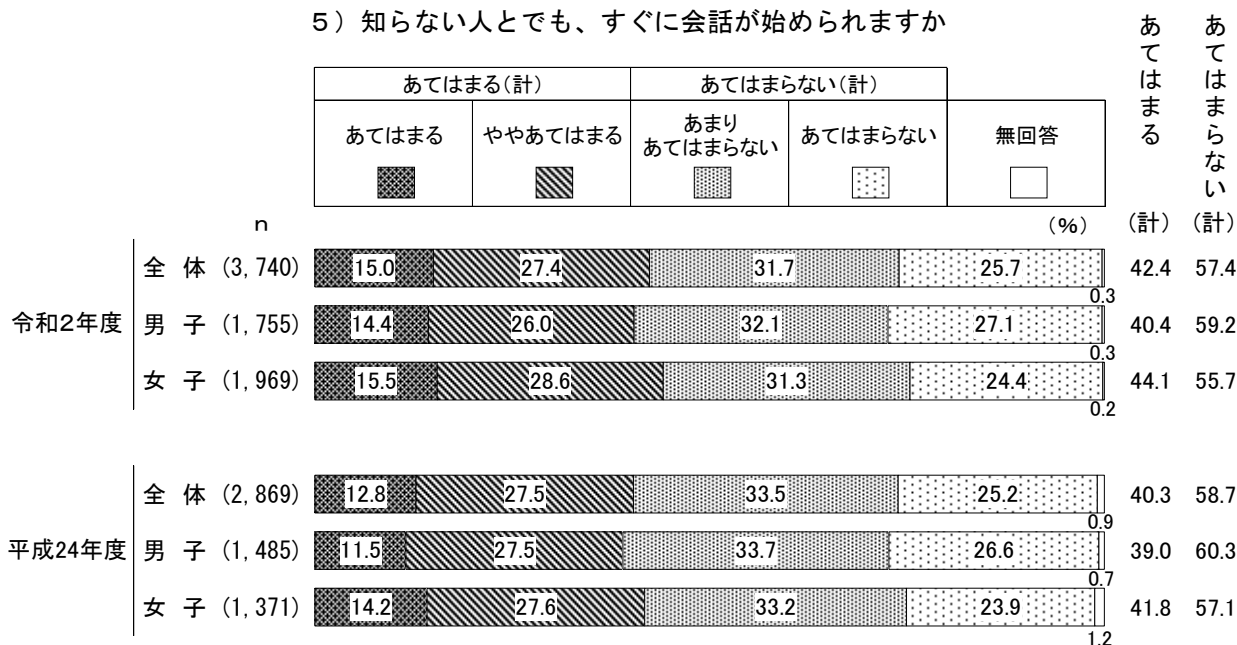


「相手が怒っているときに、うまくなだめることができますか」を過去の調査と比較すると、全体では『あてはまる(計)』は平成24年度より7.6ポイント増加している。

男女別では『あてはまる(計)』は平成24年度より男子で7.7ポイント、女子で7.4ポイント、それぞれ増加している。

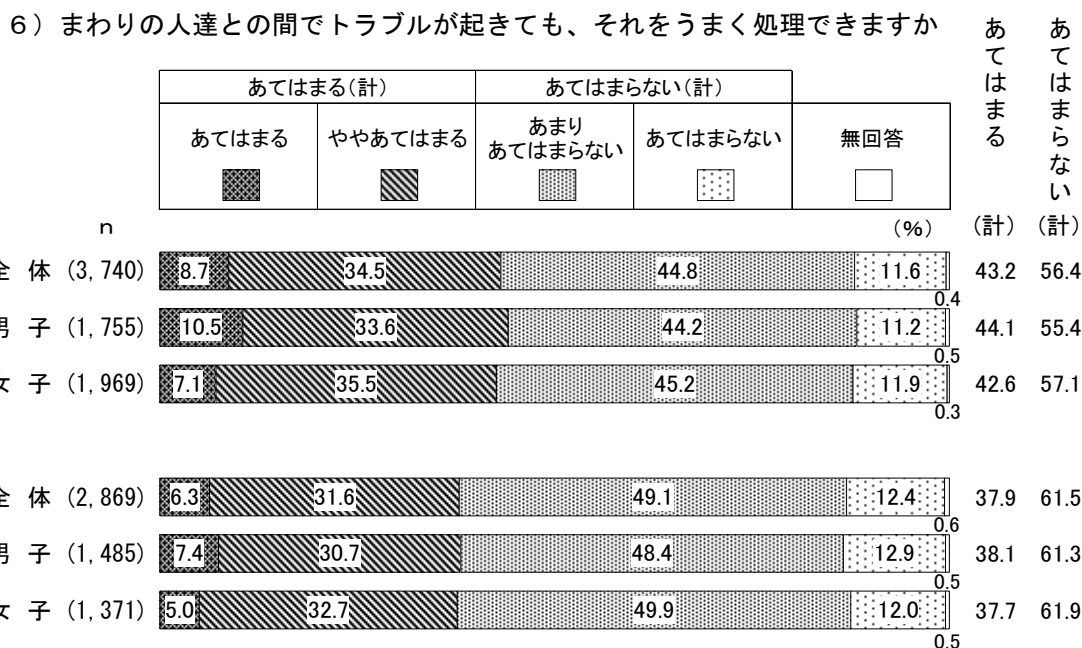
図表 2-14-24 日頃の意識-③社会対応力(経年比較)

5) 知らない人とでも、すぐに会話が始められますか



「知らない人とでも、すぐに会話が始められますか」を過去の調査と比較すると、全体、男女別ともに大きな傾向の変化はみられない。

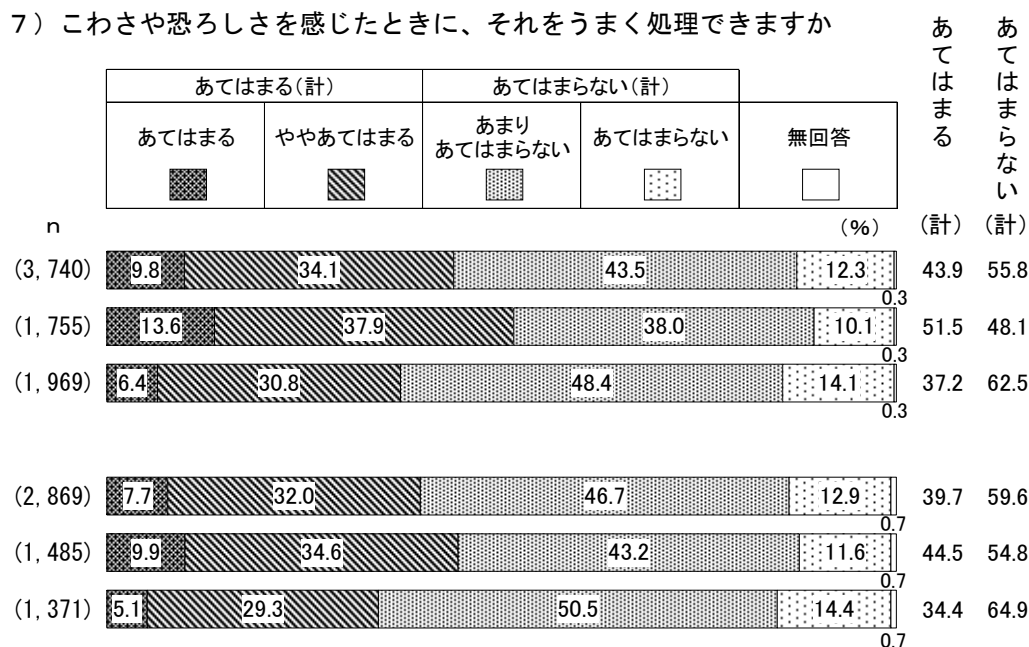
図表 2-14-25 日頃の意識-③社会対応力(経年比較)



「まわりの人達との間でトラブルが起きてても、それをうまく処理できますか」を過去の調査と比較すると、全体では『あてはまる(計)』は平成24年度より5.3ポイント増加している。

男女別では『あてはまる(計)』は平成24年度より男子で6.0ポイント、女子で4.9ポイント、それぞれ増加している。

図表 2-14-26 日頃の意識-③社会対応力(経年比較)

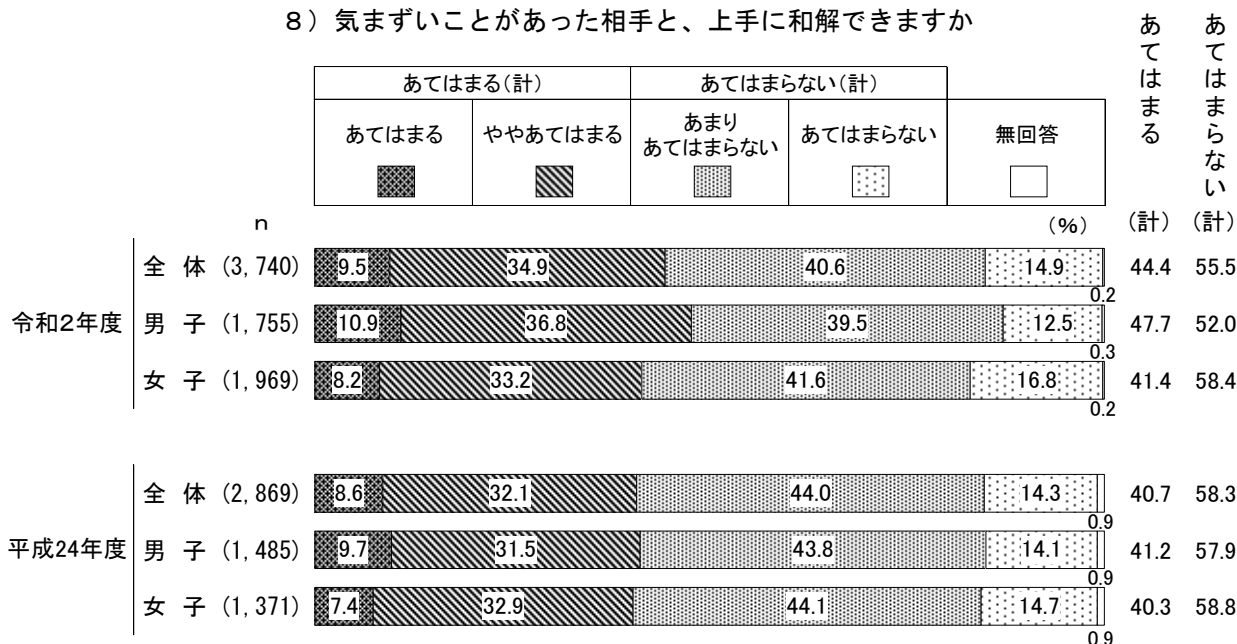


「こわさや恐ろしさを感じたときに、それをうまく処理できますか」を過去の調査と比較すると、全体では『あてはまる(計)』は平成24年度より4.2ポイント増加している。

男女別では『あてはまる(計)』は平成24年度より男子で7.0ポイント増加している。

図表 2-14-27 日頃の意識-③社会対応力(経年比較)

8) 気まずいことがあった相手と、上手に和解できますか

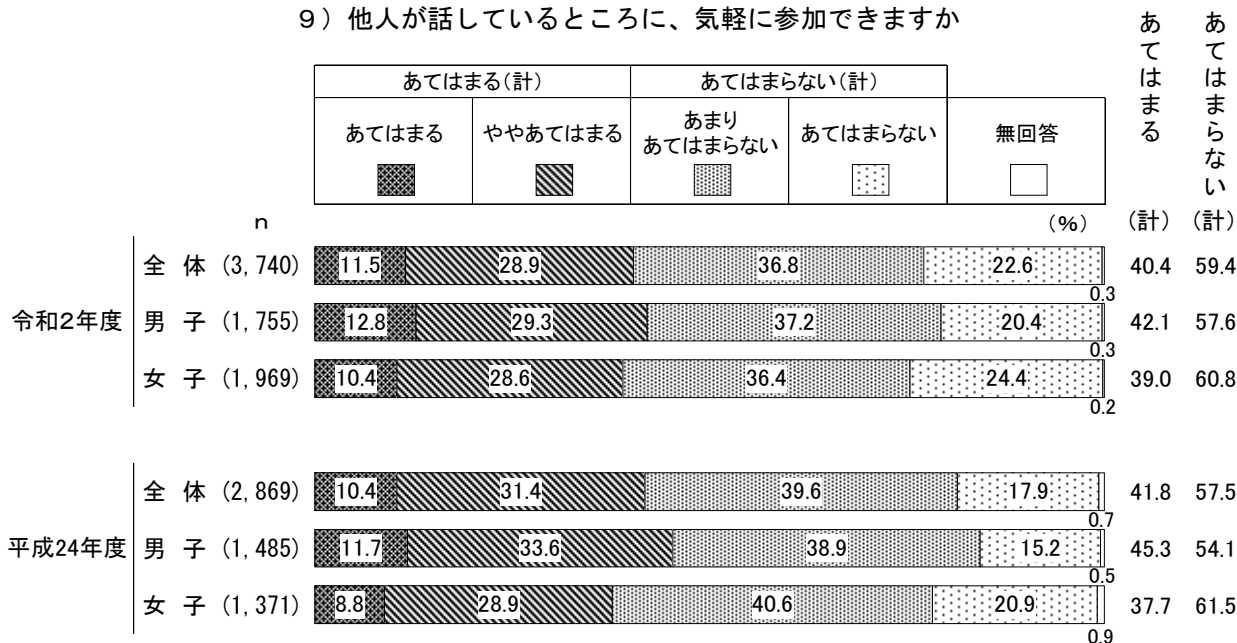


「気まずいことがあった相手と、上手に和解できますか」を過去の調査と比較すると、全体では『あてはまる(計)』は平成24年度より3.7ポイント増加している。

男女別では『あてはまる(計)』は平成24年度より男子で6.5ポイント増加している。

図表 2-14-28 日頃の意識-③社会対応力(経年比較)

9) 他人が話しているところに、気軽に参加できますか

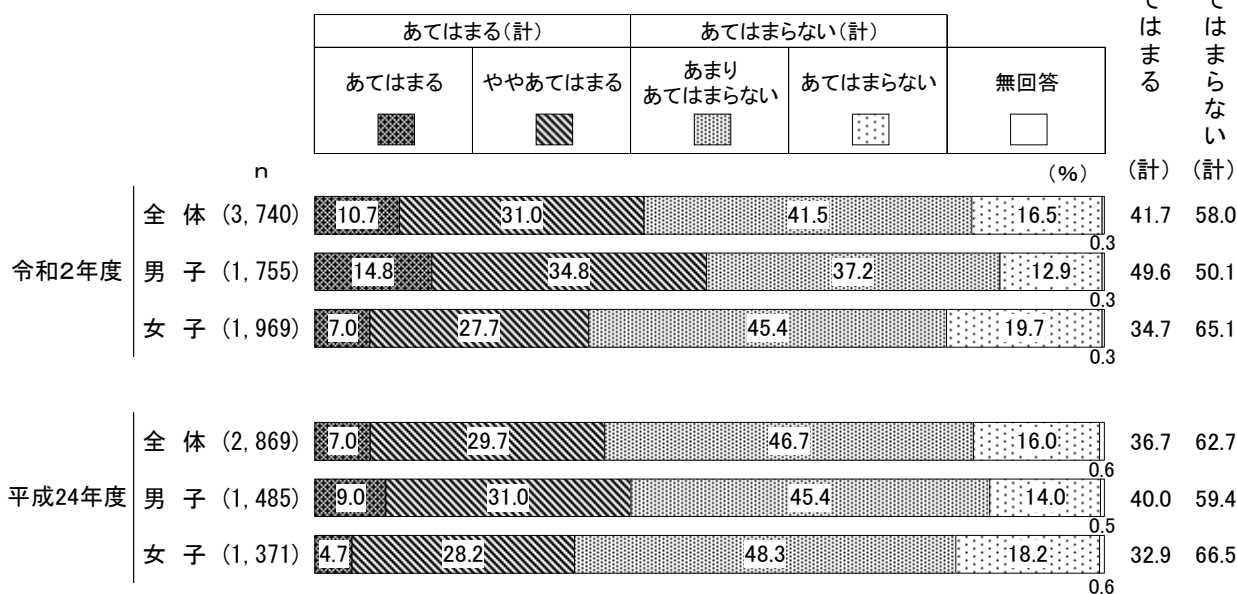


「他人が話しているところに、気軽に参加できますか」を過去の調査と比較すると、全体では「あてはまらない」は平成24年度より4.7ポイント増加している。

男女別では『あてはまらない(計)』は平成24年度より男子で3.5ポイント増加している。

図表 2-14-29 日頃の意識-③社会対応力 (経年比較)

10) 相手から非難されたときにも、それをうまく片づけることができますか

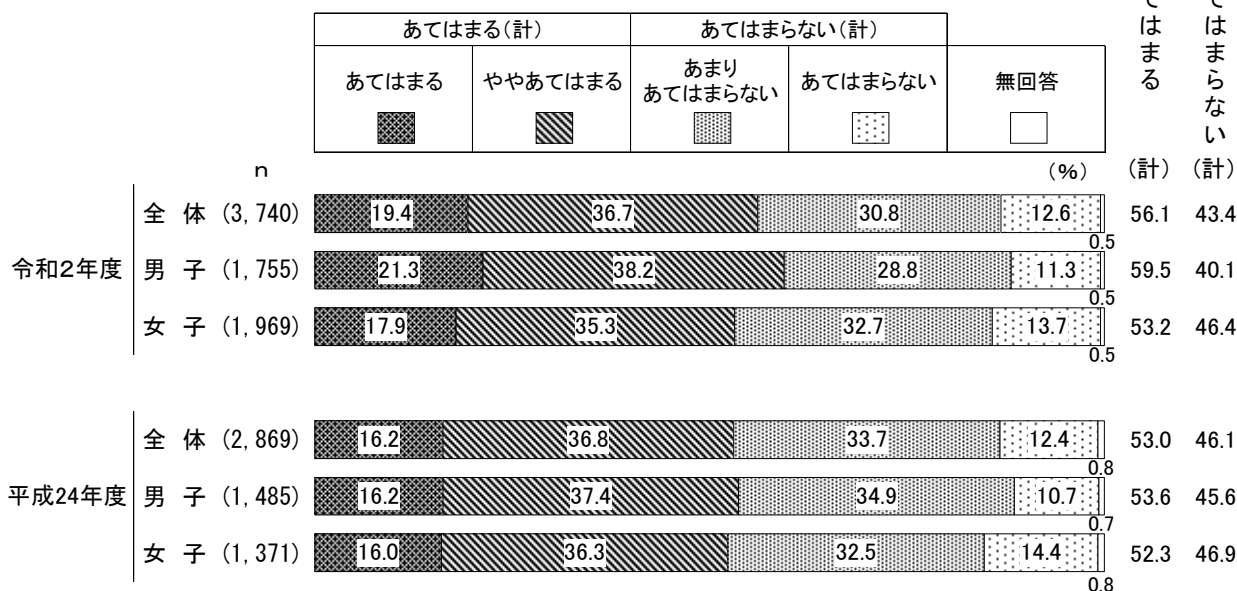


「相手から非難されたときにも、それをうまく片づけることができますか」を過去の調査と比較すると、全体では『あてはまる (計)』は平成24年度より5.0ポイント増加している。

男女別では『あてはまる (計)』は平成24年度より男子で9.6ポイント増加している。

図表 2-14-30 日頃の意識-③社会対応力 (経年比較)

11) 自分の感情や気持ちを、素直に表現できますか

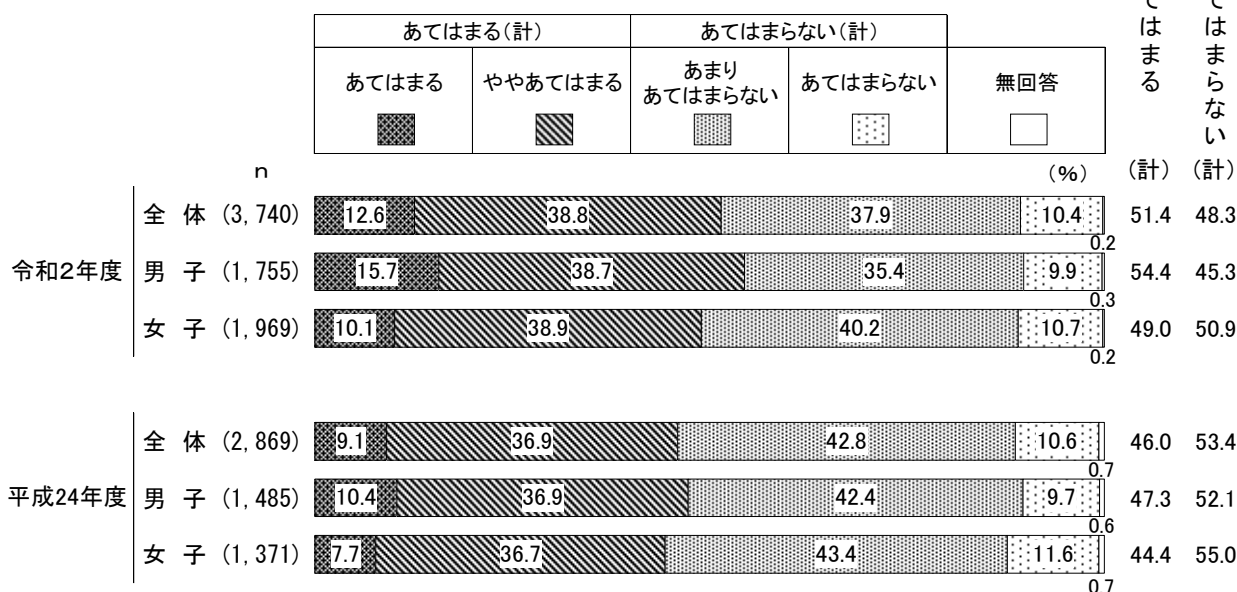


「自分の感情や気持ちを、素直に表現できますか」を過去の調査と比較すると、全体では『あてはまる (計)』は平成24年度より3.1ポイント増加している。

男女別では『あてはまる (計)』は平成24年度より男子で5.9ポイント増加している。

図表 2-14-31 日頃の意識-③社会対応力(経年比較)

12) あちこちから矛盾した話しが伝わってきても、うまく処理できますか

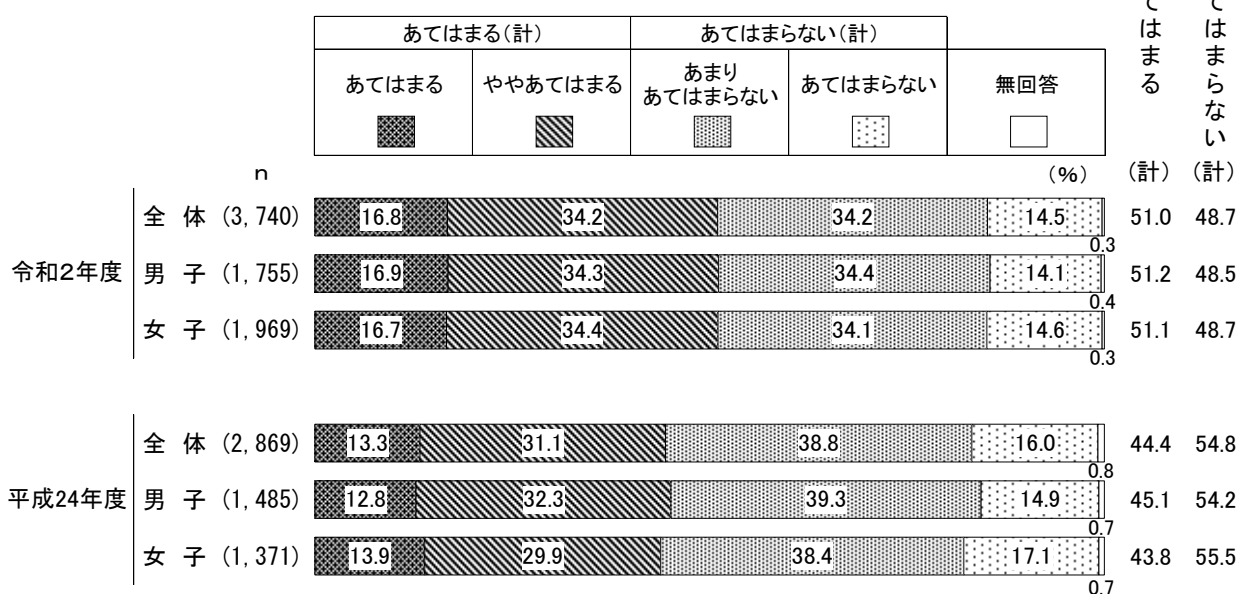


「あちこちから矛盾した話しが伝わってきても、うまく処理できますか」を過去の調査と比較すると、全体では『あてはまる(計)』は平成24年度より5.4ポイント増加している。

男女別では『あてはまる(計)』は平成24年度より男子で7.1ポイント、女子で4.6ポイント、それぞれ増加している。

図表 2-14-32 日頃の意識-③社会対応力(経年比較)

13) 初対面の人に、自己紹介が上手にできますか

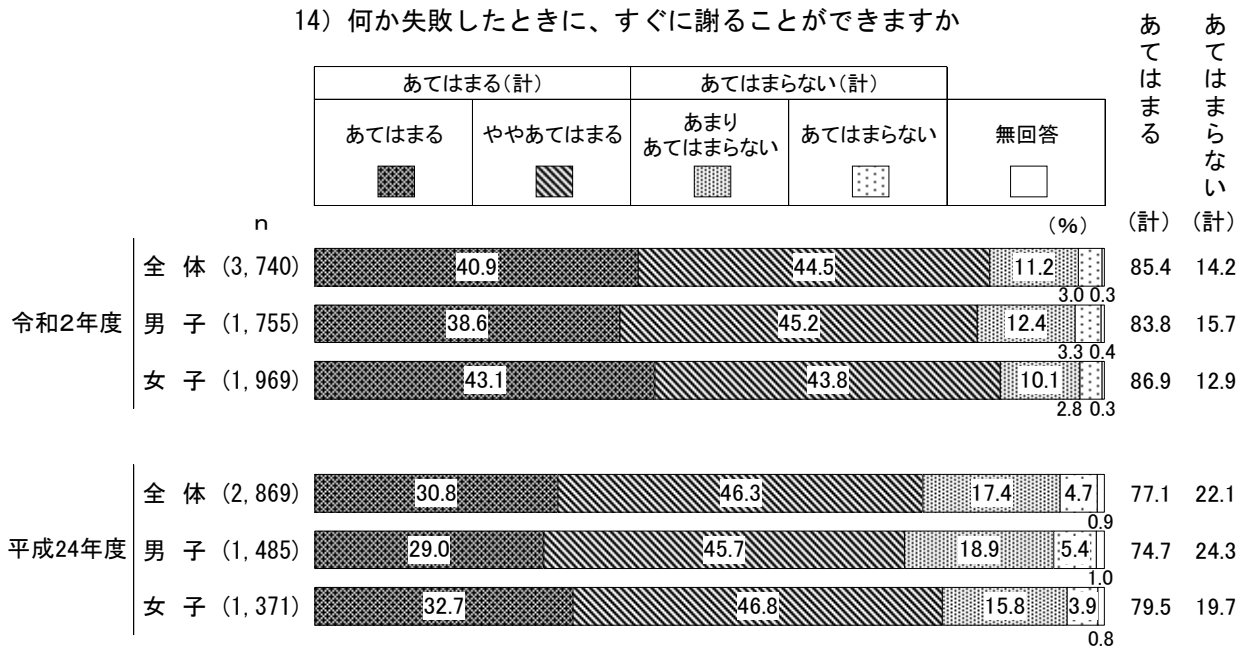


「初対面の人に、自己紹介が上手にできますか」を過去の調査と比較すると、全体では『あてはまる(計)』は平成24年度より6.6ポイント増加している。

男女別では『あてはまる(計)』は平成24年度より男子で6.1ポイント、女子で7.3ポイント、それぞれ増加している。

図表 2-14-33 日頃の意識-③社会対応力 (経年比較)

14) 何か失敗したときに、すぐに謝ることができますか

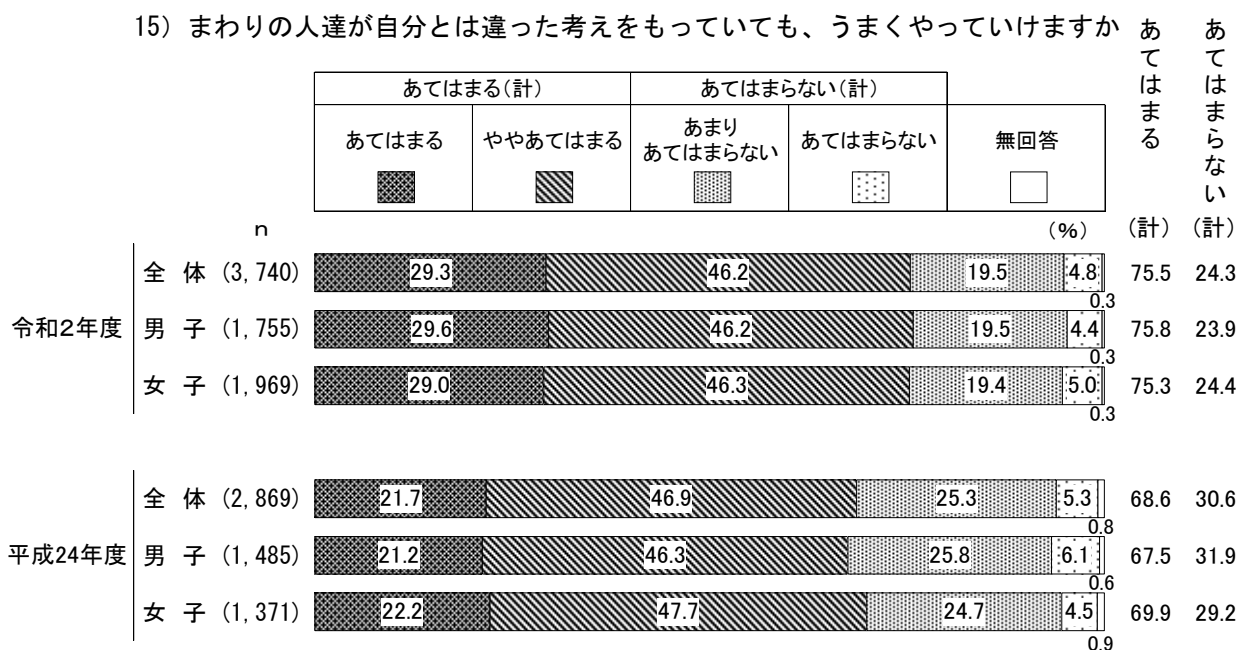


「何か失敗したときに、すぐに謝ることができますか」を過去の調査と比較すると、全体では『あてはまる (計)』は平成24年度より8.3ポイント増加している。

男女別では『あてはまる (計)』は平成24年度より男子で9.1ポイント、女子で7.4ポイント、それぞれ増加している。

図表 2-14-34 日頃の意識-③社会対応力 (経年比較)

15) まわりの人達が自分とは違った考えをもっている、うまくやっていますか



「まわりの人達が自分とは違った考えをもっている、うまくやっていますか」を過去の調査と比較すると、全体では『あてはまる (計)』は平成24年度より6.9ポイント増加している。

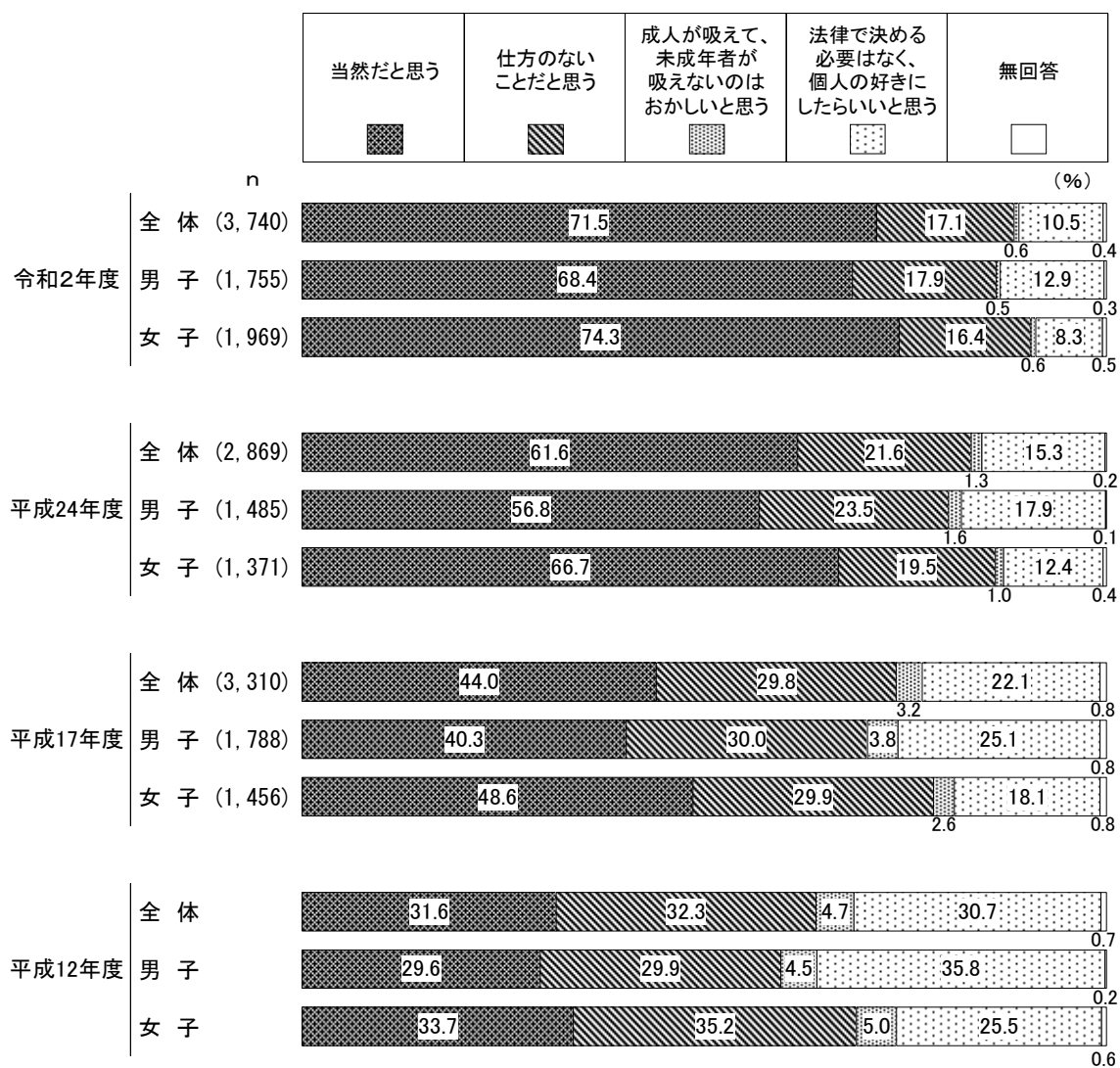
男女別では『あてはまる (計)』は平成24年度より男子で8.3ポイント、女子で5.4ポイント、それぞれ増加している。

3. 喫煙

(1) 未成年者の喫煙意識

問13 未成年者の喫煙禁止をどう思いますか。

図表3-1-1 未成年者の喫煙意識（経年比較）



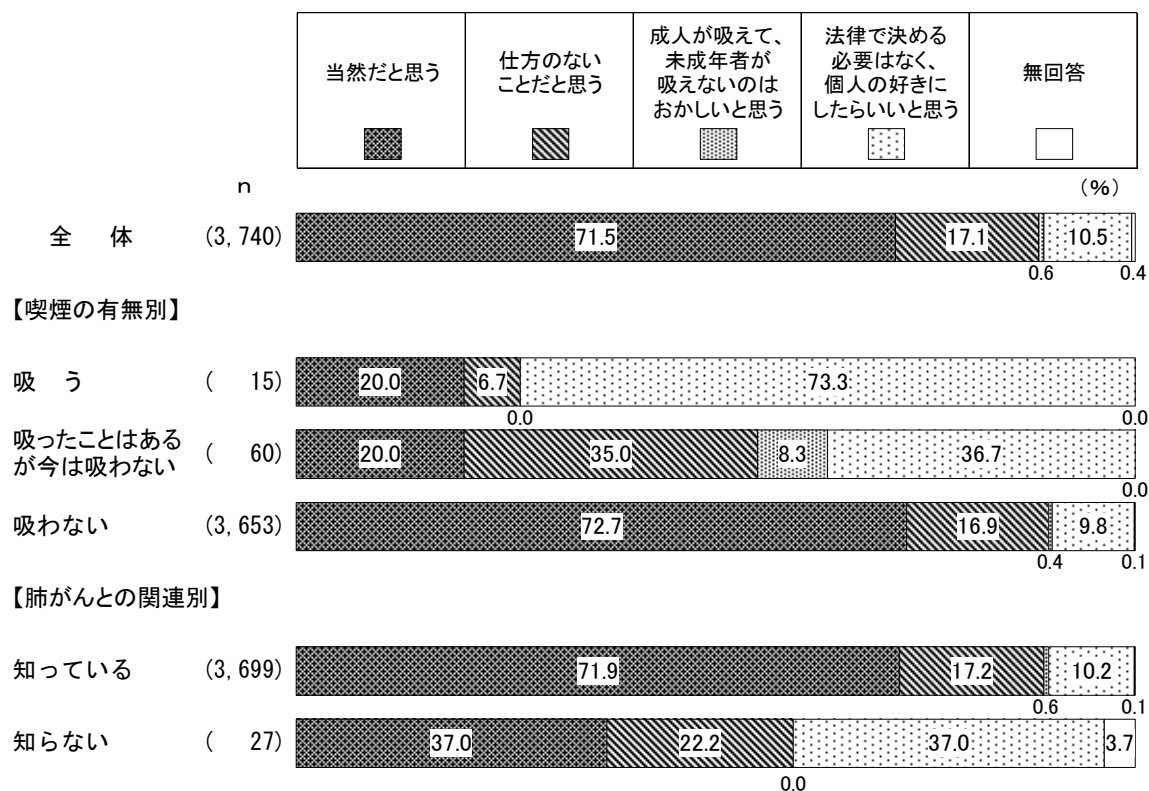
未成年者の喫煙禁止について聞いたところ、「当然だと思う」が71.5%で最も高く、次いで「仕方のないことだと思う」（17.1%）、「法律で決める必要はなく、個人の好きにしたらいいと思う」（10.5%）、「成人が吸えて、未成年者が吸えないのはおかしいと思う」（0.6%）となっている。

男女別でみると、「当然だと思う」は女子（74.3%）が男子（68.4%）より5.9ポイント高くなっている。一方、「法律で決める必要はなく、個人の好きにしたらいいと思う」は男子（12.9%）が女子（8.3%）より4.6ポイント高くなっている。

過去の調査と比較すると、全体では「当然だと思う」は平成24年度より9.9ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。

男女別では「当然だと思う」は平成24年度より男子で11.6ポイント、女子で7.6ポイント、それぞれ増加している。

図表 3-1-2 未成年者の喫煙意識（喫煙の有無別、肺がんとの関連別）



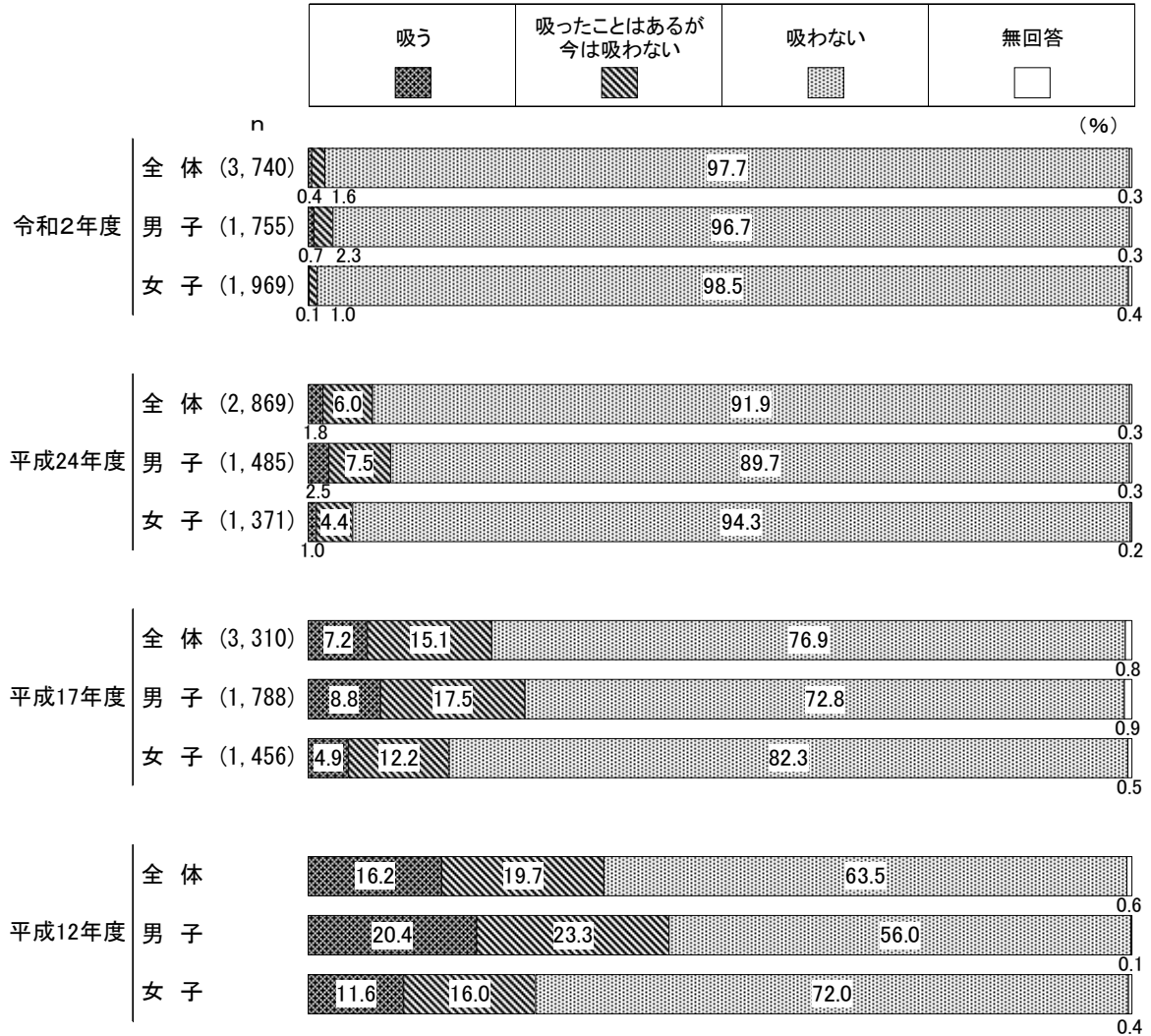
喫煙の有無別で見ると、「当然だと思う」は“吸わない人”で72.7%と高くなっている。

肺がんとの関連別で見ると、「当然だと思う」は“知っている人”（71.9%）が“知らない人”（37.0%）より34.9ポイント高くなっている。一方、「法律で決める必要はなく、個人の好きにしたらいいと思う」は“知らない人”（37.0%）が“知っている人”（10.2%）より26.8ポイント高くなっている。

(2) 喫煙の有無

問14 あなたは、たばこを吸いますか、また吸う方は一日平均何本吸いますか。

図表3-2-1 喫煙の有無（経年比較）



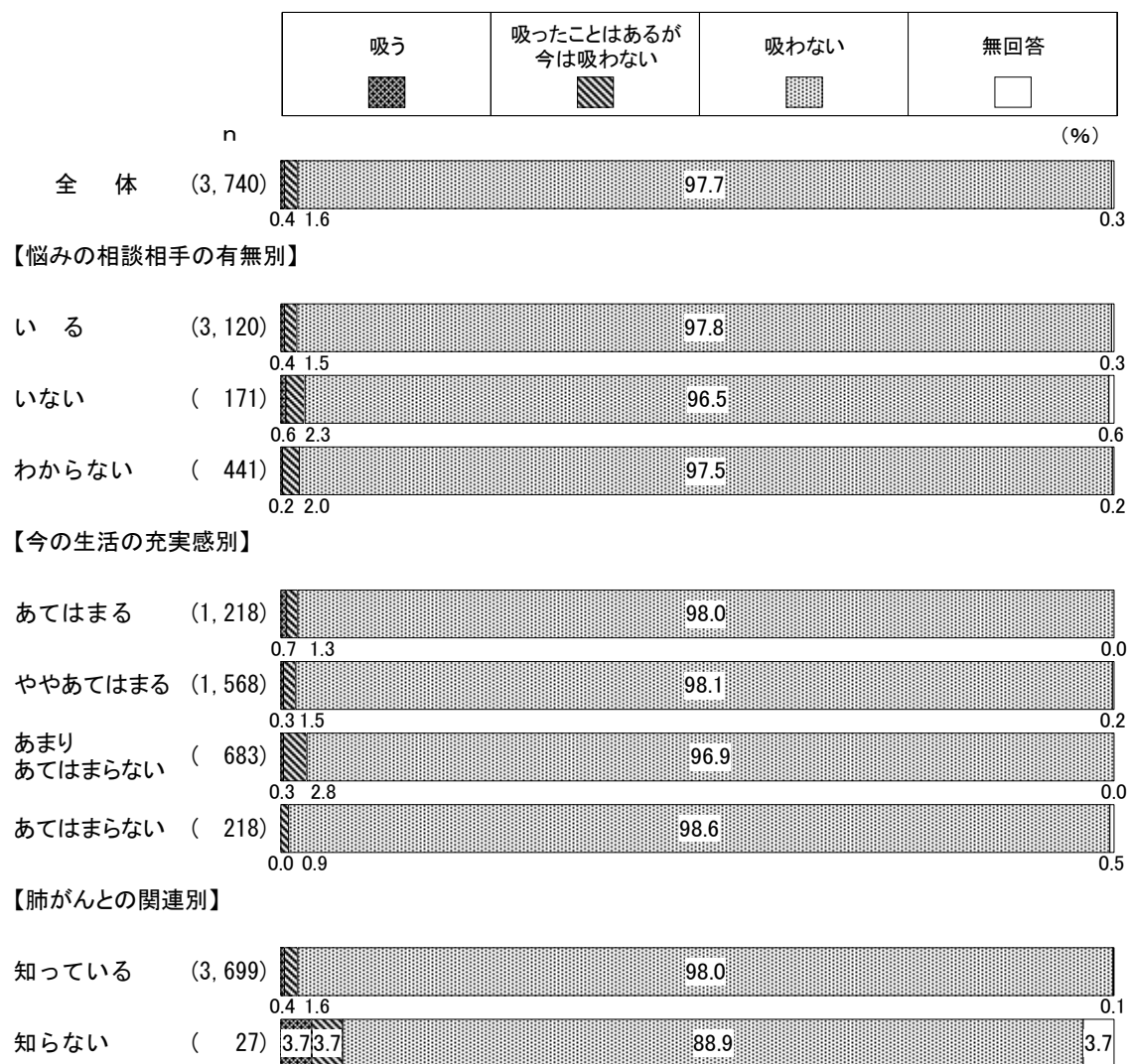
たばこを吸うか聞いたところ、「吸う」が0.4%、「吸ったことはあるが今は吸わない」は1.6%となっている。一方、「吸わない」は97.7%となっている。

男女別でみると、男女間で大きな違いはみられない。

過去の調査と比較すると、全体では「吸わない」は平成24年度より5.8ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。一方、「吸ったことはあるが今は吸わない」は平成24年度より4.4ポイント減少している。

男女別では「吸わない」は平成24年度より男子で7.0ポイント、女子で4.2ポイント、それぞれ増加している。一方、「吸ったことはあるが今は吸わない」は平成24年度より男子で5.2ポイント、女子で3.4ポイント、それぞれ減少している。

図表 3-2-2 喫煙の有無（悩みの相談相手の有無別、今の生活の充実感別、肺がんとの関連別）



悩みの相談相手の有無別で見ると、大きな違いはみられない。

今の生活の充実感別で見ると、大きな違いはみられない。

肺がんとの関連別で見ると、「吸わない」は“知っている人”（98.0%）が“知らない人”（88.9%）より 9.1 ポイント高くなっている。

(2-1) 1日あたりの平均喫煙本数

問14 あなたは、たばこを吸いますか、また吸う方は一日平均何本吸いますか。

図表3-2-3 1日あたりの平均喫煙本数（経年比較）

	令和2年度	平成24年度	平成17年度	平成12年度
全体	17.9本 (15人)	15.2本 (44人)	11.9本 (236人)	10.9本
男子	20.2本 (13人)	15.3本 (33人)	13.1本 (157人)	12.3本
女子	3.0本 (2人)	15.0本 (11人)	9.1本 (71人)	6.8本

たばこを「吸う」と答えた人（15人）に、1日あたりの平均喫煙本数を聞いたところ、17.9本となっている。

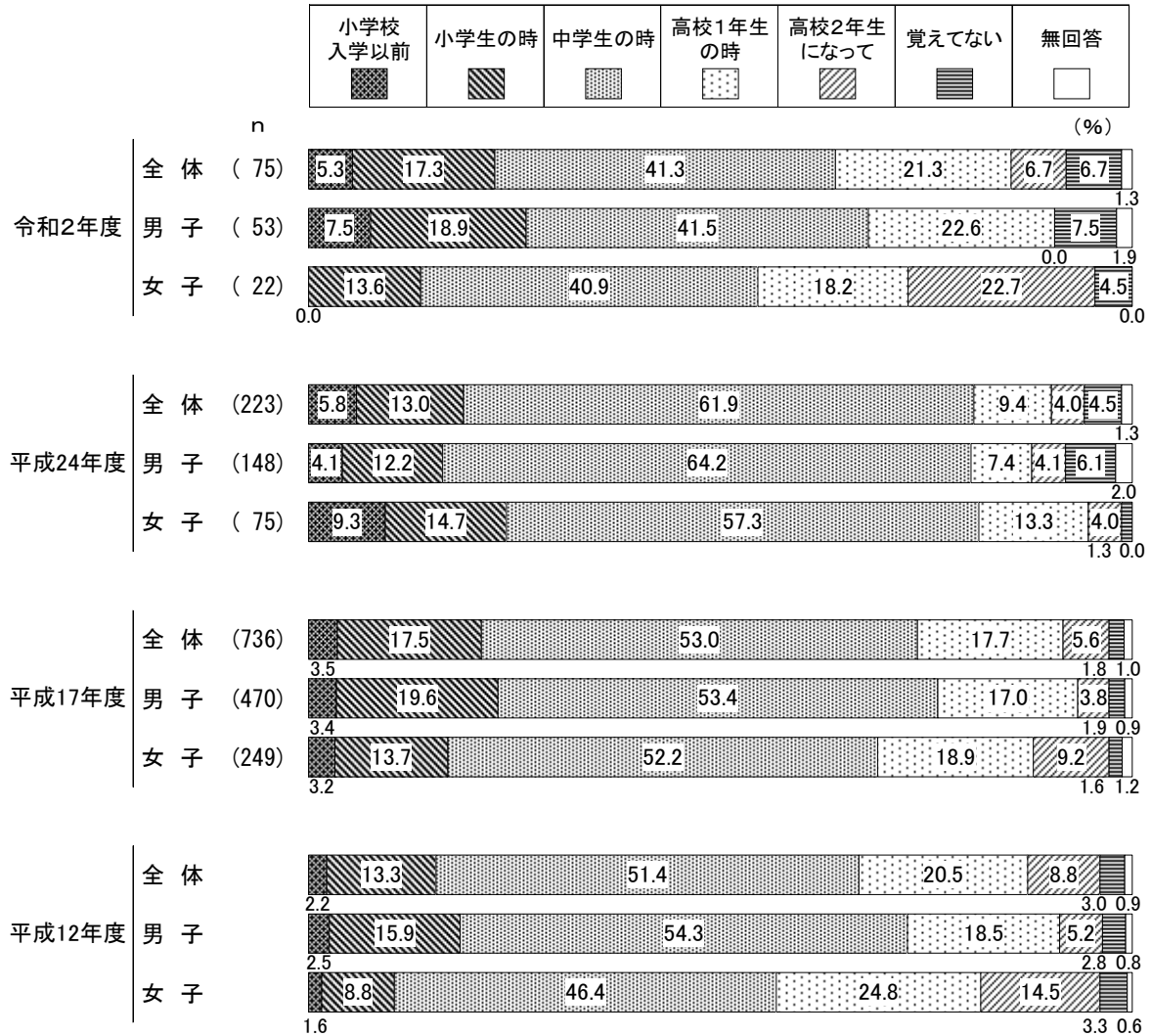
男女別でみると、男子では20.2本、女子では3.0本となっており、男子が女子より17.2本多くなっている。

過去の調査と比較すると、全体では1日あたりの平均喫煙本数は平成12年度以降増加傾向にある。男女別では1日あたりの平均喫煙本数は平成24年度より男子で4.9本増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。

(3) 初めての喫煙時期

問14で「吸う」または「今は吸わない」と答えた方へ
問14-1 初めて吸ったのはいつですか。

図表3-3-1 初めての喫煙時期（経年比較）



たばこを「吸う」または「今は吸わない」と答えた人（75人）に、初めて吸ったのはいつか聞いたところ、「中学生の時」が41.3%で最も高く、次いで「高校1年生の時」（21.3%）、「小学生の時」（17.3%）となっている。

男女別で見ると、「高校2年生になって」は女子（22.7%）が男子（0.0%）より22.7ポイント高くなっている。一方、「小学校入学以前」は男子（7.5%）が女子（0.0%）より7.5ポイント高くなっている。

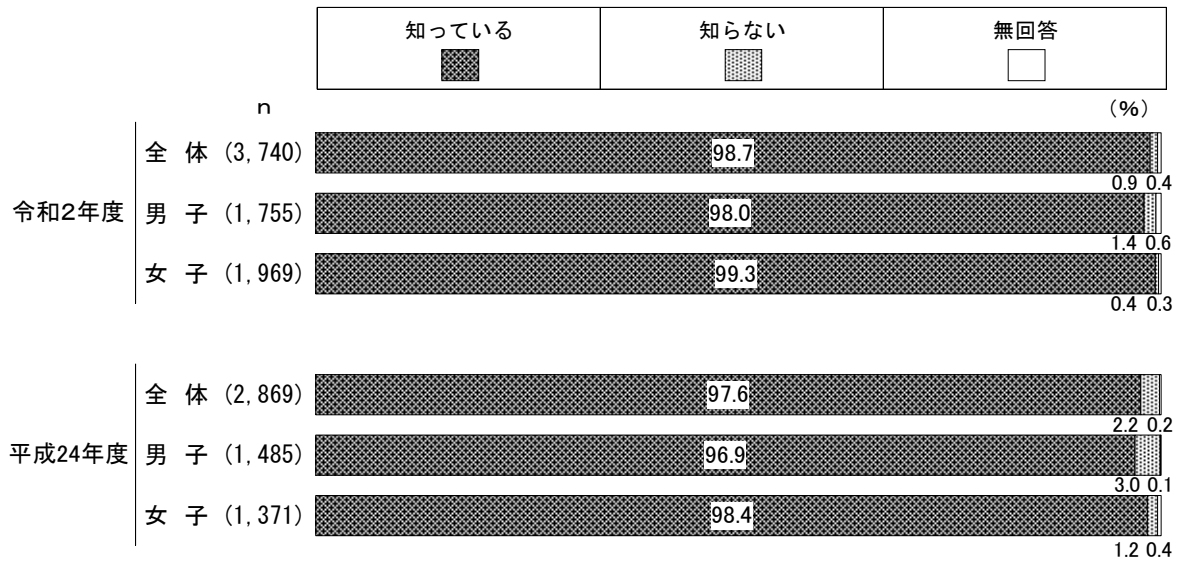
過去の調査と比較すると、全体では「高校1年生の時」は平成24年度より11.9ポイント増加している。一方、「中学生の時」は平成24年度より20.6ポイント減少している。

男女別では「高校1年生の時」は平成24年度より男子で15.2ポイント、「高校2年生になって」は平成24年度より女子で18.7ポイント、それぞれ増加している。

(4) 心や体への影響についての認知

問15 たばこを吸うことによる心や身体への悪い影響について知っていますか。

図表3-4-1 心や体への影響についての認知（経年比較）

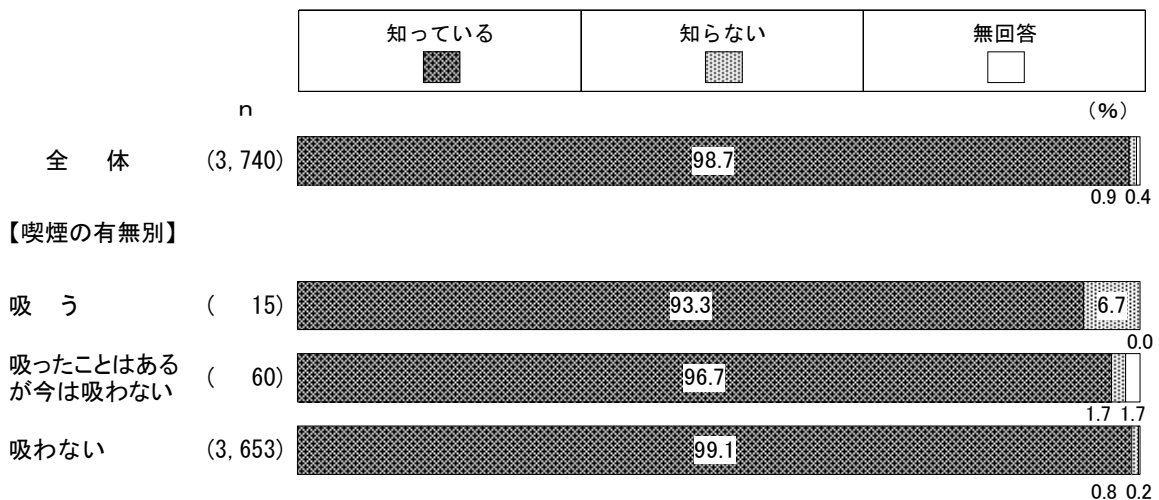


たばこを吸うことによる心や身体への悪い影響について聞いたところ、「知っている」が98.7%、「知らない」は0.9%となっている。

男女別で見ると、男女間で大きな違いはみられない。

過去の調査と比較すると、全体、男女別ともに大きな傾向の変化はみられない。

図表3-4-2 心や体への影響についての認知（喫煙の有無別）

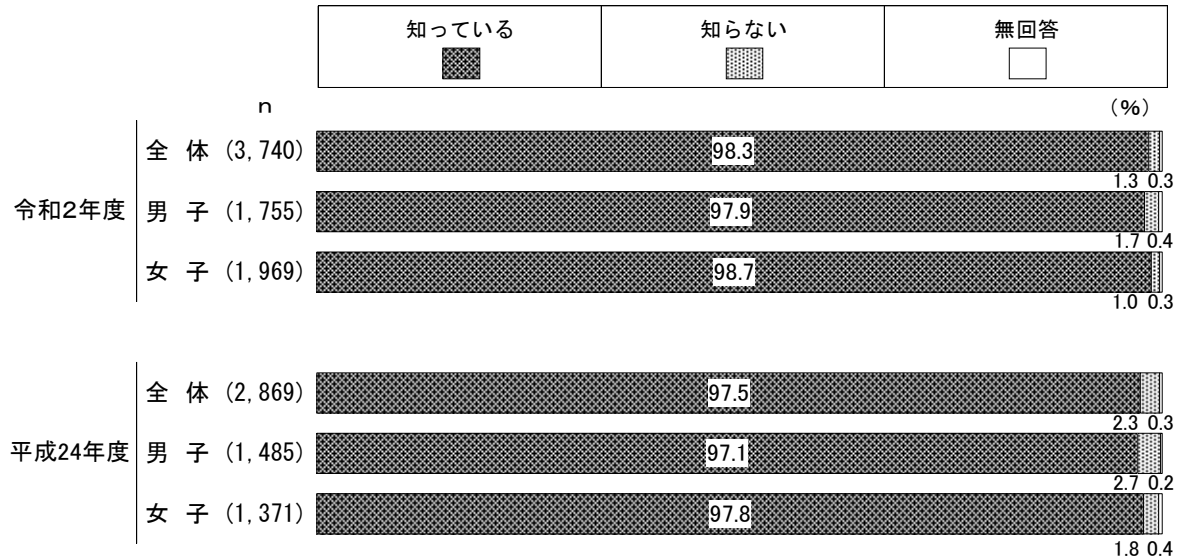


喫煙の有無別で見ると、「知っている」は“吸わない人”で99.1%と高くなっている。

(5) 受動喫煙による健康への悪い影響

問16 受動喫煙（他人のたばこの煙を吸わされること）による健康への悪い影響について知っていますか。

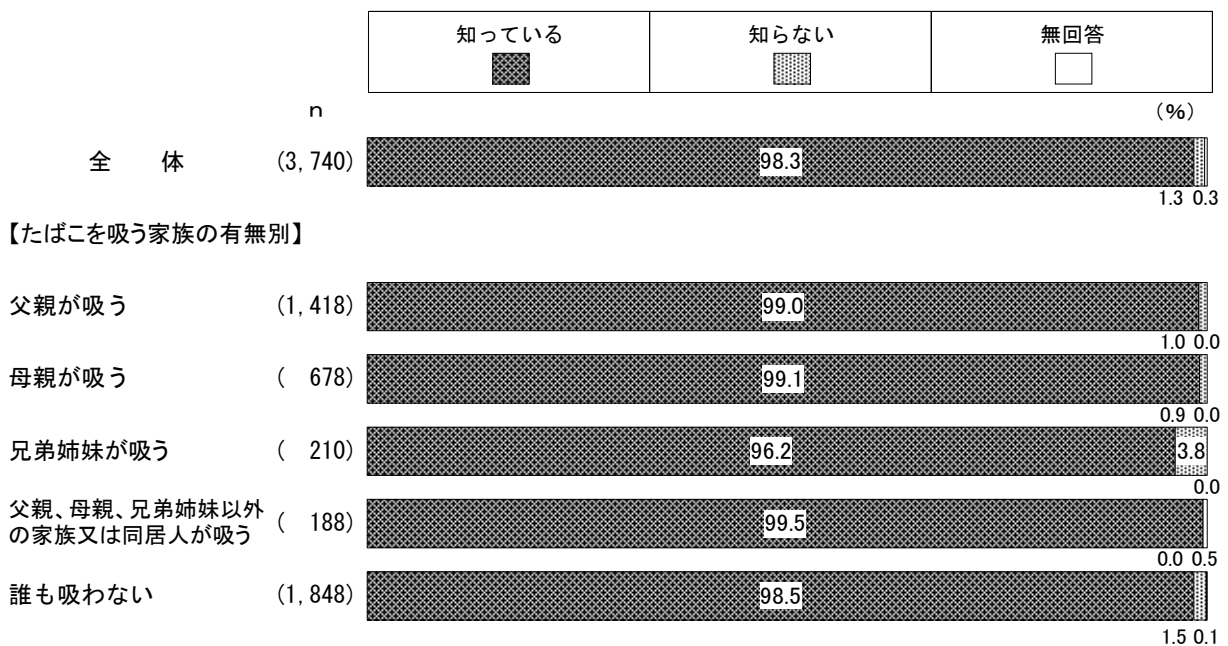
図表3-5-1 受動喫煙による健康への悪い影響（経年比較）



受動喫煙による健康への悪い影響について聞いたところ、「知っている」が98.3%、「知らない」は1.3%となっている。

男女別では大きな違いは見られず、過去の調査との比較では、大きな傾向の変化はない。

図表3-5-2 受動喫煙による健康への悪い影響（たばこを吸う家族の有無別）

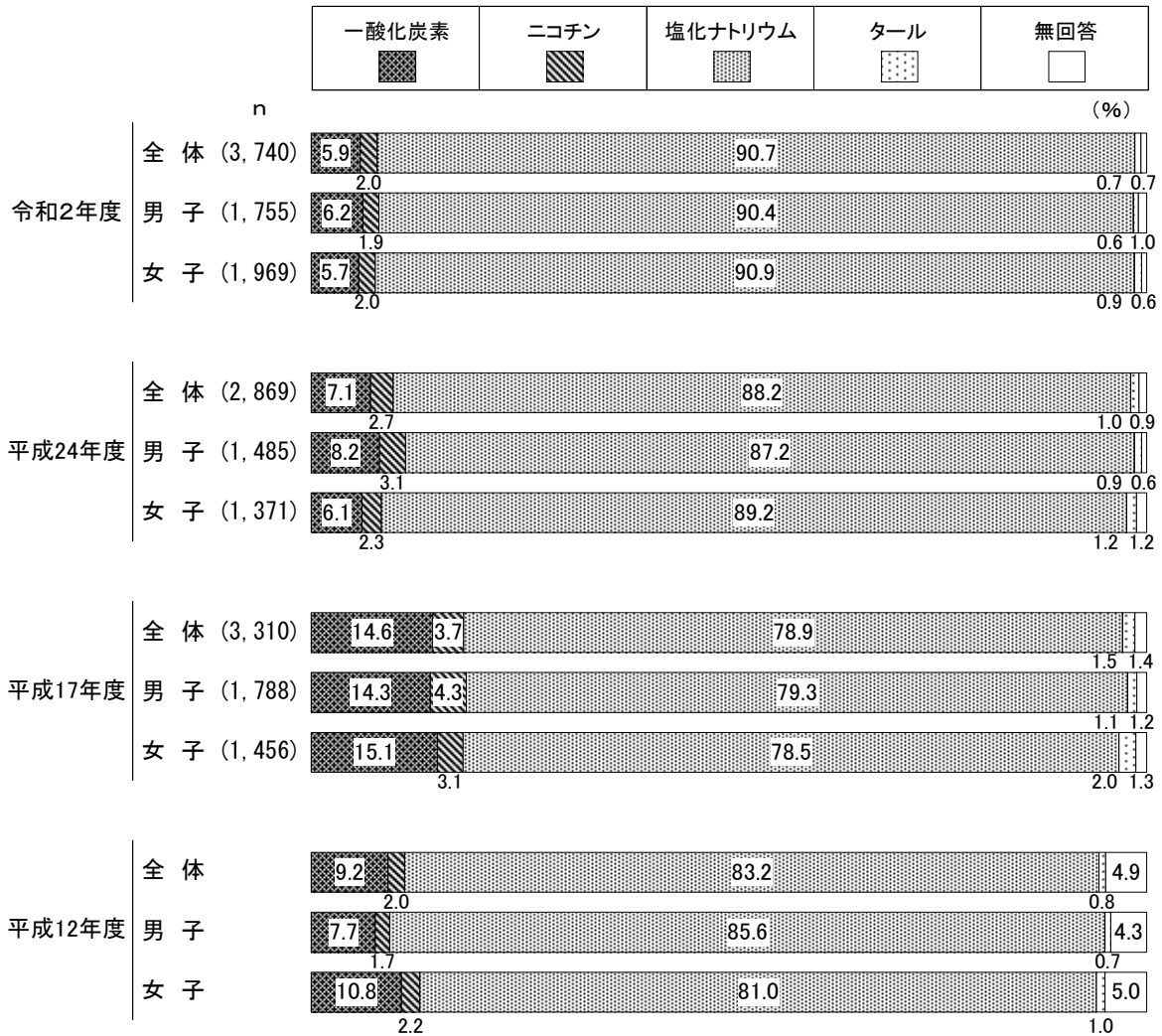


たばこを吸う家族の有無別で見ると、大きな違いはみられない。

(6) 煙の成分

問17 たばこの煙に含まれない成分は次のうちどれだと思いますか。

図表 3-6-1 煙の成分（経年比較）



たばこの煙に含まれない成分を聞いたところ、「塩化ナトリウム」が90.7%で最も高く、次いで「一酸化炭素」（5.9%）、「ニコチン」（2.0%）、「タール」（0.7%）となっている。

男女別でみると、男女間で大きな違いはみられない。

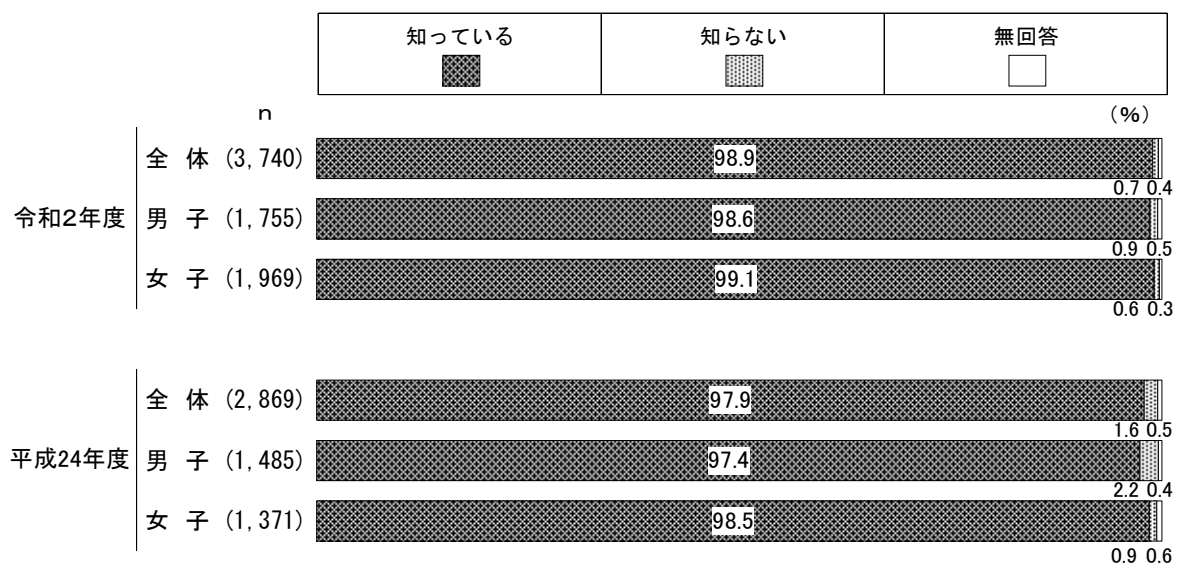
過去の調査と比較すると、全体では大きな違いはみられない。

男女別では「塩化ナトリウム」は平成24年度より男子で3.2ポイント増加している。

(7) 肺がんとの関連

問18 たばこは、将来、肺がんなどになる危険率が高いとされていることを知っていますか。

図表3-7-1 肺がんとの関連（経年比較）



たばこは、将来、肺がんなどになる危険率が高いとされていることを知っているか聞いたところ、「知っている」が98.9%、「知らない」は0.7%となっている。

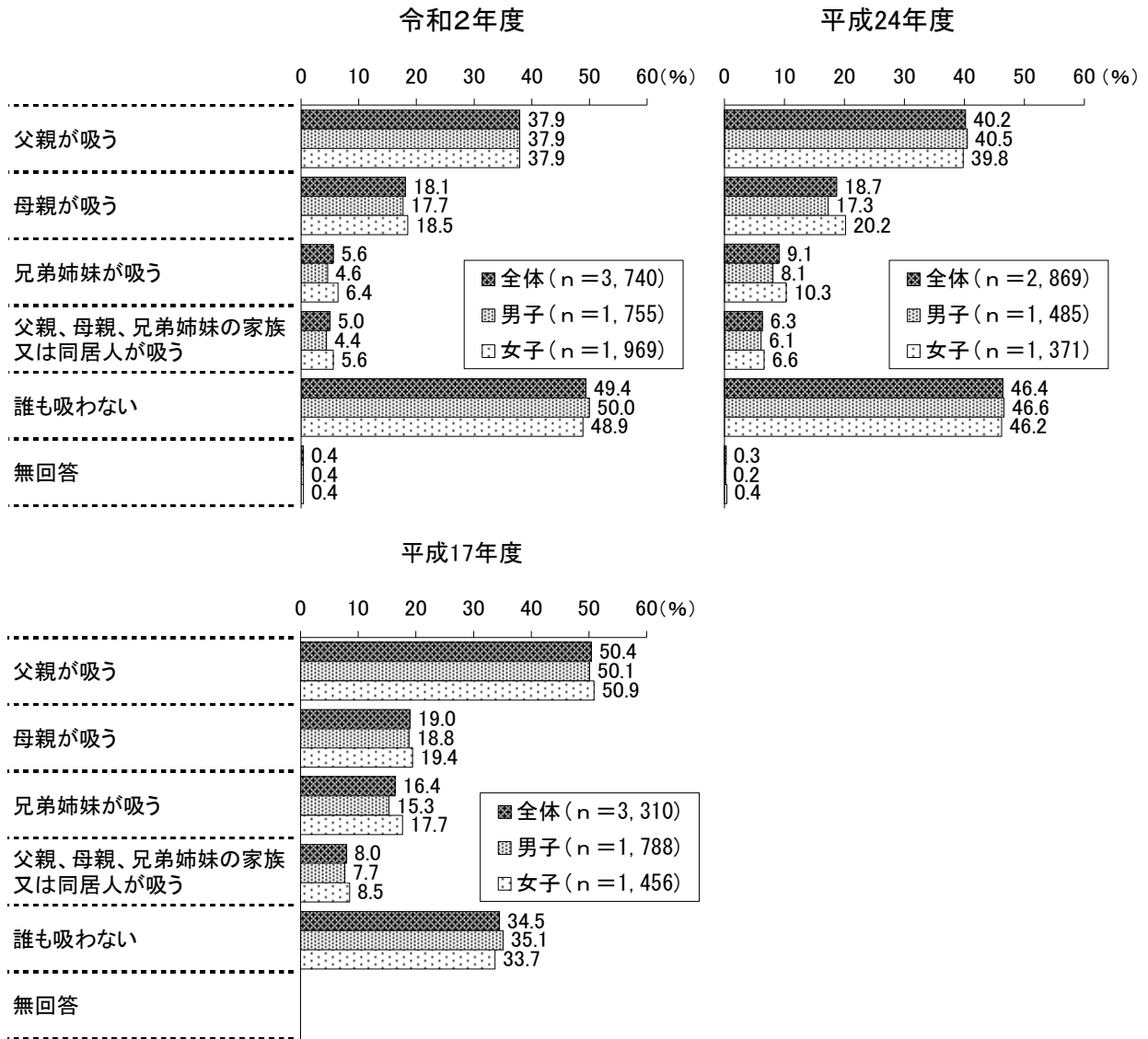
男女別で見ると、男女間で大きな違いはみられない。

過去の調査と比較すると、全体、男女別ともに大きな傾向の変化はみられない。

(8) たばこを吸う家族の有無

問19 家族の方はたばこを吸いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

図表3-8-1 たばこを吸う家族の有無(経年比較) [複数回答]



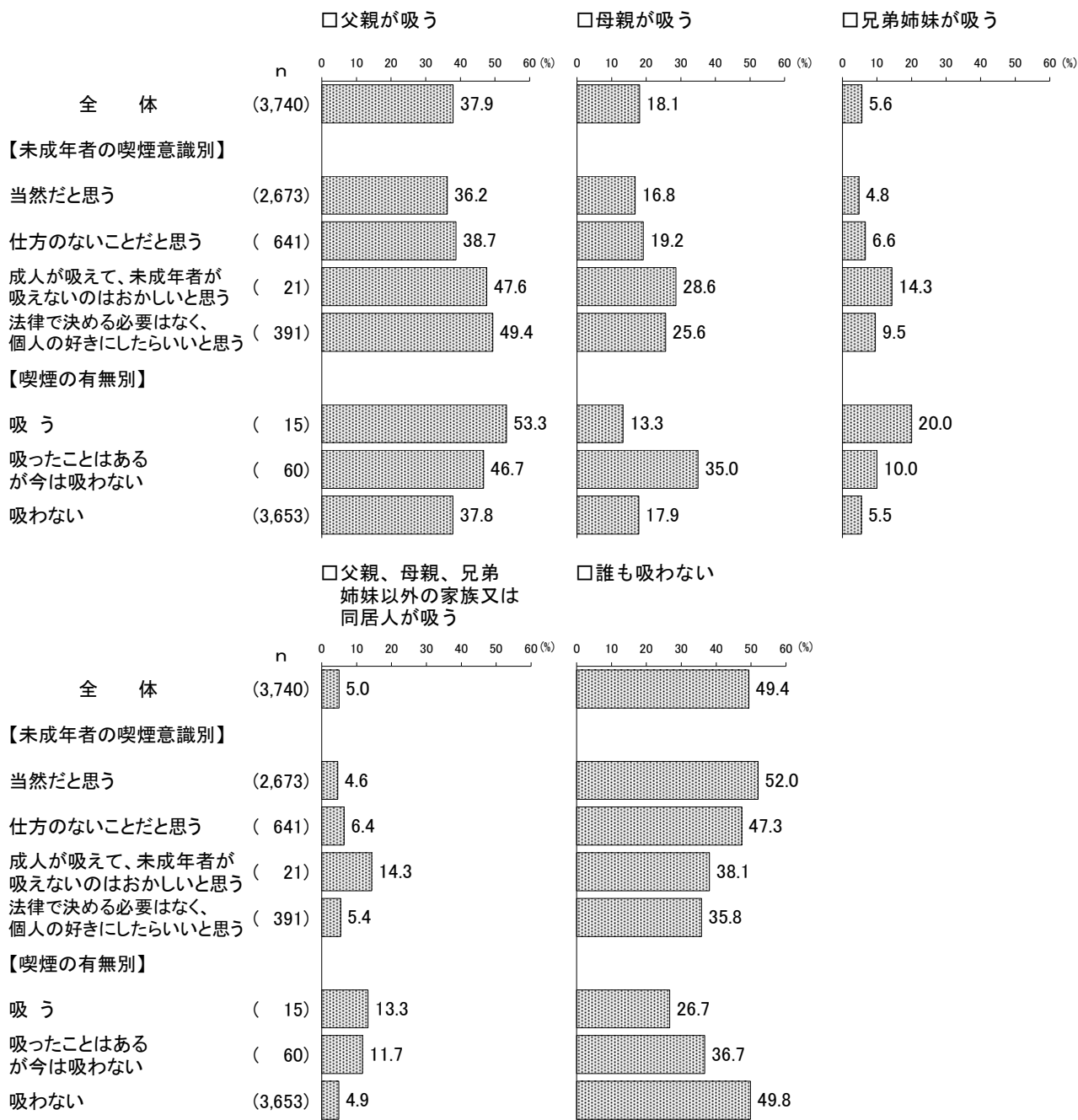
家族の方はたばこを吸うか聞いたところ、「誰も吸わない」が49.4%で最も高く、次いで「父親が吸う」(37.9%)、「母親が吸う」(18.1%)、「兄弟姉妹が吸う」(5.6%)となっている。

男女別でみると、男女間で大きな違いはみられない。

過去の調査と比較すると、全体では「誰も吸わない」は平成24年度より3.0ポイント増加しており、平成17年度以降増加傾向にある。一方、「兄弟姉妹が吸う」は平成24年度より3.5ポイント減少している。

男女別では「誰も吸わない」は平成24年度より男子で3.4ポイント増加している。一方、「兄弟姉妹が吸う」は平成24年度より男子で3.5ポイント、女子で3.9ポイント、それぞれ減少している。

図表 3-8-2 たばこを吸う家族の有無（未成年者の喫煙意識別、喫煙の有無別）



未成年者の喫煙意識別でみると、「父親が吸う」は“法律で決める必要はなく、個人の好きにしたらいいと思う”で49.4%と高くなっている。「母親が吸う」は“成人が吸えて、未成年者が吸えないのはおかしいと思う”で28.6%と高くなっている。「誰も吸わない」は“当然だと思う”で52.0%と高くなっている。

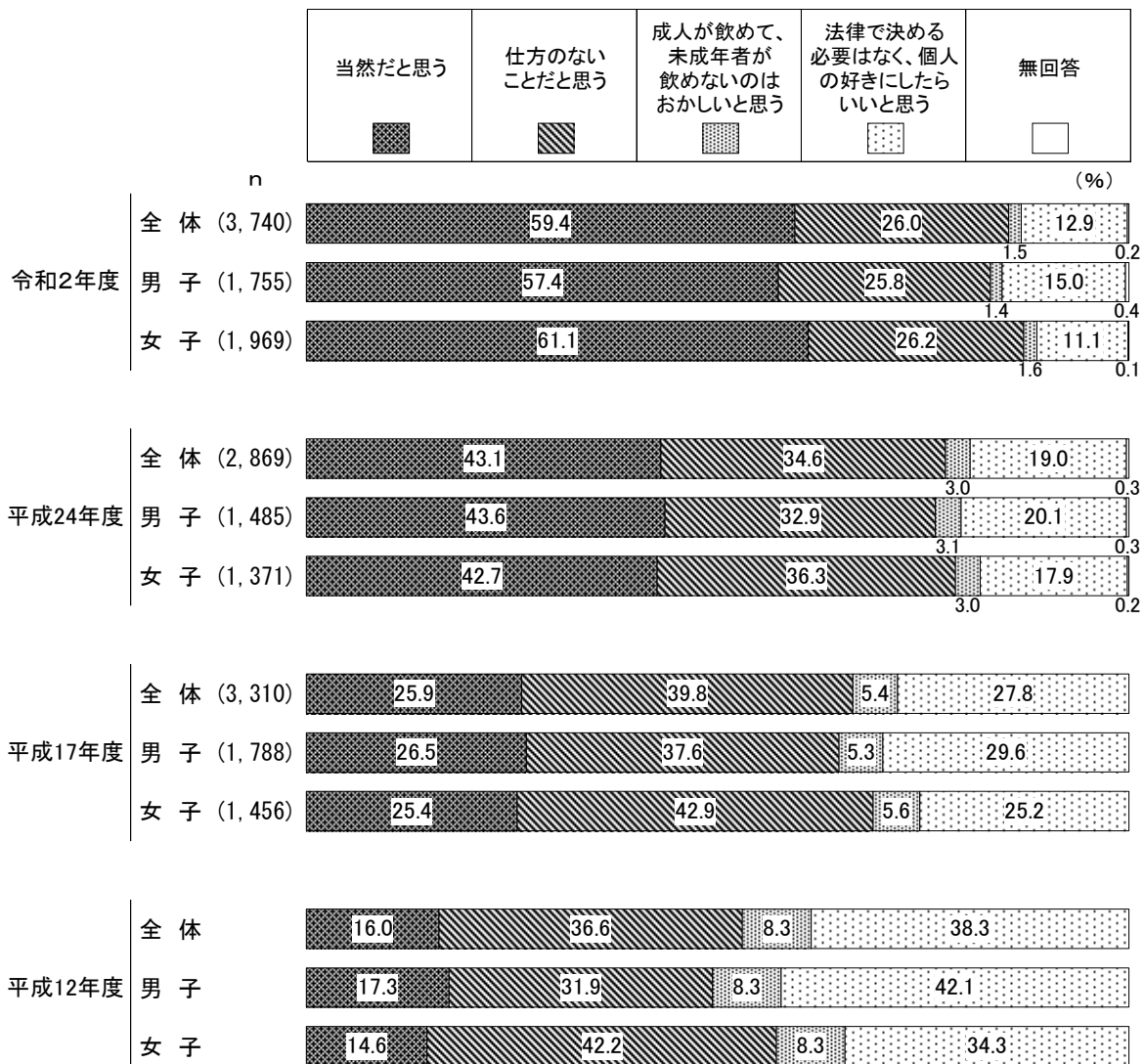
喫煙の有無別でみると、「母親が吸う」は“吸ったことはあるが今は吸わない人”で35.0%と高くなっている。「誰も吸わない」は“吸わない人”で49.8%と高くなっている。

4. 飲酒

(1) 未成年者の飲酒意識

問20 未成年者の飲酒禁止をどう思いますか。

図表4-1-1 未成年者の飲酒意識（経年比較）



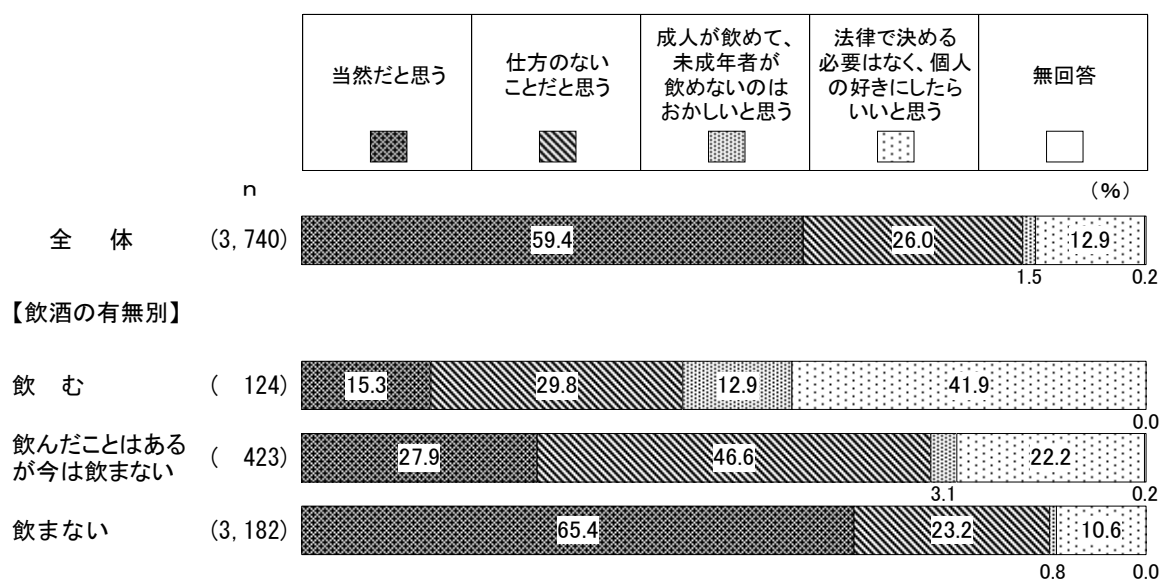
未成年者の飲酒禁止について聞いたところ、「当然だと思う」が59.4%で最も高く、次いで「仕方のないことだと思う」（26.0%）、「法律で決める必要はなく、個人の好きにしたらいいと思う」（12.9%）、「成人が飲めて、未成年者が飲めないのはおかしいと思う」（1.5%）となっている。

男女別でみると、「法律で決める必要はなく、個人の好きにしたらいいと思う」は男子（15.0%）が女子（11.1%）より3.9ポイント高くなっている。一方、「当然だと思う」は女子（61.1%）が男子（57.4%）より3.7ポイント高くなっている。

過去の調査と比較すると、全体では「当然だと思う」は平成24年度より16.3ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。

男女別では「当然だと思う」は平成24年度より男子で13.8ポイント、女子で18.4ポイント、それぞれ増加している。

図表 4-1-2 未成年者の飲酒意識（飲酒の有無別）

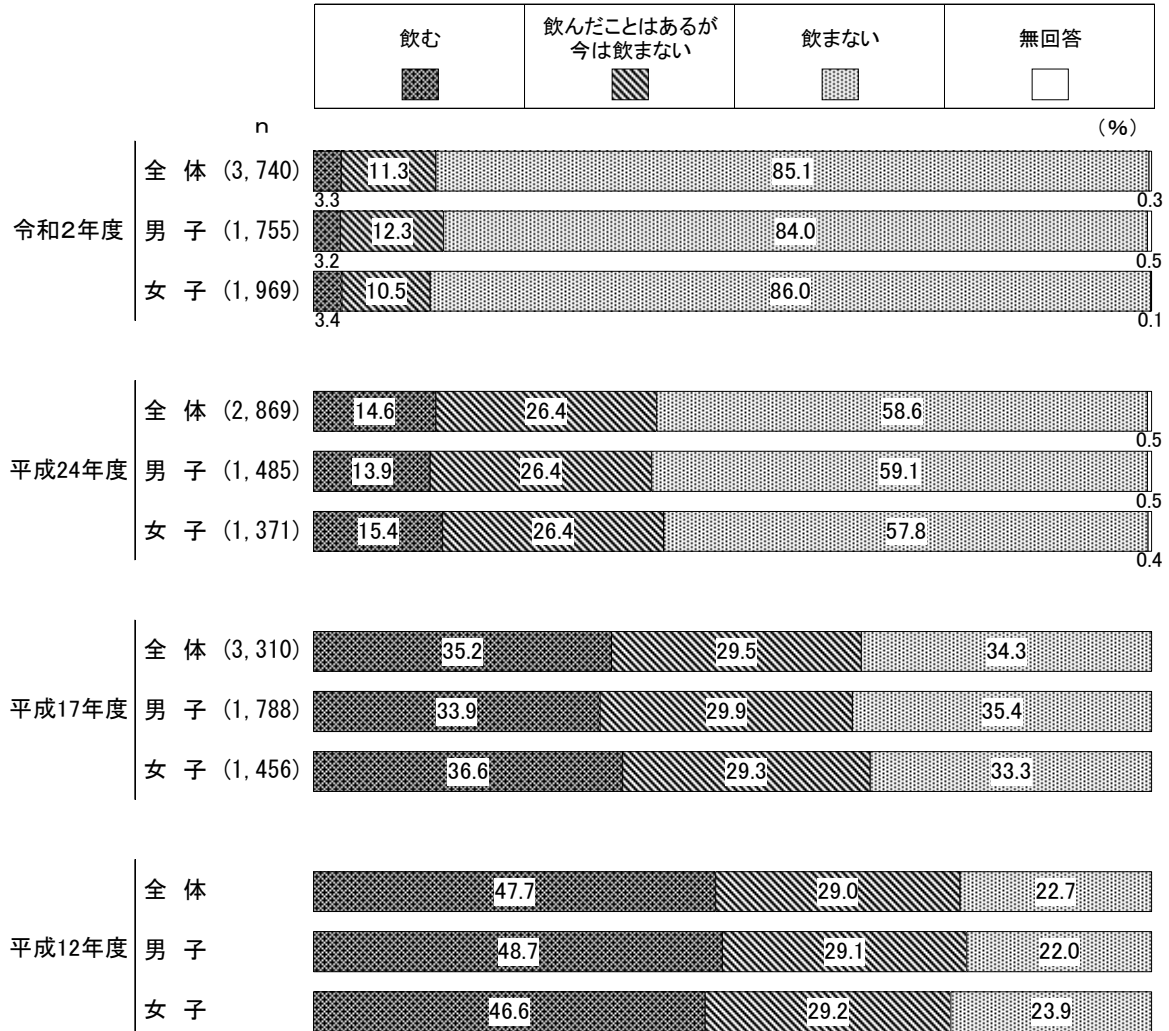


飲酒の有無別で見ると、「当然だと思う」は“飲まない人”で65.4%と高くなっている。「仕方のないことだと思う」は“飲んだことはあるが今は飲まない人”で46.6%と高くなっている。「法律で決める必要はなく、個人の好きにしたらいいと思う」は“飲む人”で41.9%と高くなっている。

(2) 飲酒の有無

問21 あなたは、お酒（ビール、チューハイなどを含む）を飲みますか。

図表4-2-1 飲酒の有無（経年比較）



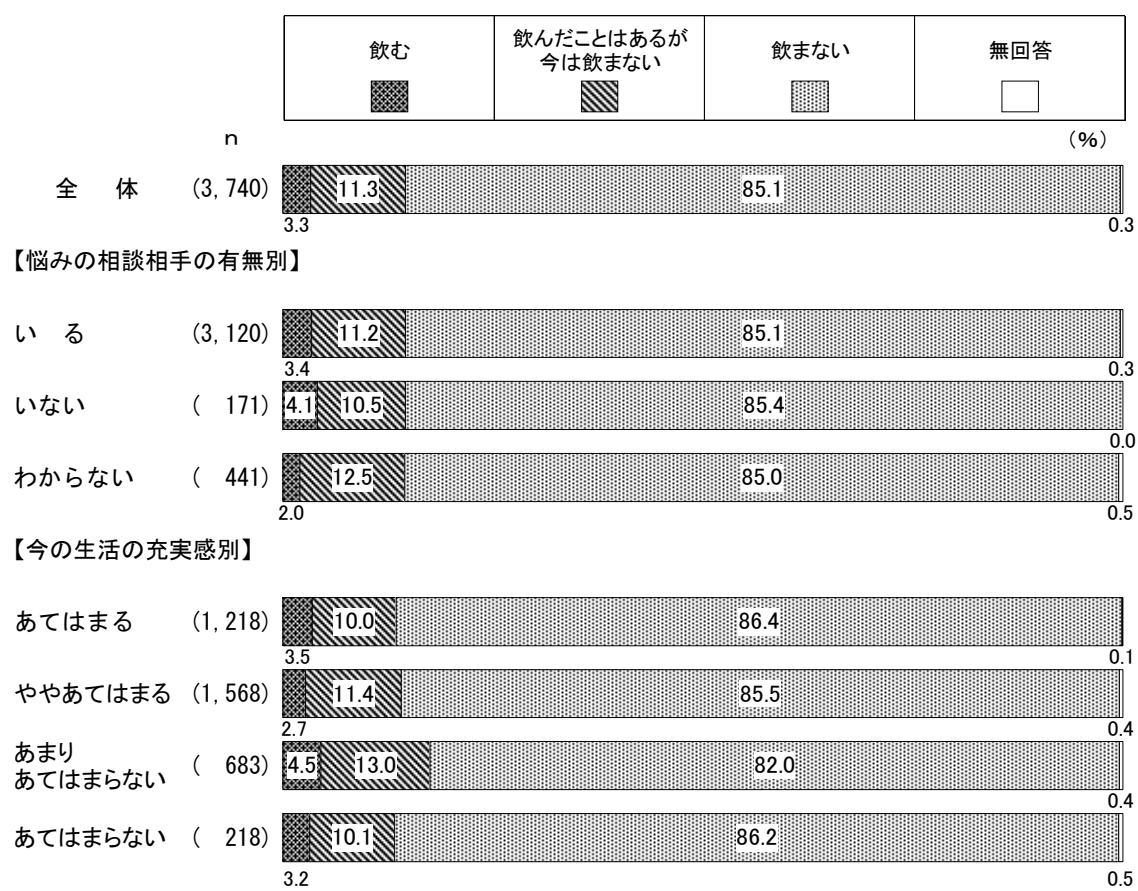
お酒を飲むか聞いたところ、「飲む」が3.3%、「飲んだことはあるが今は飲まない」は11.3%となっている。一方、「飲まない」は85.1%となっている。

男女別でみると、男女間で大きな違いはみられない。

過去の調査と比較すると、全体では「飲まない」は平成24年度より26.5ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。

男女別では「飲まない」は平成24年度より男子で24.9ポイント、女子で28.2ポイント、それぞれ増加している。

図表 4-2-2 飲酒の有無（悩みの相談相手の有無別、今の生活の充実感別）



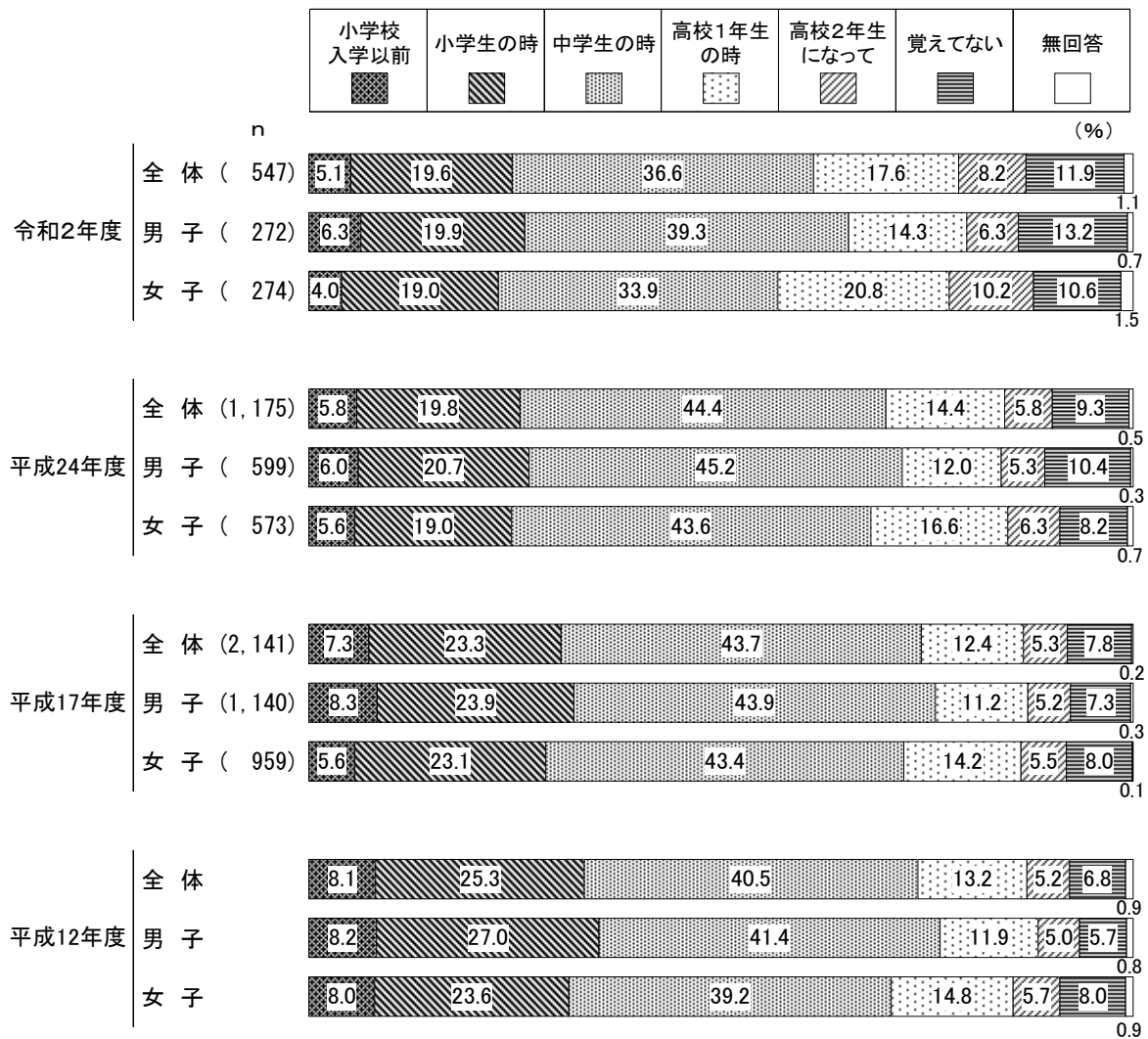
悩みの相談相手の有無別でみると、大きな違いはみられない。

今の生活の充実感別でみると、大きな違いはみられない。

(3) 初めての飲酒の時期

問21で「飲む」または「今は飲まない」と答えた方へ
問21-1① 初めてお酒を飲んだのはいつですか。

図表4-3-1 初めての飲酒の時期（経年比較）



お酒を「飲む」または「今は飲まない」と答えた人（547人）に、初めてお酒を飲んだのはいつか聞いたところ、「中学生の時」が36.6%で最も高く、次いで「小学生の時」（19.6%）、「高校1年生の時」（17.6%）、「覚えてない」（11.9%）となっている。

男女別で見ると、「高校1年生の時」は女子（20.8%）が男子（14.3%）より6.5ポイント高くなっている。一方、「中学生の時」は男子（39.3%）が女子（33.9%）より5.4ポイント高くなっている。

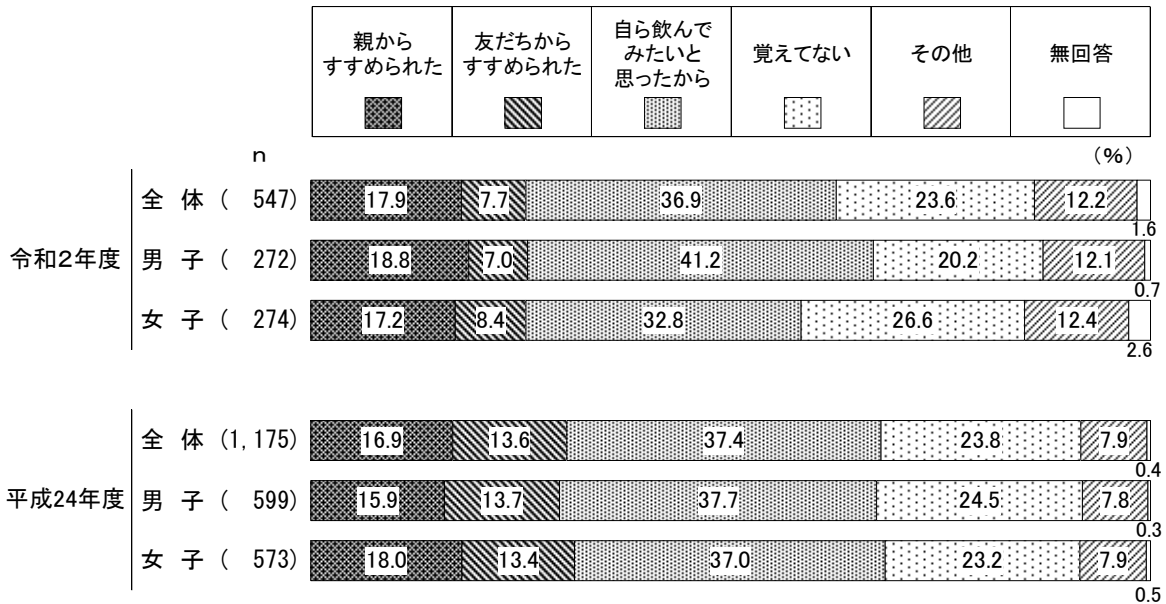
過去の調査と比較すると、全体では「高校1年生の時」は平成24年度より3.2ポイント増加している。一方、「中学生の時」は平成24年度より7.8ポイント減少している。

男女別では「高校1年生の時」は平成24年度より女子で4.2ポイント、「高校2年生になって」は平成24年度より女子で3.9ポイント、それぞれ増加している。一方、「中学生の時」は平成24年度より男子で5.9ポイント、女子で9.7ポイント、それぞれ減少している。

(4) 飲酒のきっかけ

問21で「飲む」または「今は飲まない」と答えた方へ
問21-1② お酒を飲んだきっかけはなんですか。

図表4-4-1 飲酒のきっかけ（経年比較）



お酒を「飲む」または「今は飲まない」と答えた人（547人）に、お酒を飲んだきっかけを聞いたところ、「自ら飲んでみたいと思ったから」が36.9%で最も高く、次いで「覚えてない」（23.6%）、「親からすすめられた」（17.9%）、「友だちからすすめられた」（7.7%）となっている。

男女別で見ると、「自ら飲んでみたいと思ったから」は男子（41.2%）が女子（32.8%）より8.4ポイント高くなっている。一方、「覚えてない」は女子（26.6%）が男子（20.2%）より6.4ポイント高くなっている。

過去の調査と比較すると、全体では「友だちからすすめられた」は平成24年度より5.9ポイント減少している。

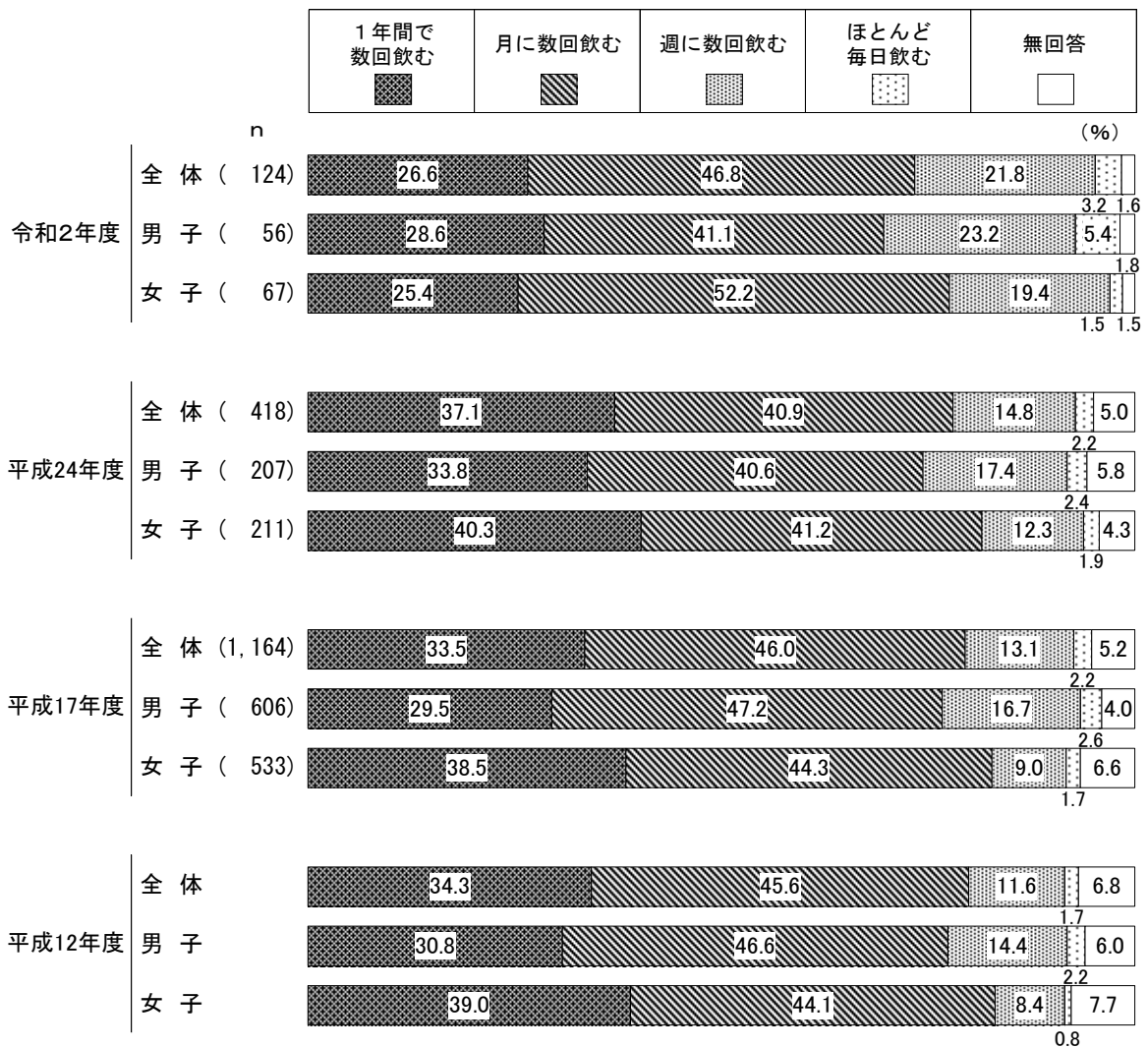
男女別では「自ら飲んでみたいと思ったから」は平成24年度より男子で3.5ポイント、「覚えてない」は平成24年度より女子で3.4ポイント、それぞれ増加している。一方、「友だちからすすめられた」は平成24年度より男子で6.7ポイント、女子で5.0ポイント、それぞれ減少している。

(5) 飲酒の頻度

問21で「飲む」と答えた方へ

問21-2 どのくらい飲みますか。

図表4-5-1 飲酒の頻度（経年比較）



お酒を「飲む」と答えた人（124人）に、どのくらい飲むか聞いたところ、「月に数回飲む」が46.8%で最も高く、次いで「1年間で数回飲む」（26.6%）、「週に数回飲む」（21.8%）、「ほとんど毎日飲む」（3.2%）となっている。

男女別で見ると、「月に数回飲む」は女子（52.2%）が男子（41.1%）より11.1ポイント高くなっている。

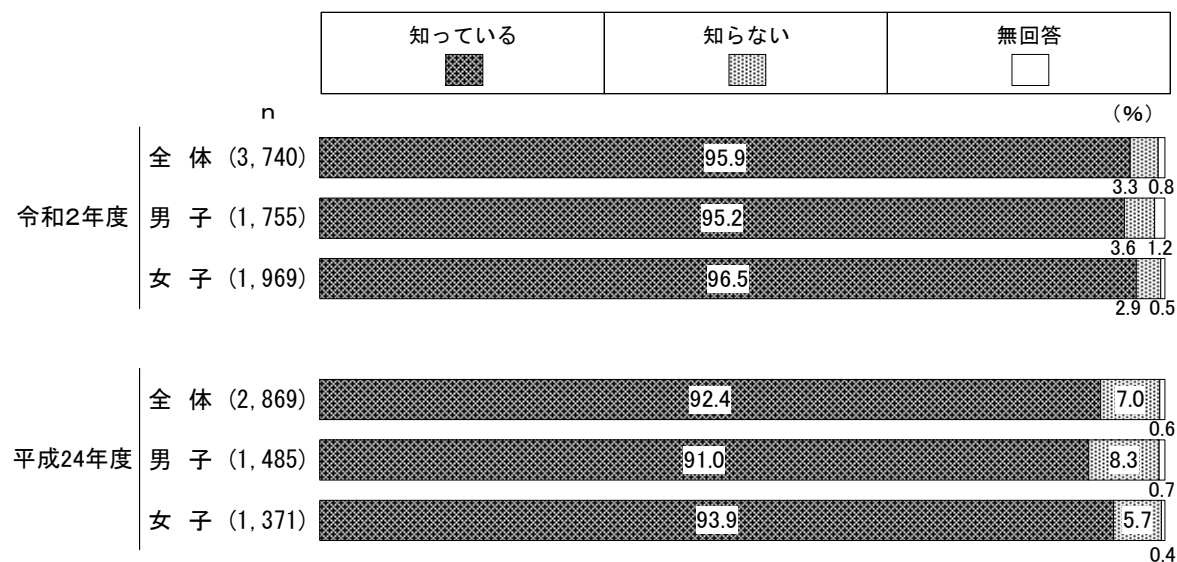
過去の調査と比較すると、全体では「週に数回飲む」は平成24年度より7.0ポイント増加している。一方、「1年間で数回飲む」は平成24年度より10.5ポイント減少している。

男女別では「月に数回飲む」は平成24年度より女子で11.0ポイント、「週に数回飲む」は平成24年度より男子で5.8ポイント、それぞれ増加している。一方、「1年間で数回飲む」は平成24年度より男子で5.2ポイント、女子で14.9ポイント、それぞれ減少している。

(6) 心や体への影響についての認知

問22 飲酒による心や身体への悪い影響について知っていますか。

図表4-6-1 心や体への影響についての認知（経年比較）



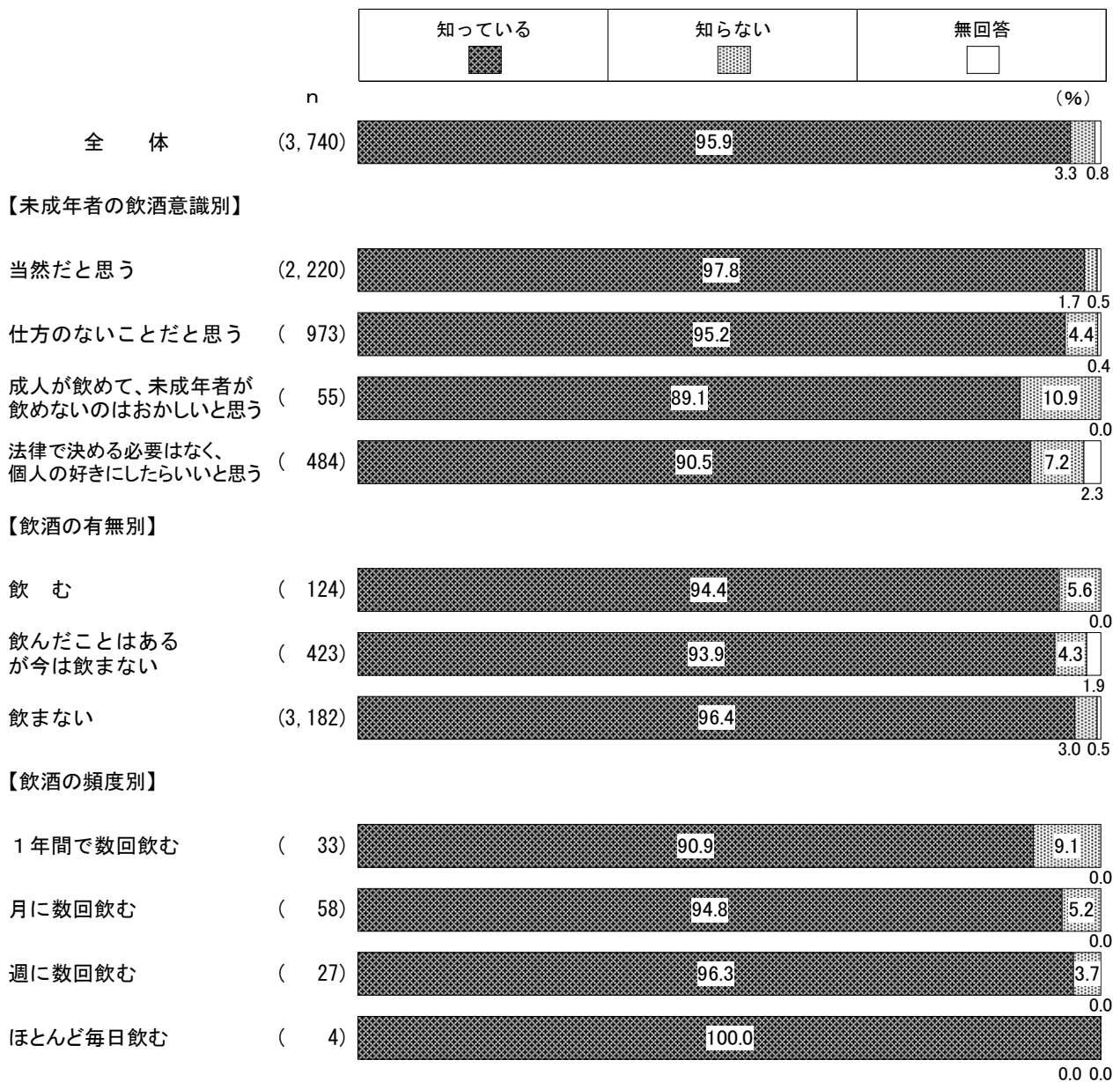
飲酒による心や身体への悪い影響について知っているか聞いたところ、「知っている」が95.9%、「知らない」は3.3%となっている。

男女別でみると、男女間で大きな違いはみられない。

過去の調査と比較すると、過去の調査と比較すると、全体では「知っている」は平成24年度より3.5ポイント増加している。

男女別では「知っている」は平成24年度より男子で4.2ポイント増加している。

図表 4-6-2 心や体への影響についての認知（未成年者の飲酒意識別、飲酒の有無別、飲酒の頻度別）



未成年者の飲酒意識別でみると、「知っている」は“当然だと思う”で97.8%と高くなっている。

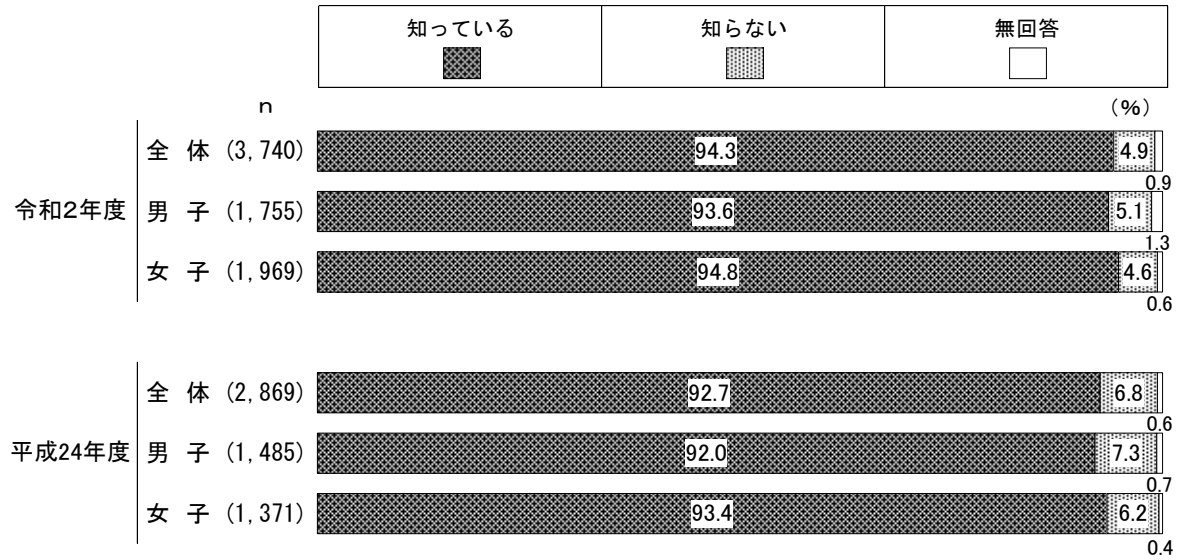
飲酒の有無別でみると、「知っている」は“飲まない人”で96.4%と高くなっている。

飲酒の頻度別でみると、「知っている」は飲酒頻度が高くなるほど割合が高くなっている。

(7) 急性アルコール中毒についての認知

問23 未成年の飲酒は急性アルコール中毒になりやすく、場合によっては死亡することもあることを知っていますか。

図表 4-7-1 急性アルコール中毒についての認知（経年比較）

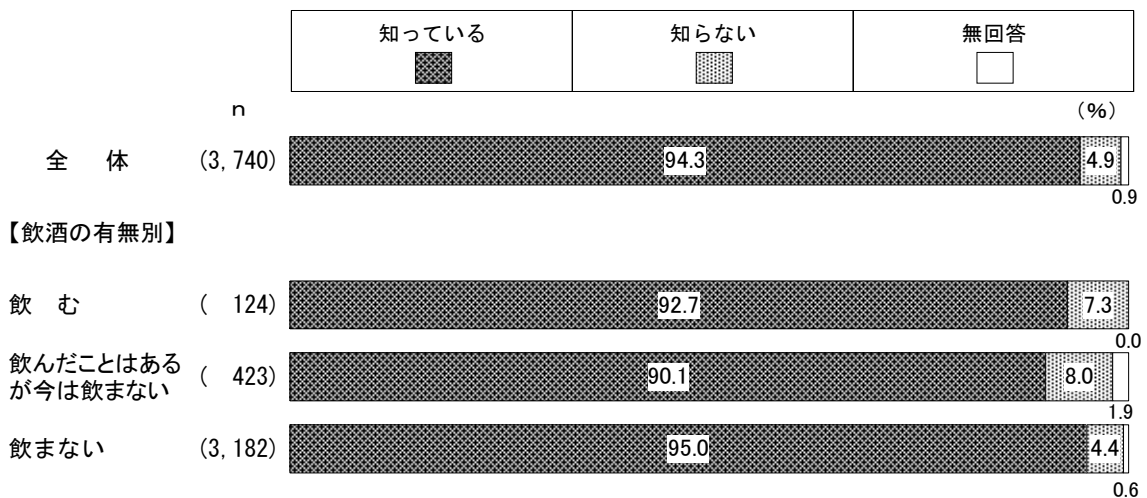


未成年の飲酒は急性アルコール中毒になりやすいことを知っているか聞いたところ、「知っている」が94.3%、「知らない」は4.9%となっている。

男女別で見ると、男女間で大きな違いはみられない。

過去の調査と比較すると、全体、男女別ともに大きな傾向の変化はみられない。

図表 4-7-2 急性アルコール中毒についての認知（飲酒の有無別）



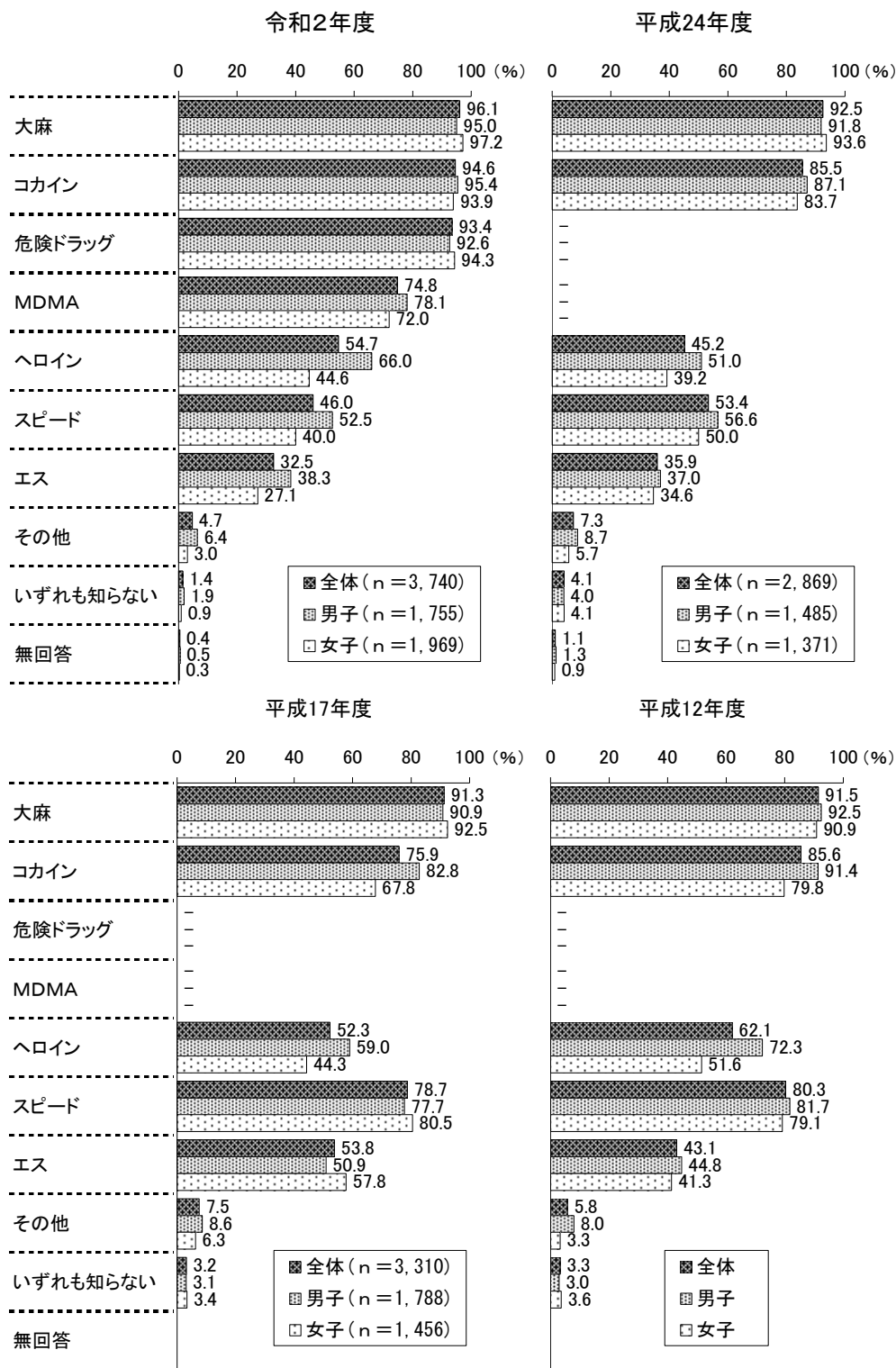
飲酒の有無別で見ると、「知っている」は“飲まない人”で95.0%と高くなっている。

5. 薬物

(1) 薬物の認知状況

問24 乱用すると有害な薬物である知っているものはどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。その他にはさらに知っている場合、記入してください。

図表5-1-1 薬物の認知状況（経年比較）〔複数回答〕



※「危険ドラッグ」、「MDMA」は令和2年度から追加された選択肢

乱用すると有害な薬物であると知っているものはどれか聞いたところ、「大麻」が96.1%で最も高く、次いで「コカイン」（94.6%）、「危険ドラッグ」（93.4%）、「MDMA」（74.8%）となっている。

男女別でみると、「ヘロイン」は男子（66.0%）が女子（44.6%）より21.4ポイント、「スピード」は男子（52.5%）が女子（40.0%）より12.5ポイント、「エス」は男子（38.3%）が女子（27.1%）より11.2ポイント、それぞれ高くなっている。

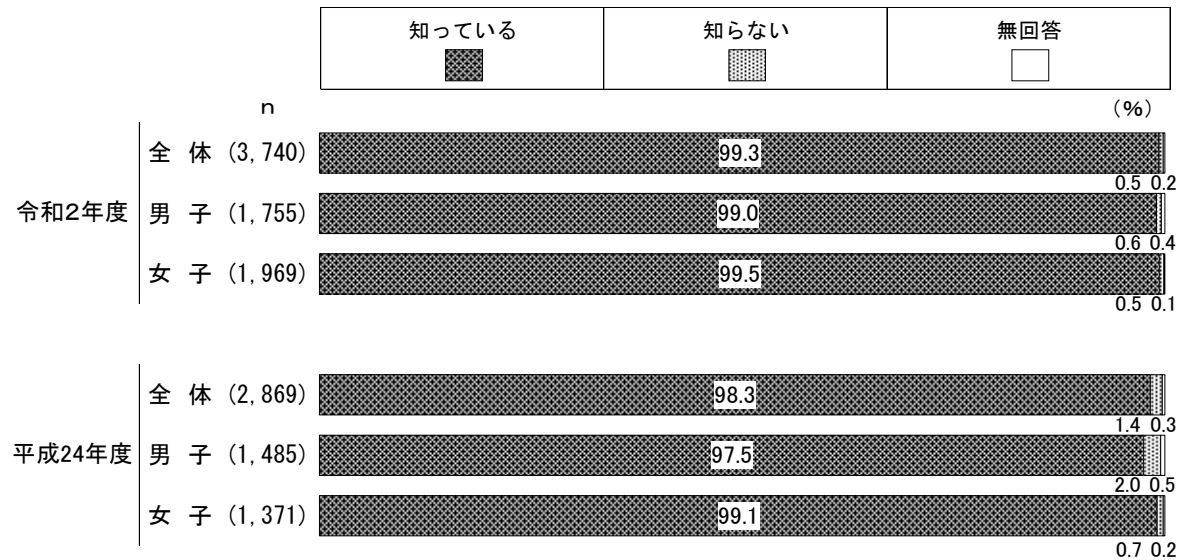
過去の調査と比較すると、全体では「ヘロイン」は平成24年度より9.5ポイント、「コカイン」は平成24年度より9.1ポイント、それぞれ増加している。一方、「スピード」は平成24年度より7.4ポイント減少している。

男女別では「ヘロイン」は平成24年度より男子で15.0ポイント、「コカイン」は平成24年度より女子で10.2ポイント、それぞれ増加している。一方、「スピード」は平成24年度より男子で4.1ポイント、女子で10.0ポイント、それぞれ減少している。

(2) 薬物乱用による薬物依存状態の認知

問25 大麻や覚せい剤などの薬物乱用を繰り返すと、薬物依存状態（やめたくても、やめられない状態）になることを知っていますか。

図表 5-2-1 薬物乱用による薬物依存状態の認知（経年比較）



※平成 24 年度の設問文は、「シンナー遊びなど薬物乱用には習慣性（やめられなくなるなど）があることを知っていますか。」としていた

大麻や覚せい剤などの薬物乱用を繰り返すと、薬物依存状態になることを知っているか聞いたところ、「知っている」が99.3%、「知らない」は0.5%となっている。

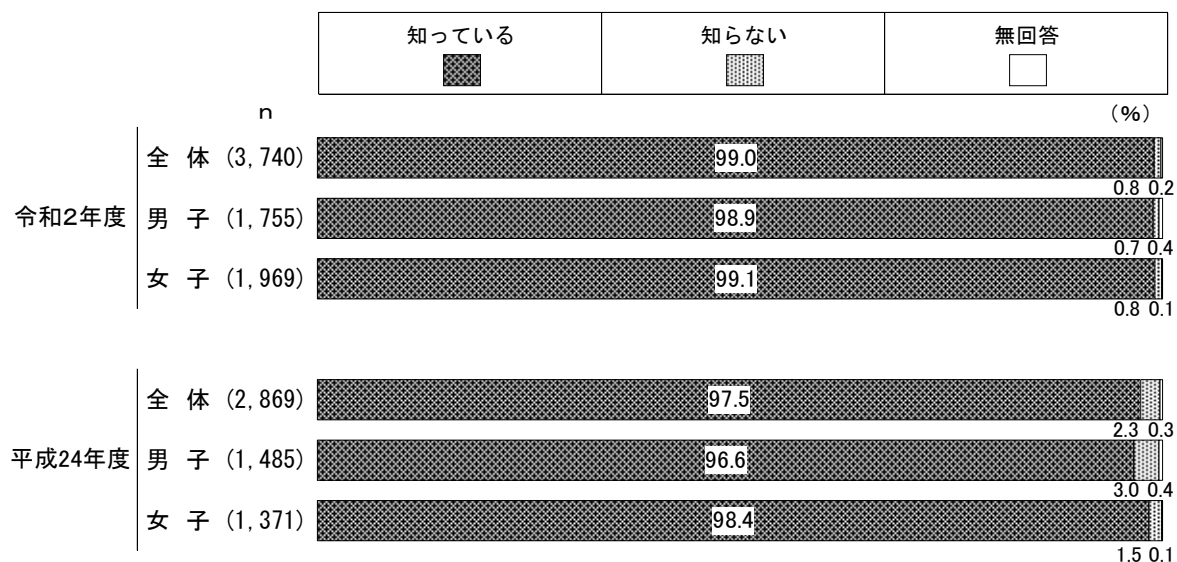
男女別でみると、男女間で大きな違いはみられない。

過去の調査と比較すると、全体、男女別ともに大きな傾向の変化はみられない。

(3) 脳などへの影響の認知

問26 薬物乱用を繰り返すことによって、脳など身体がぼろぼろになることを知っていますか。

図表5-3-1 脳などへの影響の認知（経年比較）



※平成24年度の設問文は、「シンナー遊びを繰り返すことによって、脳や肝臓がぼろぼろになることを知っていますか。」としていた

薬物乱用を繰り返すことによって、脳など身体がぼろぼろになることを知っているか聞いたところ、「知っている」が99.0%、「知らない」は0.8%となっている。

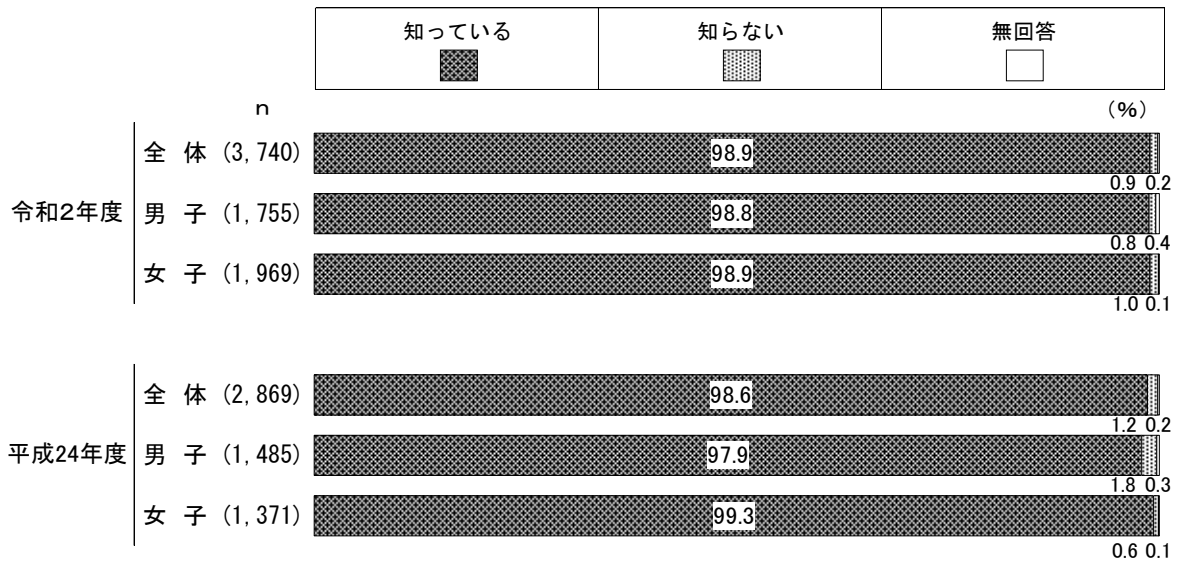
男女別でみると、男女間で大きな違いはみられない。

過去の調査と比較すると、全体、男女別ともに大きな傾向の変化はみられない。

(4) 幻視・幻聴に関する知識の認知

問27 薬物乱用を繰り返すことによって、何もないのに物が見えたり（幻視）、実際には何も聞こえないのに声が聞こえたり（幻聴）するようなことがあるのを知っていますか。

図表5-4-1 幻視・幻聴に関する知識の認知（経年比較）



※平成24年度の設問文は、「シンナー遊びを繰り返すことによって実際には何もないのに物が見えたり（幻視）、声が聞こえたり（幻聴）するようなことがあるのを知っていますか。」としていた

薬物乱用を繰り返すことによって、何もないのに物が見えたり、実際には何も聞こえないのに声が聞こえたりするようなことがあるのを知っているか聞いたところ、「知っている」が98.9%、「知らない」は0.9%となっている。

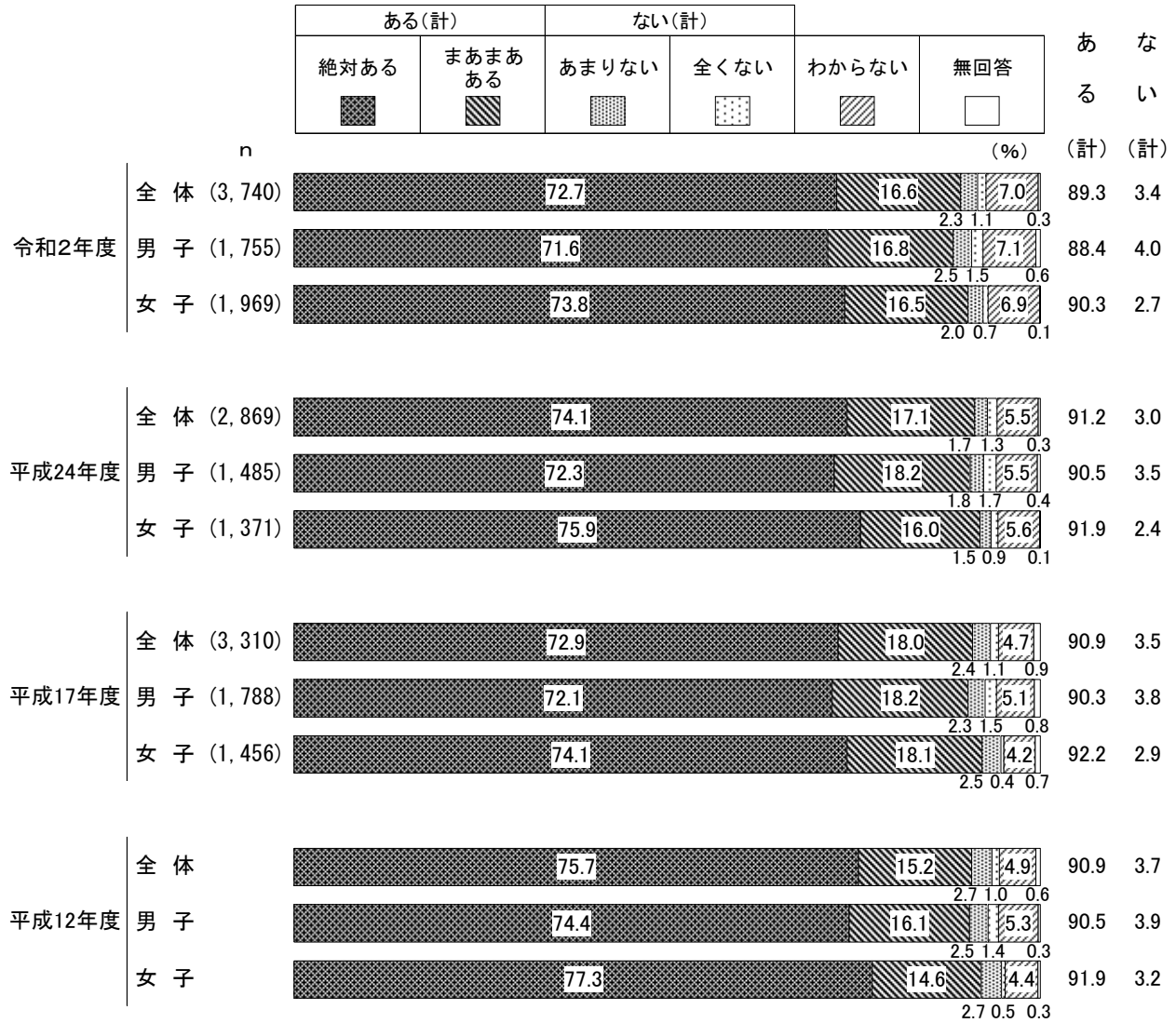
男女別でみると、男女間で大きな違いはみられない。

過去の調査と比較すると、全体、男女別ともに大きな傾向の変化はみられない。

(5) 薬物使用のすすめを断る自信度

問28 大麻や覚せい剤などの薬物の不正な使用をすすめられたら、あなたは断る自信がありますか。

図表5-5-1 薬物使用のすすめを断る自信度（経年比較）



※平成24年度までの設問文は、「シンナー遊びや覚せい剤などの薬物の不正な使用をすすめられたら、あなたは断る自信がありますか。」としていた

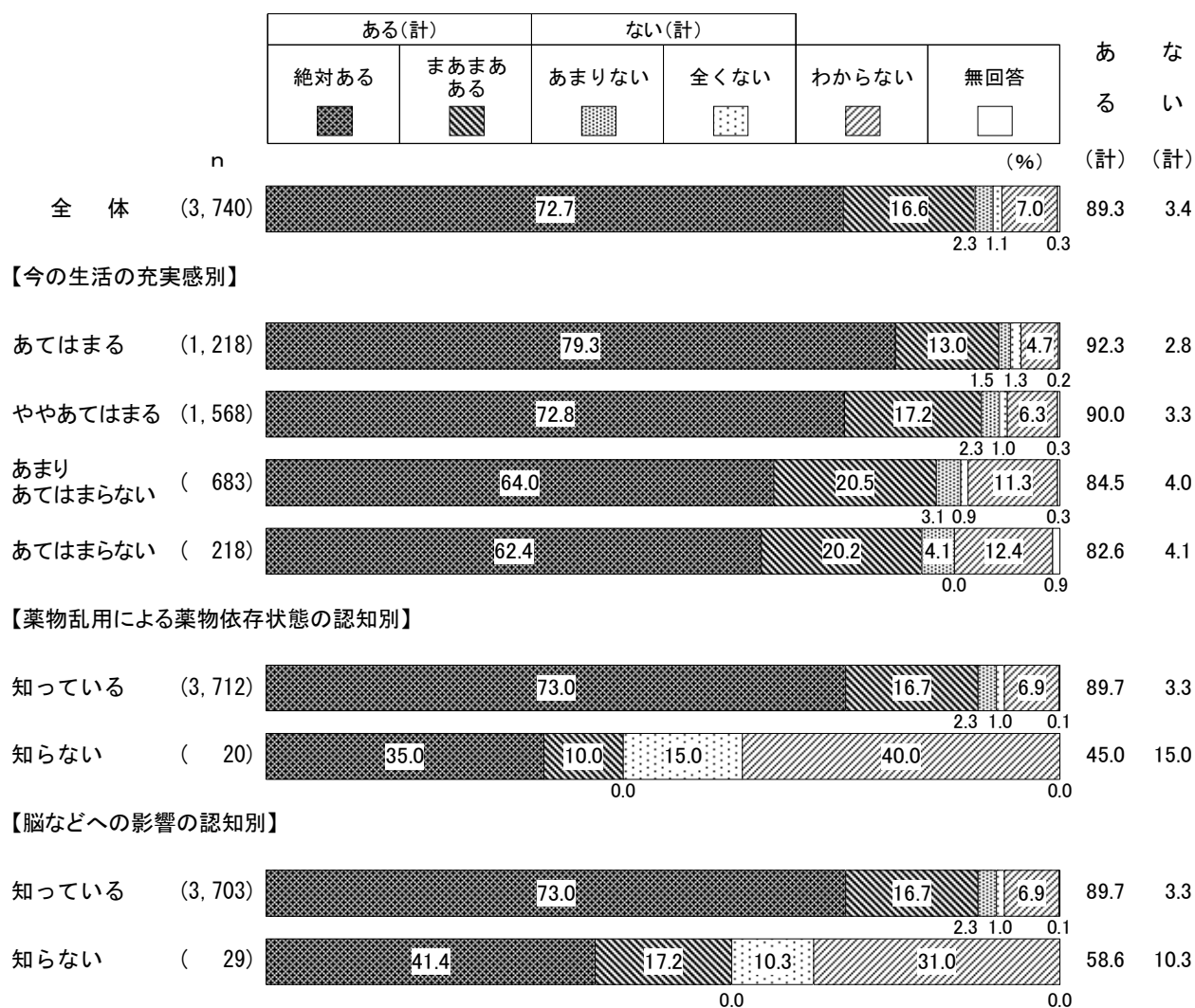
薬物の不正な使用をすすめられたら、断る自信があるか聞いたところ、「絶対ある」が72.7%で最も高く、これに「まあまあある」(16.6%)を合わせた『ある(計)』は89.3%となっている。一方、「あまりない」(2.3%)と「全くない」(1.1%)を合わせた『ない(計)』は3.4%となっている。

男女別で見ると、男女間で大きな違いはみられない。

過去の調査と比較すると、全体、男女別ともに平成24年度と比べて大きな傾向の変化はみられない。

図表5-5-2 薬物使用のすすめを断る自信度

(今の生活の充実感別、薬物乱用による薬物依存状態の認知別、脳などへの影響の認知別)

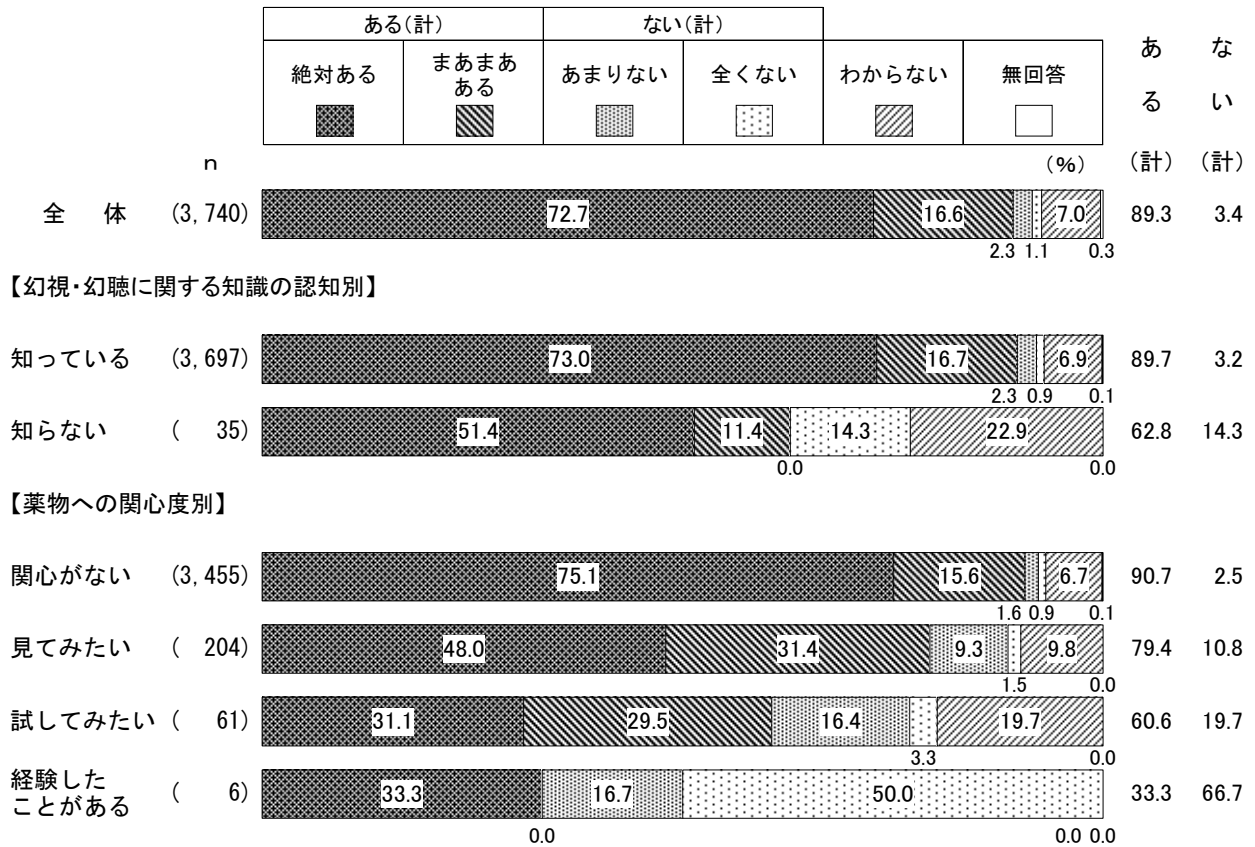


今の生活の充実感別でみると、『ある(計)』は今の生活の充実度が高くなるほど割合が高く、“あてはまる”で92.3%と高くなっている。

薬物乱用による薬物依存状態の認知別でみると、『ある(計)』は“知っている人”(89.7%)が“知らない人”(45.0%)より44.7ポイント高くなっている。

脳などへの影響の認知別でみると、『ある(計)』は“知っている人”(89.7%)が“知らない人”(58.6%)より31.1ポイント高くなっている。

図表 5-5-3 薬物使用のすすめを断る自信度（幻視・幻聴に関する知識の認知別、薬物への関心度別）



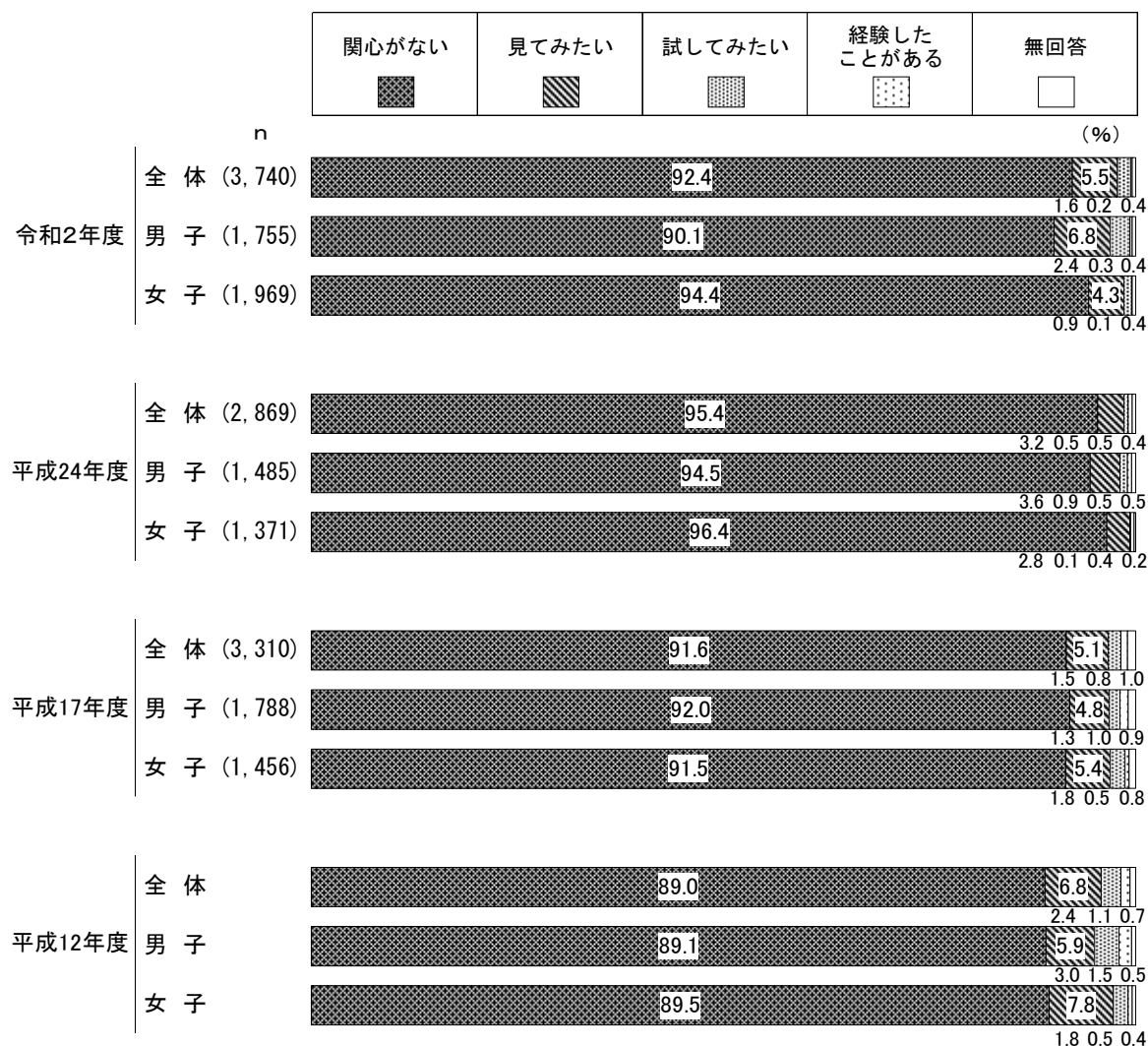
幻視・幻聴に関する知識の認知別でみると、『ある(計)』は“知っている人”(89.7%)が“知らない人”(62.8%)より26.9ポイント高くなっている。

薬物への関心度別でみると、『ある(計)』は薬物への関心度が低くなるほど割合が高く、“関心がない”で90.7%と高くなっている。

(6) 薬物への関心度

問29 大麻や覚せい剤などについて、あなたの気持ちは次のどれに最も近いですか。

図表5-6-1 薬物への関心度（経年比較）



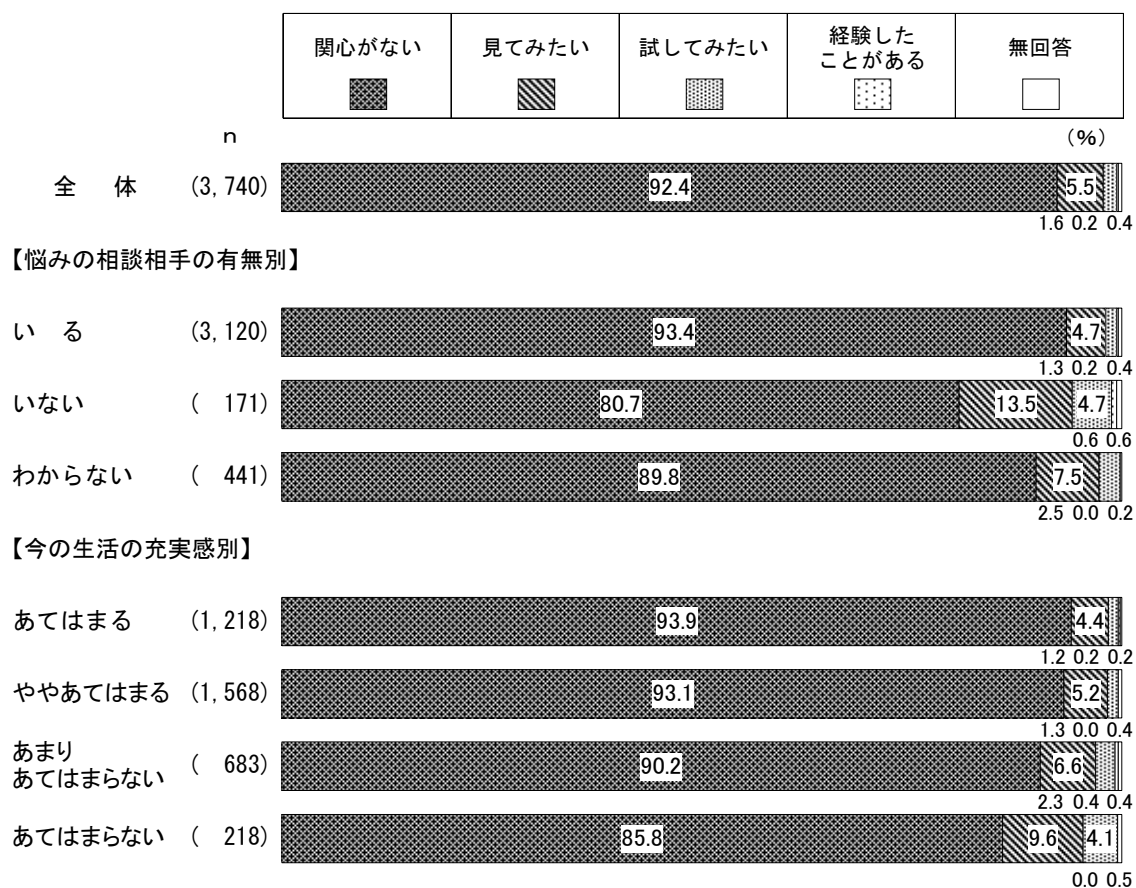
※平成24年度までの設問文は、「シンナー遊びについて、あなたの気持ちは次のどれに最も近いですか。」としていた

薬物への関心度について聞いたところ、「関心がない」が92.4%となっている。一方、「見てみたい」は5.5%、「試してみたい」は1.6%、「経験したことがある」は0.2%となっている。

男女別でみると、「関心がない」は女子（94.4%）が男子（90.1%）より4.3ポイント高くなっている。

過去の調査と比較すると、全体では「関心がない」は平成24年度より3.0ポイント減少している。男女別では「見てみたい」は平成24年度より男子で3.2ポイント増加している。一方、「関心がない」は平成24年度より男子で4.4ポイント減少している。

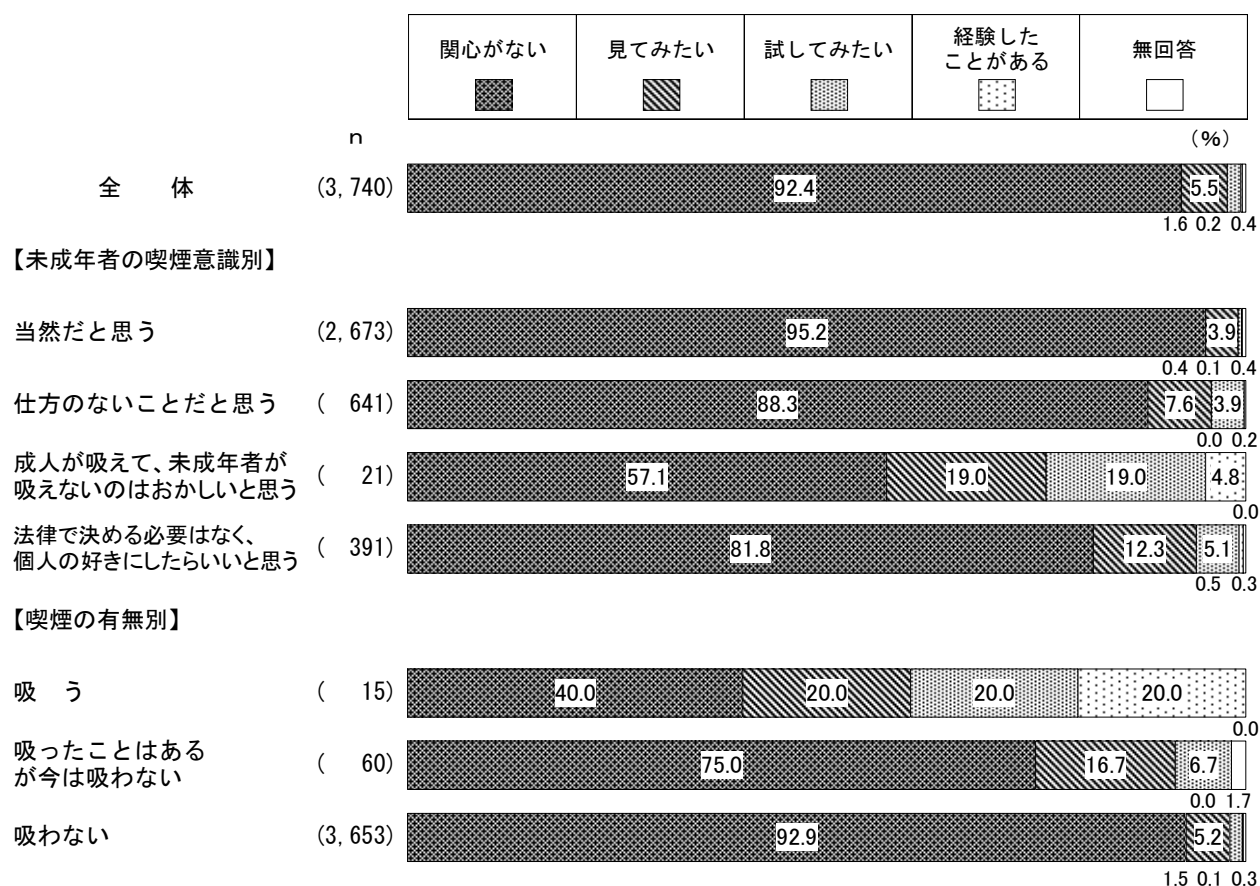
図表5-6-2 薬物への関心度（悩みの相談相手の有無別、今の生活の充実感別）



悩みの相談相手の有無別で見ると、「関心がない」は“悩みの相談相手がいる人”（93.4%）が“悩みの相談相手がない人”（80.7%）より12.7ポイント高くなっている。一方、「見てみたい」は“悩みの相談相手がない人”（13.5%）が“悩みの相談相手がいる人”（4.7%）より8.8ポイント高くなっている。

今の生活の充実感別で見ると、「関心がない」は今の生活の充実度が高くなるほど割合が高く、“あてはまる”で93.9%と高くなっている。一方、「見てみたい」と「試してみたい」はともに今の生活の充実度が低くなるほど割合が高くなっている。

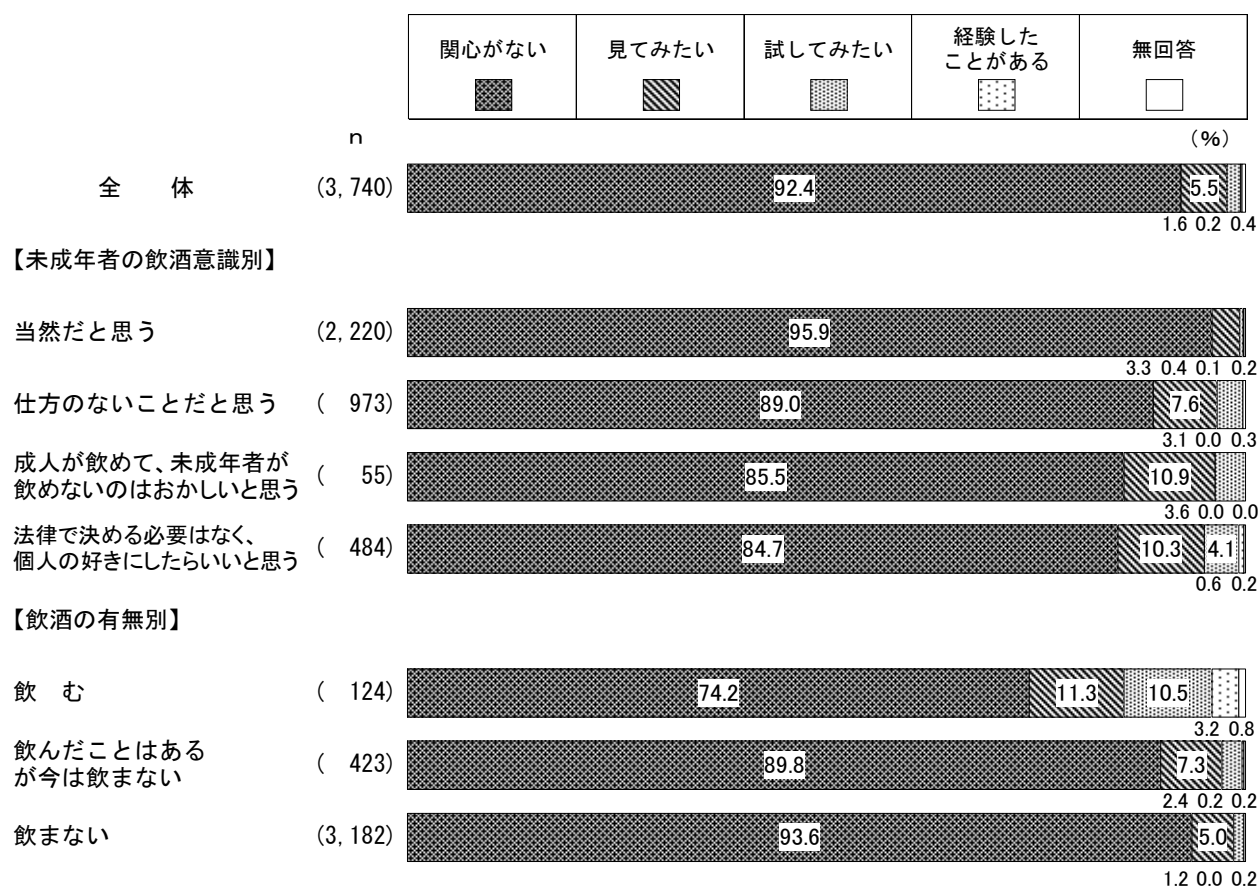
図表 5-6-3 薬物への関心度（未成年者の喫煙意識別、喫煙の有無別）



未成年者の喫煙意識別でみると、「関心がない」は“当然だと思う”で95.2%と高くなっている。「見てみたい」と「試してみたい」は“成人が吸えて、未成年者が吸えないのはおかしいと思う”でともに19.0%となっている。

喫煙の有無別でみると、「関心がない」は“吸わない人”で92.9%と高くなっている。

図表 5-6-4 薬物への関心度（未成年者の飲酒意識別、飲酒の有無別）



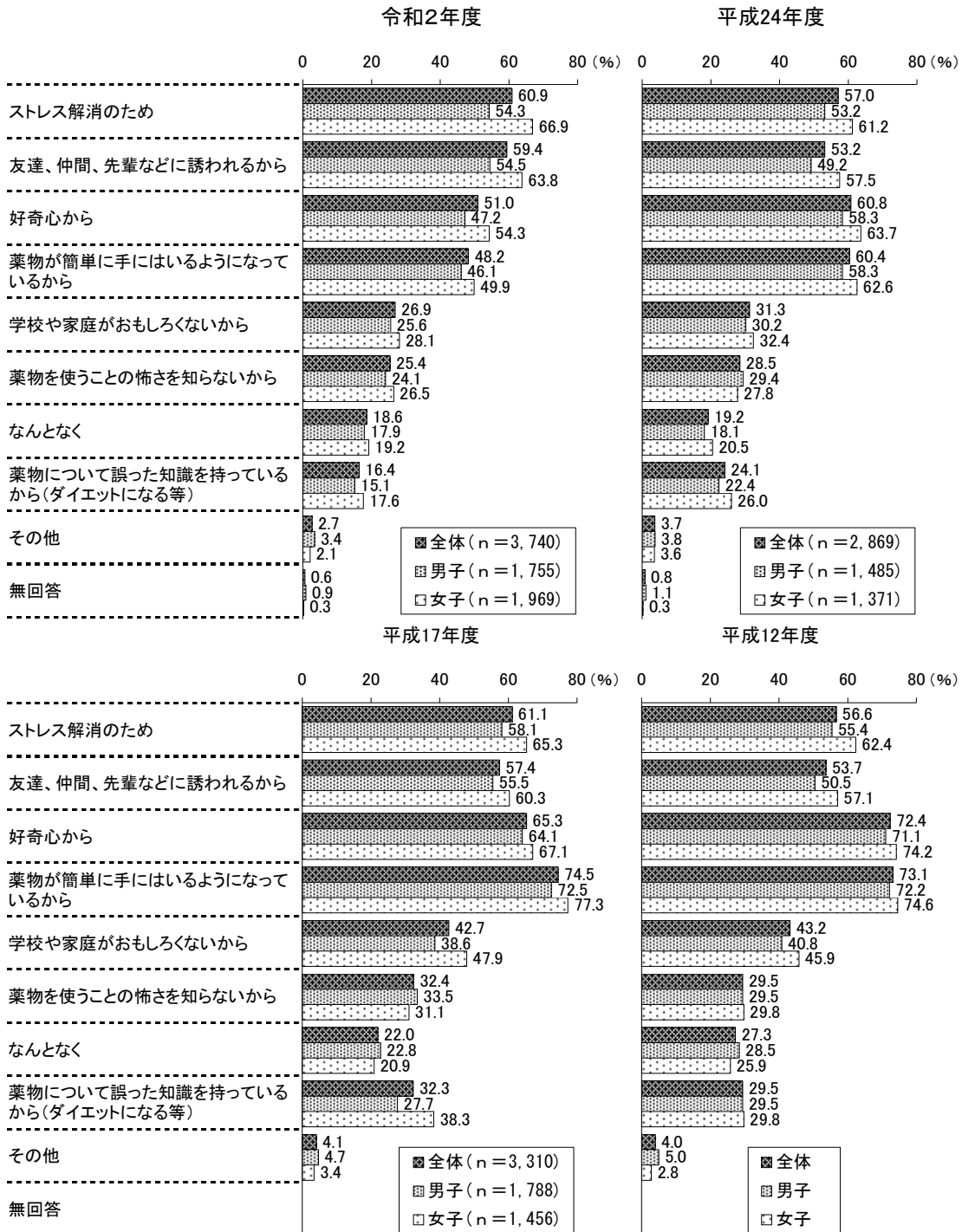
未成年者の飲酒意識別でみると、「関心がない」は“当然だと思う”で95.9%と高くなっている。

飲酒の有無別でみると、「関心がない」は“飲まない人”で93.6%と高くなっている。

(7) 若者の薬物乱用に対する認識

問30 大麻や覚せい剤などの薬物を乱用する若者が増えているのはどのような理由からだと思えますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。その他にはさらに理由があるとと思われる場合、記入してください。

図表5-7-1 若者の薬物乱用に対する認識（経年比較）〔複数回答〕



※「友達、仲間、先輩などに誘われるから」は、平成17年度では「友達などに誘われるから」としていた
 ※「薬物について誤った知識を持っているから(ダイエットになる等)」は、平成17年度では「誤った知識を持っている」としていた
 ※平成24年度の設問文は、「シンナーや覚醒剤などの薬物を乱用する若者が増えているのはどのような理由からだと思えますか。」としていた

薬物を乱用する若者が増えている理由を聞いたところ、「ストレス解消のため」が60.9%で最も高く、次いで「友達、仲間、先輩などに誘われるから」(59.4%)、「好奇心から」(51.0%)、「薬物が簡単に手にはいるようになっているから」(48.2%)となっている。

男女別でみると、「その他」を除くすべての項目で女子が男子より高くなっており、「ストレス解消のため」は女子(66.9%)が男子(54.3%)より12.6ポイント、「友達、仲間、先輩などに誘われるから」は女子(63.8%)が男子(54.5%)より9.3ポイント、それぞれ高くなっている。

過去の調査と比較すると、全体では「ストレス解消のため」は平成24年度より3.9ポイント増加している。一方、「薬物が簡単に手にはいるようになっているから」は平成24年度より12.2ポイント、「好奇心から」は平成24年度より9.8ポイント、それぞれ減少している。

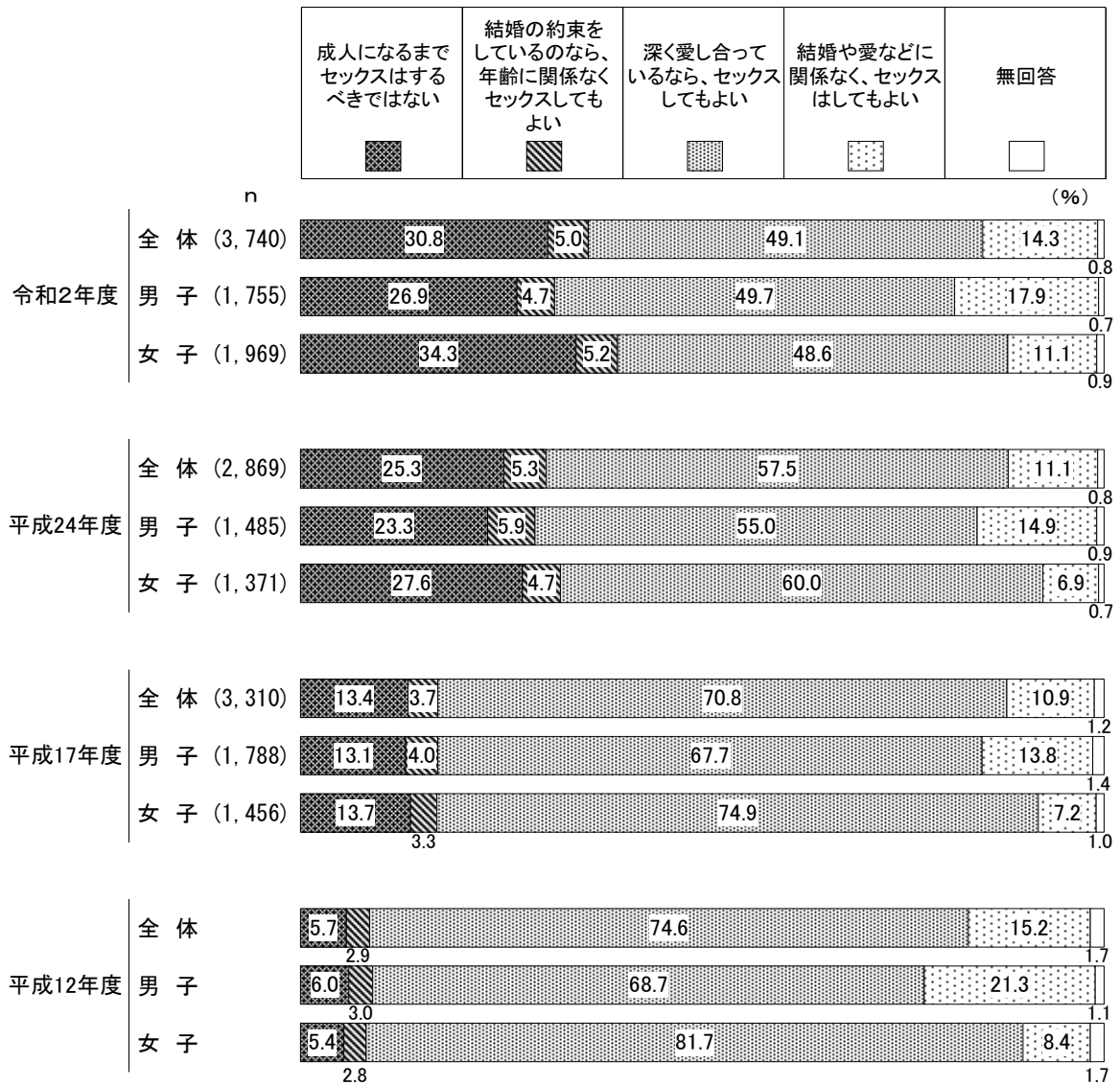
男女別では「ストレス解消のため」は平成24年度より女子で5.7ポイント増加している。一方、「薬物が簡単に手にはいるようになっているから」は平成24年度より男子で12.2ポイント、女子で12.7ポイント、それぞれ減少している。「好奇心から」は平成24年度より男子で11.1ポイント、女子で9.4ポイント、それぞれ減少している。

6. 性

(1) セックスに対する考え方

問31 高校生がセックスすることについてどう思いますか。次のうちからあなたの考えに一番近い番号を選択してください。

図表6-1-1 セックスに対する考え方（経年比較）



※「成人になるまでセックスはするべきではない」は、平成17年度では「するべきでない」としていた
 ※「結婚の約束をしているのなら、年齢に関係なくセックスしてもよい」は、平成17年度では「年齢に関係なくしてもよい」としていた

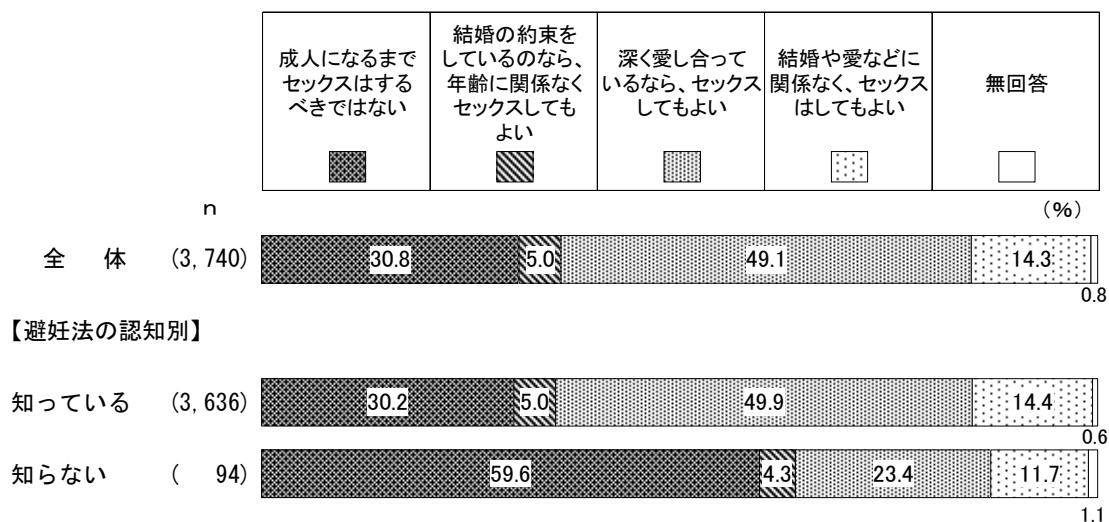
高校生がセックスすることについて聞いたところ、「深く愛し合っているなら、セックスしてもよい」が49.1%で最も高く、次いで「成人になるまでセックスはするべきではない」（30.8%）、「結婚や愛などに関係なく、セックスはしてもよい」（14.3%）となっている。

男女別でみると、「成人になるまでセックスはするべきではない」は女子(34.3%)が男子(26.9%)より7.4ポイント高くなっている。一方、「結婚や愛などに関係なく、セックスはしてもよい」は男子(17.9%)が女子(11.1%)より6.8ポイント高くなっている。

過去の調査と比較すると、全体では「成人になるまでセックスはするべきではない」は平成24年度より5.5ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。一方、「深く愛し合っているなら、セックスしてもよい」は平成24年度より8.4ポイント減少しており、平成12年度以降減少傾向にある。

男女別では「成人になるまでセックスはするべきではない」は平成24年度より男子で3.6ポイント、女子で6.7ポイント、それぞれ増加している。一方、「深く愛し合っているなら、セックスしてもよい」は平成24年度より男子で5.3ポイント、女子で11.4ポイント、それぞれ減少している。

図表6-1-2 セックスに対する考え方（避妊法の認知別）

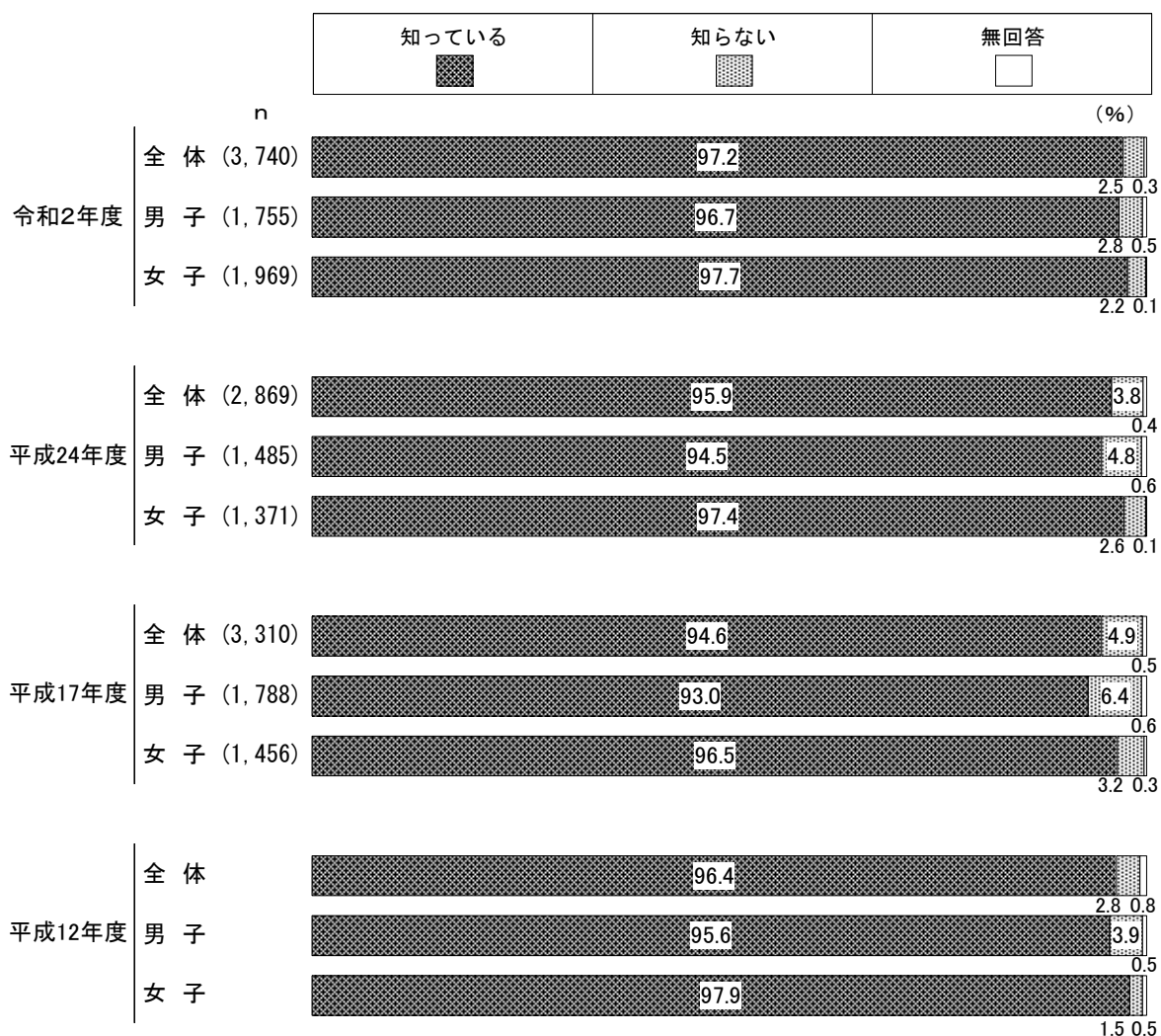


避妊法の認知別でみると、「成人になるまでセックスはするべきではない」は“知らない人”（59.6%）が“知っている人”（30.2%）より 29.4ポイント高くなっている。一方、「深く愛し合っているなら、セックスしてもよい」は“知っている人”（49.9%）が“知らない人”（23.4%）より 26.5ポイント高くなっている。

(2) 避妊法の認知

問32 避妊方法を知っていますか。

図表6-2-1 避妊法の認知（経年比較）



避妊方法を知っているか聞いたところ、「知っている」が97.2%、「知らない」は2.5%となっている。

男女別で見ると、男女間で大きな違いはみられない。

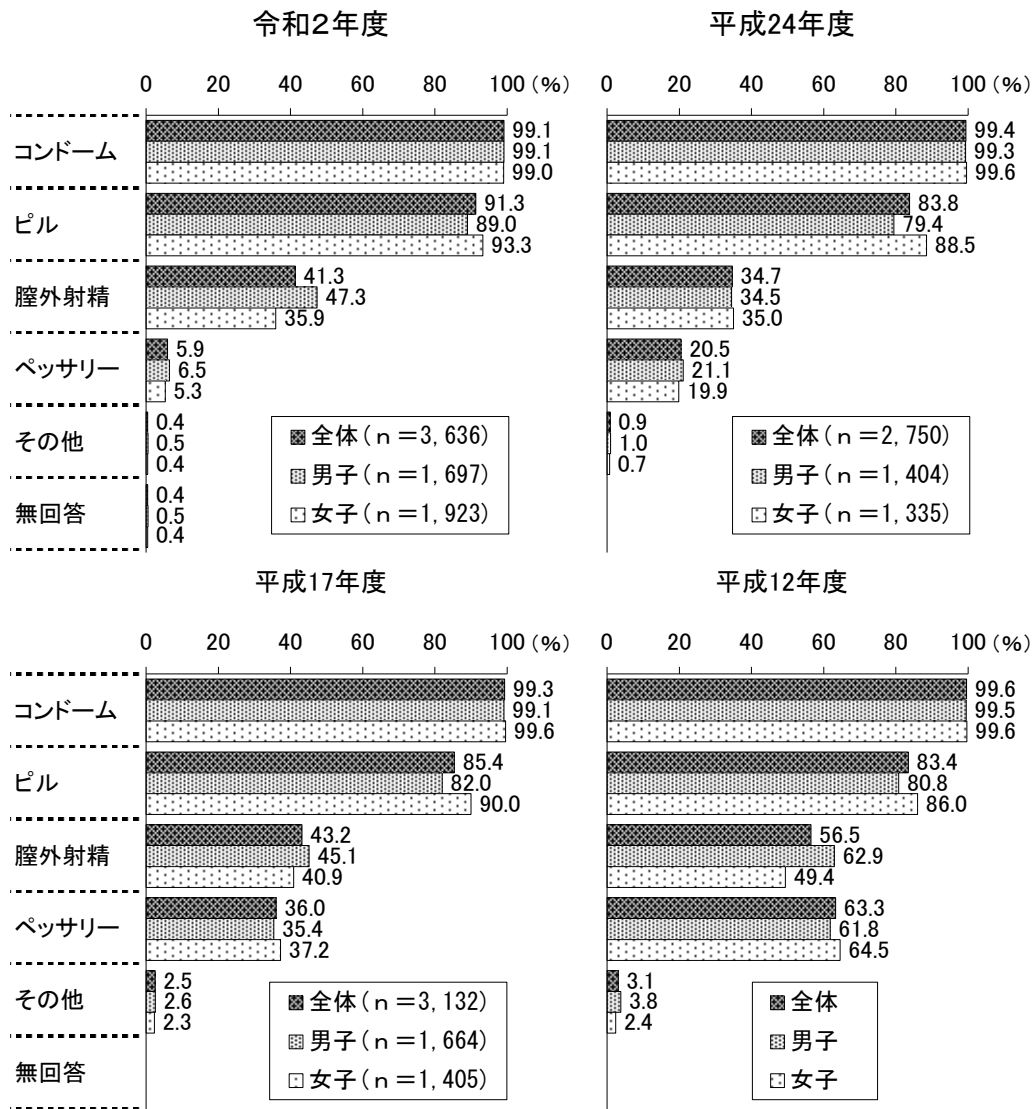
過去の調査と比較すると、全体、男女別ともに平成24年度と比べて大きな傾向の変化はみられない。

(3) 避妊法の知識

問32で「知っている」と答えた方へ

問32-1 どんな避妊方法を知っていますか。知っているものすべてに○をつけてください。

図表6-3-1 避妊法の知識（経年比較）〔複数回答〕



避妊方法を「知っている」と答えた人（3,636人）に、どんな避妊方法を知っているか聞いたところ、「コンドーム」が99.1%で最も高く、次いで「ピル」（91.3%）、「膣外射精」（41.3%）、「ペッサリー」（5.9%）となっている。

男女別でみると、「膣外射精」は男子（47.3%）が女子（35.9%）より11.4ポイント高くなっている。一方、「ピル」は女子（93.3%）が男子（89.0%）より4.3ポイント高くなっている。

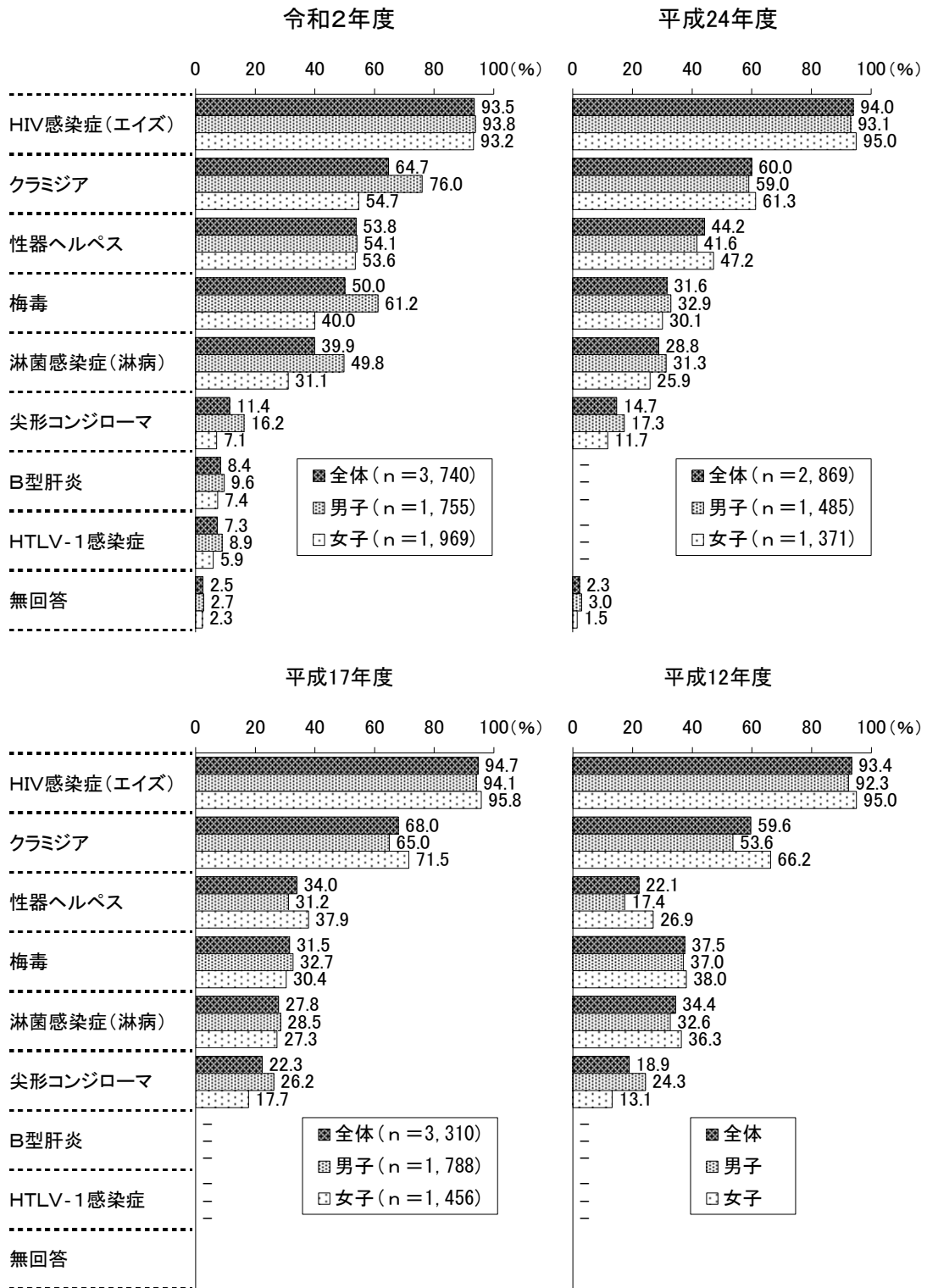
過去の調査と比較すると、全体では「ピル」は平成24年度より7.5ポイント、「膣外射精」は平成24年度より6.6ポイント、それぞれ増加している。一方、「ペッサリー」は平成24年度より14.6ポイント減少している。

男女別では「膣外射精」は平成24年度より男子で12.8ポイント増加している。「ピル」は平成24年度より男子で9.6ポイント、女子で4.8ポイント、それぞれ増加している。一方、「ペッサリー」は平成24年度より男子で14.6ポイント、女子で14.6ポイント、それぞれ減少している。

(4) 性感染症に対する知識

問33 性感染症で知っているのはどれですか。知っているものすべてに○をつけてください。

図表6-4-1 性感染症に対する知識（経年比較）〔複数回答〕



※「HIV感染症(エイズ)」は、平成24年までは「エイズ」としていた
 ※「淋菌感染症(淋病)」は、平成24年までは「淋病」としていた
 ※「B型肝炎」と「HTLV-1感染症」は令和2年度から追加された選択肢

性感染症で知っているものを聞いたところ、「H I V感染症（エイズ）」が93.5%で最も高く、次いで「クラミジア」（64.7%）、「性器ヘルペス」（53.8%）、「梅毒」（50.0%）となっている。

男女別でみると、すべての項目で男子が女子より高くなっており、「クラミジア」は男子（76.0%）が女子（54.7%）より21.3ポイント、「梅毒」は男子（61.2%）が女子（40.0%）より21.2ポイント、それぞれ高くなっている。

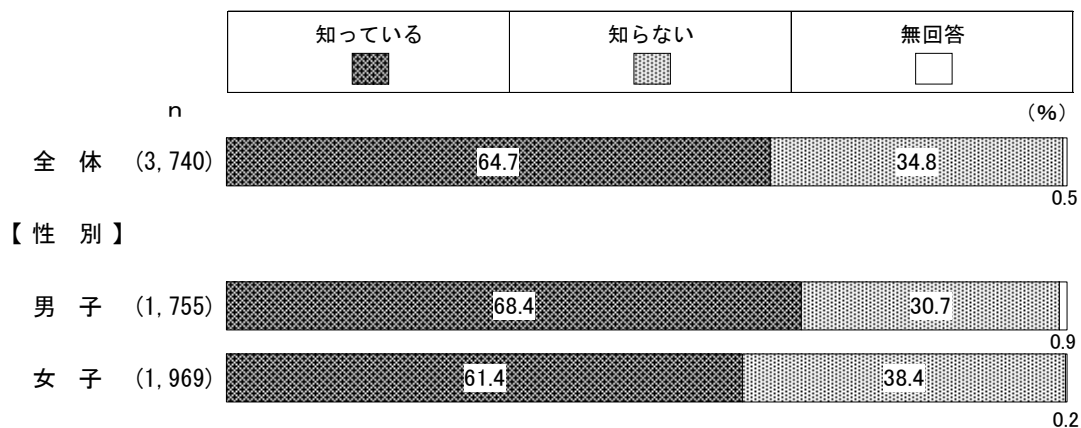
過去の調査と比較すると、全体では「梅毒」は平成24年度より18.4ポイント、「淋菌感染症（淋病）」は平成24年度より11.1ポイント、「性器ヘルペス」は平成24年度より9.6ポイント、それぞれ増加している。一方、「尖形コンジローマ」は平成24年度より3.3ポイント減少している。

男女別では「梅毒」は平成24年度より男子で28.3ポイント、女子で9.9ポイント、それぞれ増加している。「淋菌感染症（淋病）」は平成24年度より男子で18.5ポイント、「性器ヘルペス」は平成24年度より女子で6.4ポイント、それぞれ増加している。一方、「クラミジア」は平成24年度より女子で6.6ポイント、「尖形コンジローマ」は平成24年度より女子で4.6ポイント、それぞれ減少している。

(5) 保健所の性感染症検査実施の認知

問34 保健所で性感染症の検査をしているのを知っていますか。

図表 6-5-1 保健所の性感染症検査実施の認知



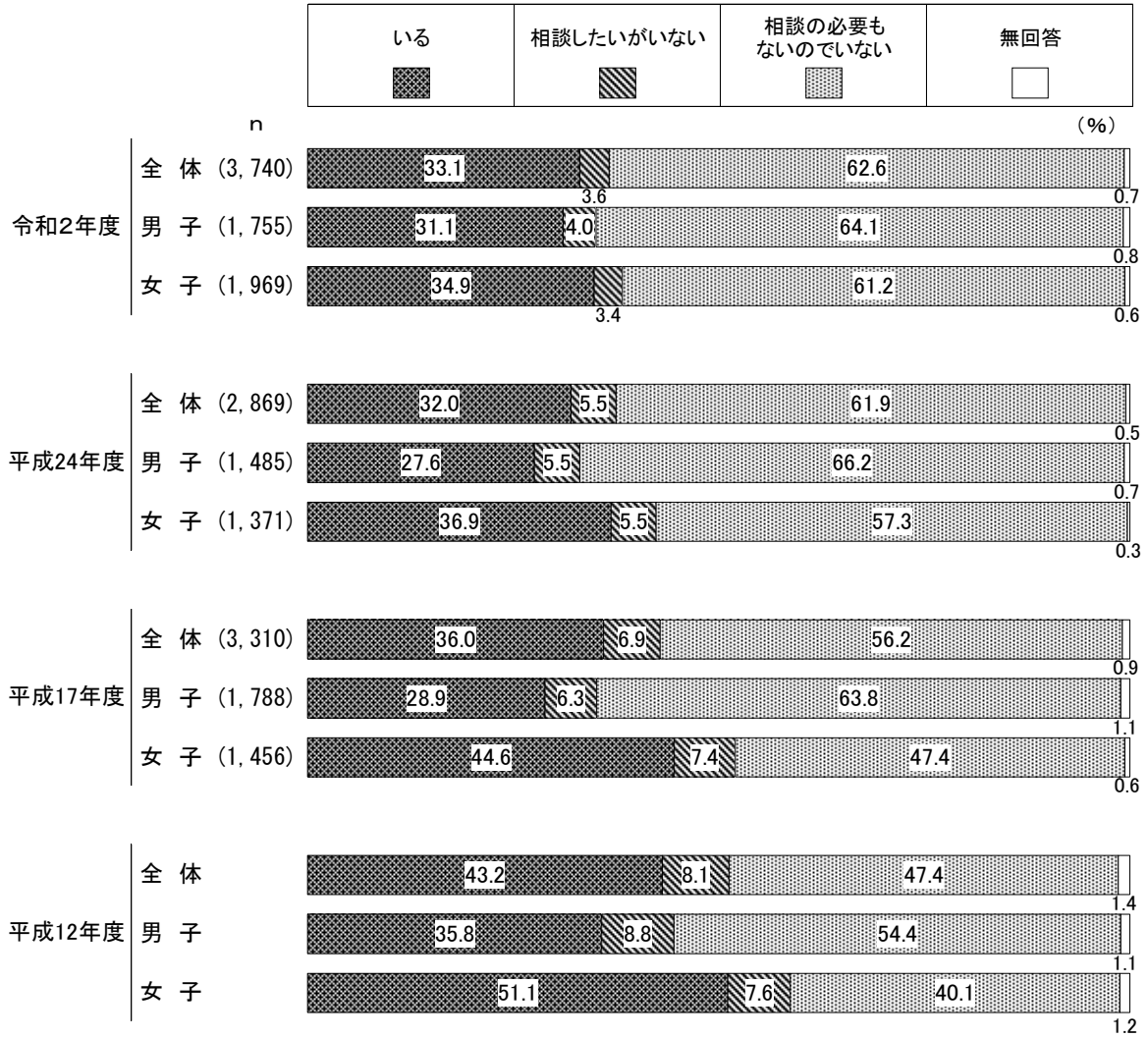
保健所で性感染症の検査をしているのを知っているか聞いたところ、「知っている」が64.7%、「知らない」は34.8%となっている。

男女別でみると、「知っている」は男子（68.4%）が女子（61.4%）より7.0ポイント高くなっている。

(6) 性についての相談者の有無

問35 性に関して相談できる人がいますか。

図表6-6-1 性についての相談者の有無（経年比較）



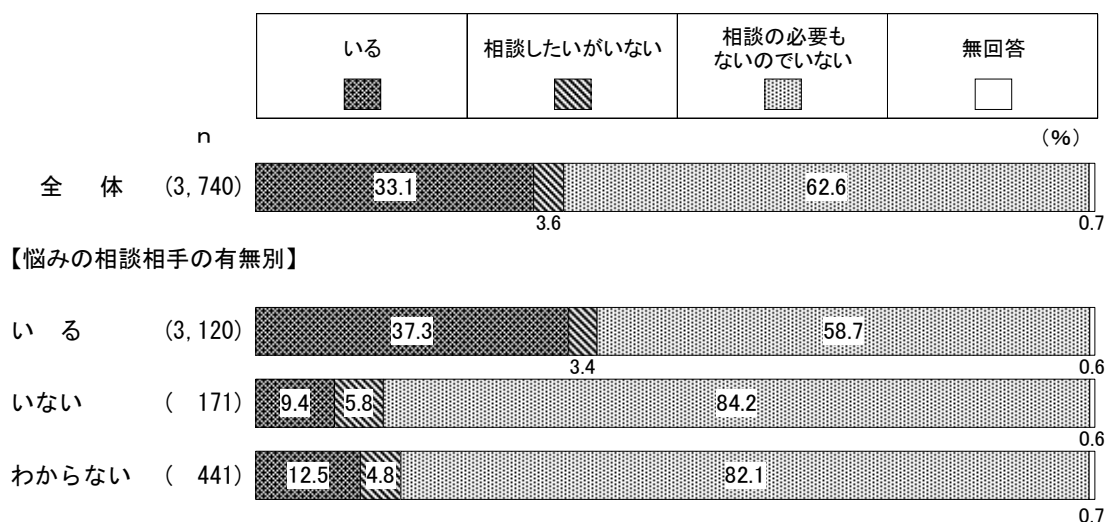
性に関して相談できる人がいるか聞いたところ、「いる」が33.1%となっている。一方、「相談したいがない」は3.6%、「相談の必要もないのでいない」は62.6%となっている。

男女別でみると、「いる」は女子（34.9%）が男子（31.1%）より3.8ポイント高くなっている。

過去の調査と比較すると、全体では「相談の必要もないのでいない」は平成12年度以降増加傾向にある。

男女別では「相談の必要もないのでいない」は平成24年度より女子で3.9ポイント、「いる」は平成24年度より男子で3.5ポイント、それぞれ増加している。

図表6-6-2 性についての相談者の有無（悩みの相談相手の有無別）

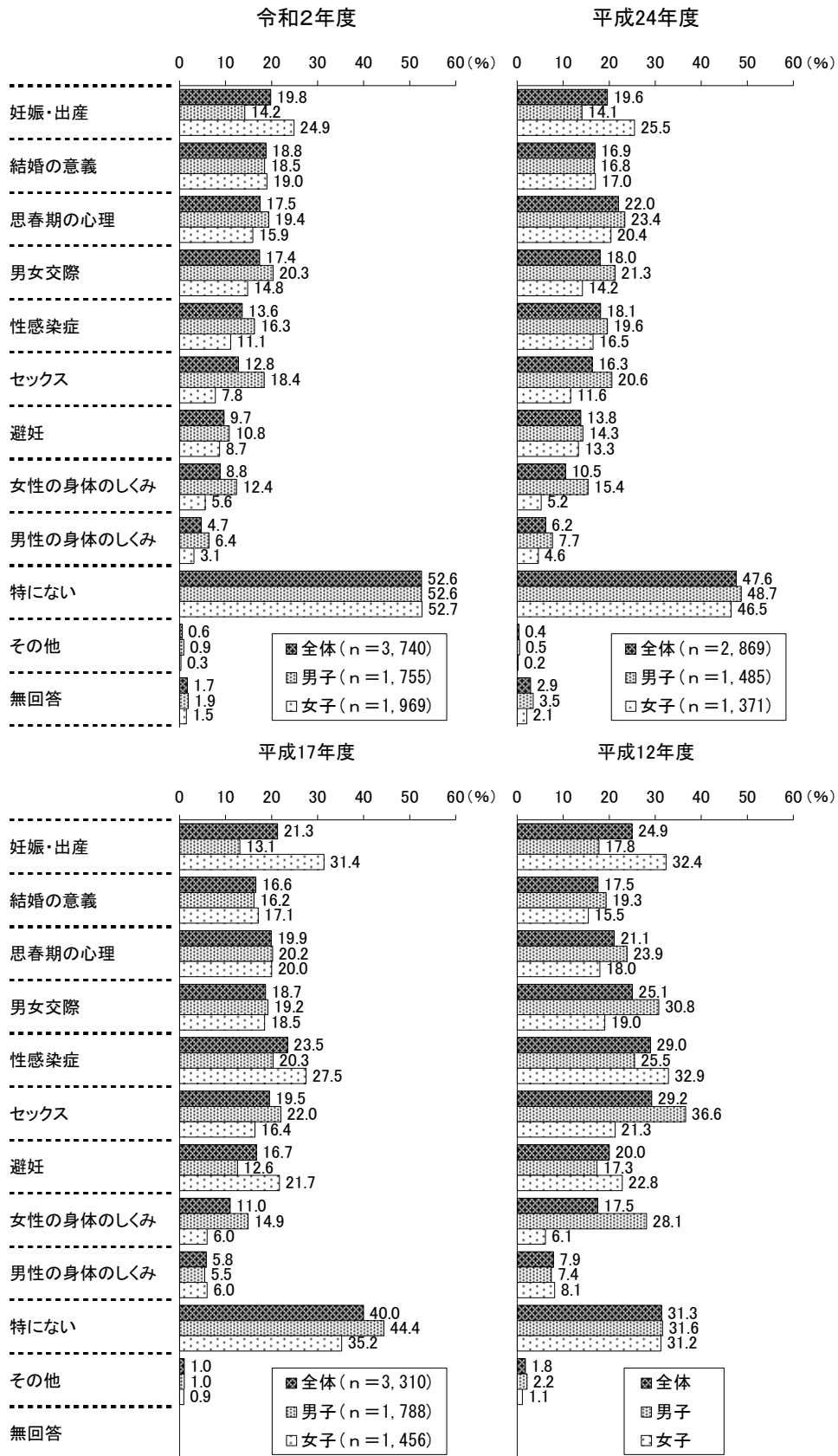


悩みの相談相手の有無別にみると、「いる」は“悩みの相談相手がいる人”（37.3%）が“悩みの相談相手がない人”（9.4%）より27.9ポイント高くなっている。一方、「相談の必要もないのでいい」は“悩みの相談相手がない人”（84.2%）が“悩みの相談相手がいる人”（58.7%）より25.5ポイント高くなっている。

(7) 性に関する関心項目

問36 性に関して知りたいと思うことは何ですか。知りたいものすべてに○をつけてください。

図表6-7-1 性に関する関心項目（経年比較）〔複数回答〕



性に関して知りたいと思うことを聞いたところ、「妊娠・出産」が19.8%で最も高く、次いで「結婚の意義」（18.8%）、「思春期の心理」（17.5%）、「男女交際」（17.4%）となっている。一方、「特にない」は52.6%となっている。

男女別でみると、「妊娠・出産」は女子（24.9%）が男子（14.2%）より10.7ポイント高くなっている。一方、「セックス」は男子（18.4%）が女子（7.8%）より10.6ポイント、「女性の身体のしくみ」は男子（12.4%）が女子（5.6%）より6.8ポイント、それぞれ高くなっている。

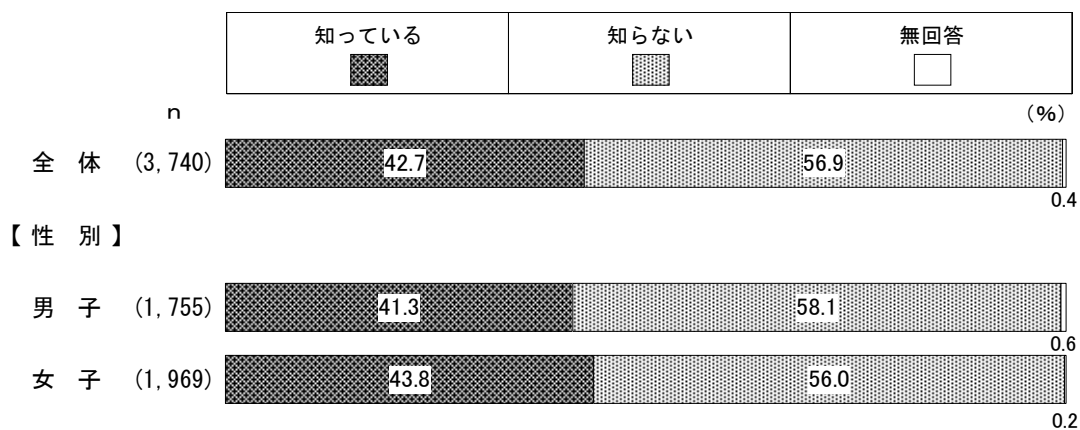
過去の調査と比較すると、全体では「特にない」は平成24年度より5.0ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。一方、「思春期の心理」は平成24年度より4.5ポイント、「性感染症」は平成24年度より4.5ポイント、それぞれ減少している。

男女別では「特にない」は平成24年度より男子で3.9ポイント、女子で6.2ポイント、それぞれ増加している。一方、「思春期の心理」は平成24年度より男子で4.0ポイント、「性感染症」は平成24年度より女子で5.4ポイント、それぞれ減少している。

(8) にんしんSOSちばの認知

問37 妊娠について心配事がある時に相談できる窓口（にんしんSOSちば）があることを知っていますか。

図表6-8-1 にんしんSOSちばの認知



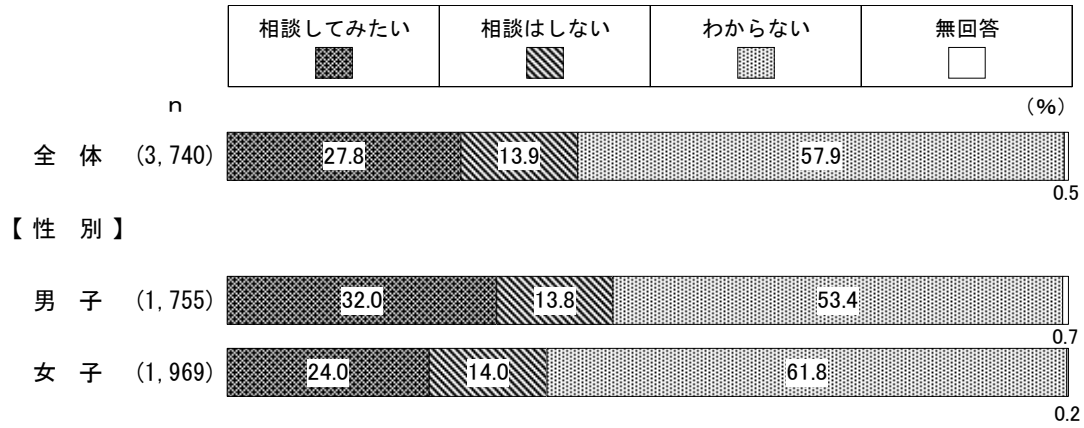
「にんしんSOSちば」があることを知っているか聞いたところ、「知っている」が42.7%、「知らない」は56.9%となっている。

男女別でみると、男女間で大きな違いはみられない。

(9) にんしんSOSちばへの相談希望

問38 自分自身やパートナー、友達の妊娠について相談したい事ができた場合、にんしんSOSちばに相談してみようと思いますか。

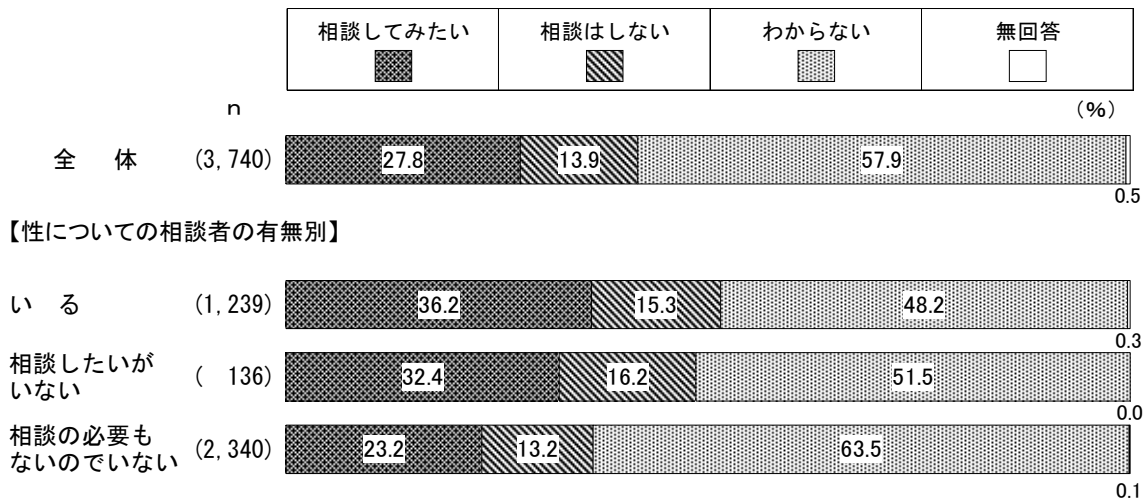
図表6-9-1 にんしんSOSちばへの相談希望



「にんしんSOSちば」に相談しようと思うか聞いたところ、「相談してみたい」が27.8%、「相談はしない」は13.9%となっている。また、「わからない」は57.9%となっている。

男女別で見ると、「相談してみたい」は男子（32.0%）が女子（24.0%）より8.0ポイント高くなっている。

図表6-9-2 にんしんSOSちばへの相談希望（性についての相談者の有無別）



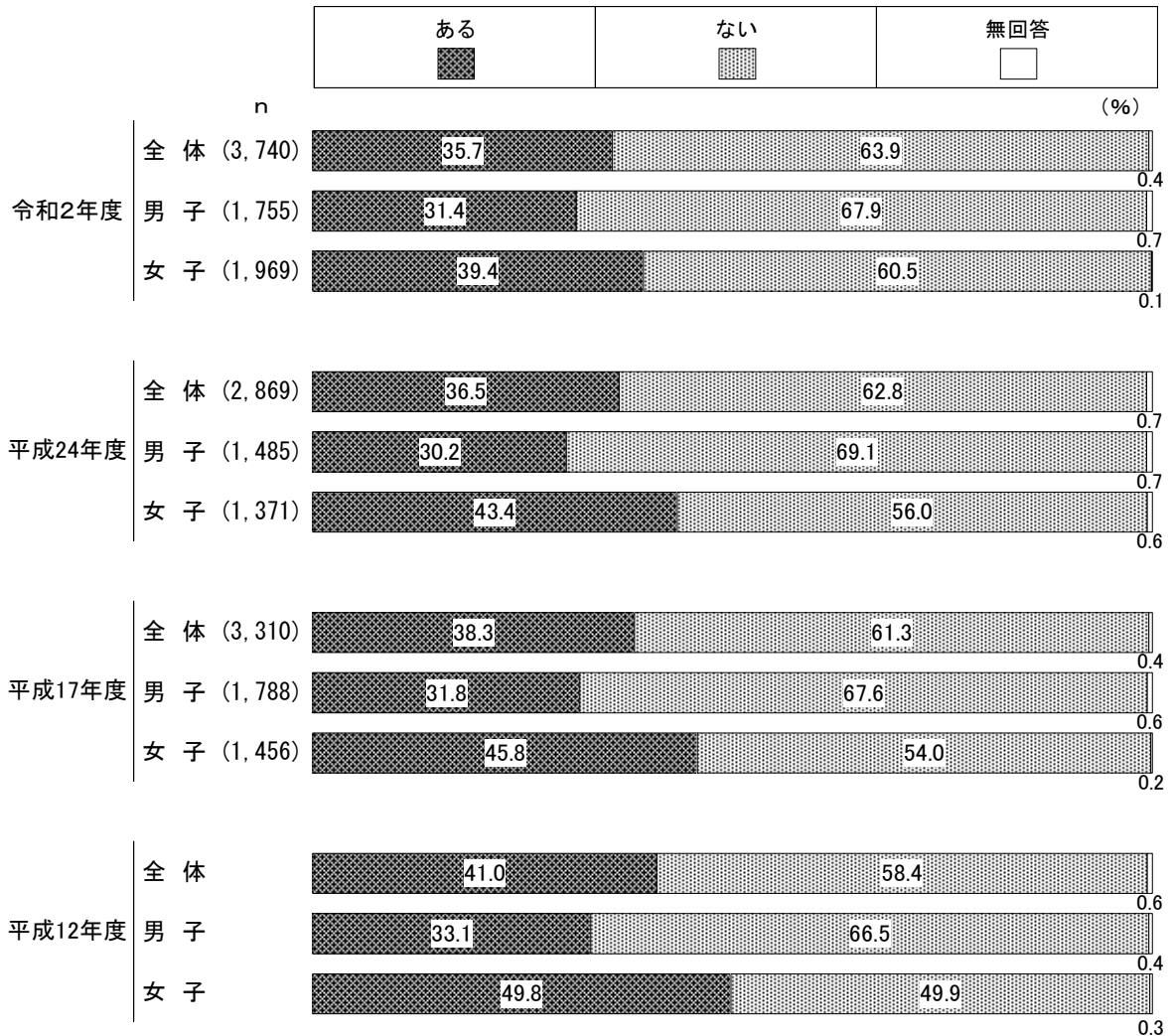
性についての相談者の有無別で見ると、「相談してみたい」は“性についての相談者がいる人”で36.2%と高くなっている。

7. 周囲の人々との関わりや行動

(1) 赤ちゃんを抱いた経験

問39 この1～2年の間に、赤ちゃんを抱いたことがありますか。

図表7-1-1 赤ちゃんを抱いた経験（経年比較）



この1～2年の間に、赤ちゃんを抱いたことがあるか聞いたところ、「ある」が35.7%、「ない」は63.9%となっている。

男女別で見ると、「ある」は女子（39.4%）が男子（31.4%）より8.0ポイント高くなっている。

過去の調査と比較すると、全体では「ない」は平成12年度以降増加傾向にある。

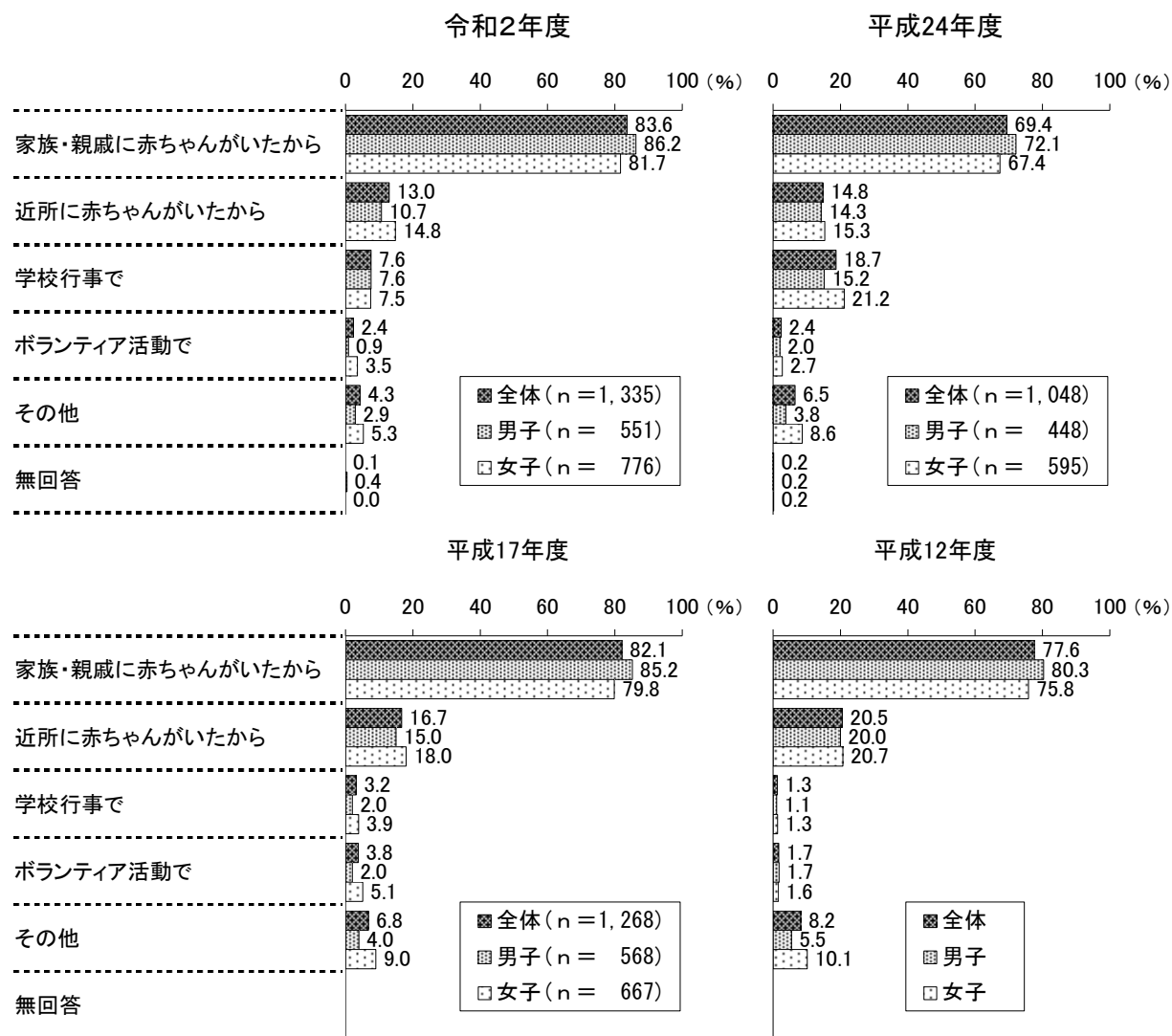
男女別では「ない」は平成24年度より女子で4.5ポイント増加している。

(2) 赤ちゃんを抱いた機会

問39で「ある」と答えた方へ

問39-1 赤ちゃんを抱いたのは、どういう機会でしたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

図表7-2-1 赤ちゃんを抱いた機会（経年比較）〔複数回答〕



赤ちゃんを抱いたことが「ある」と答えた人（1,335人）に、赤ちゃんを抱いた機会を聞いたところ、「家族・親戚に赤ちゃんがいたから」が83.6%で最も高く、次いで「近所に赤ちゃんがいたから」（13.0%）、「学校行事で」（7.6%）、「ボランティア活動で」（2.4%）となっている。

男女別でみると、「家族・親戚に赤ちゃんがいたから」は男子（86.2%）が女子（81.7%）より4.5ポイント高くなっている。一方、「近所に赤ちゃんがいたから」は女子（14.8%）が男子（10.7%）より4.1ポイント高くなっている。

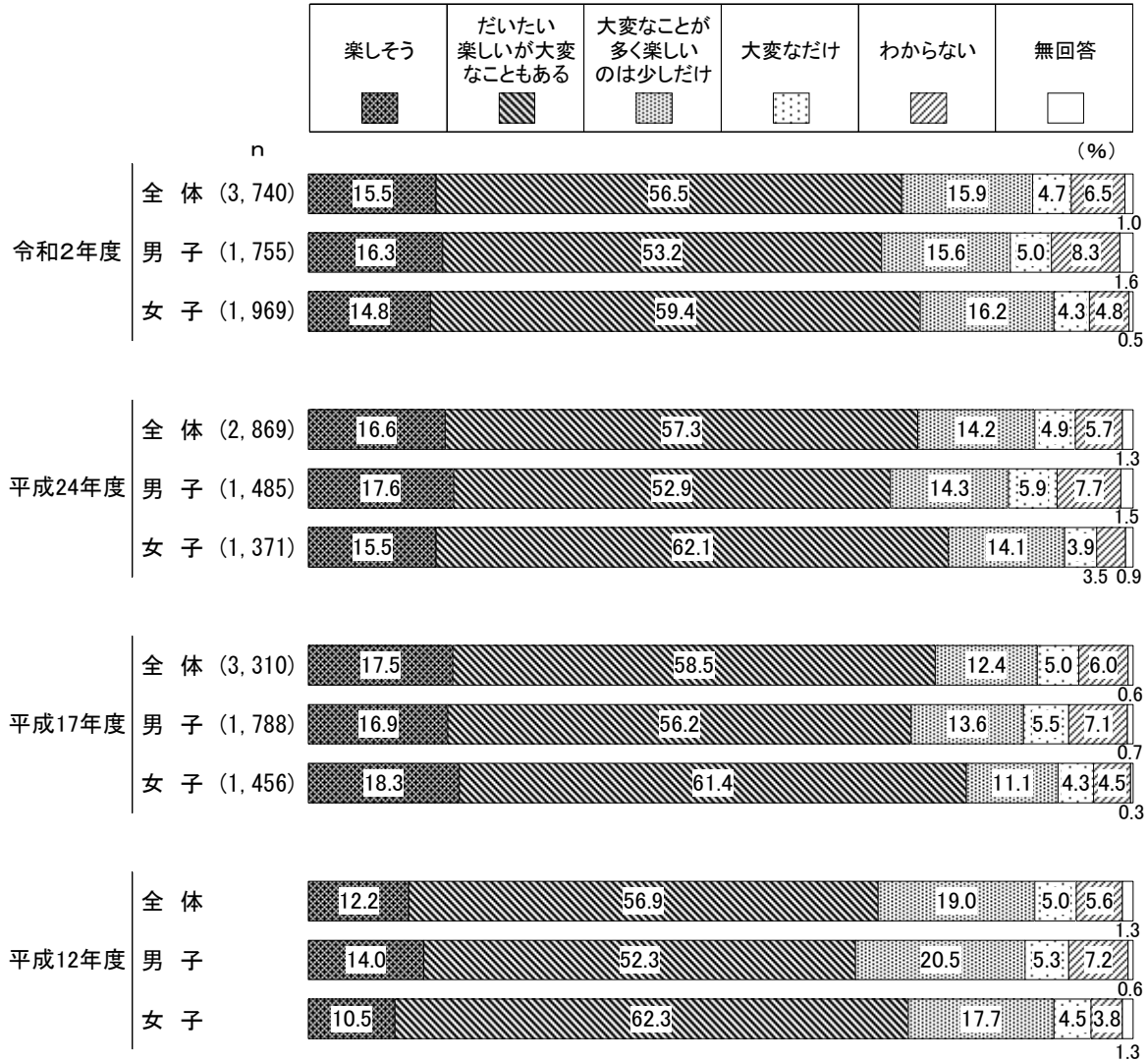
過去の調査と比較すると、全体では「家族・親戚に赤ちゃんがいたから」は平成24年度より14.2ポイント増加している。一方、「学校行事で」は平成24年度より11.1ポイント減少している。

男女別では「家族・親戚に赤ちゃんがいたから」は平成24年度より男子で14.1ポイント、女子で14.3ポイント、それぞれ増加している。一方、「学校行事で」は平成24年度より男子で7.6ポイント、女子で13.7ポイント、それぞれ減少している。

(3) 育児に対する意識

問40 赤ちゃんを育てることについてどう思いますか。

図表7-3-1 育児に対する意識（経年比較）

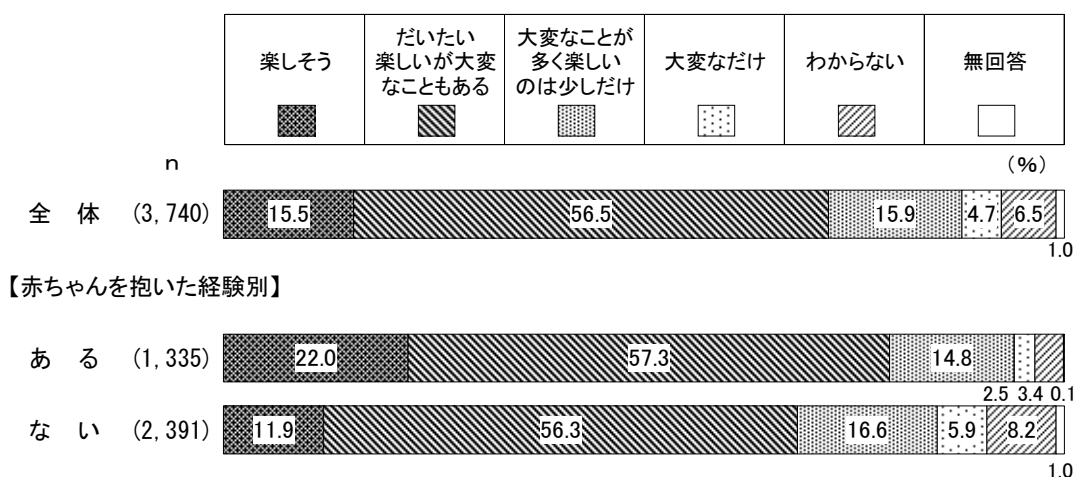


赤ちゃんを育てることについて聞いたところ、「だいたい楽しいが大変なこともある」が56.5%で最も高く、次いで「大変なことが多く楽しいのは少しだけ」（15.9%）、「楽しそう」（15.5%）、「大変なだけ」（4.7%）となっている。

男女別で見ると、「だいたい楽しいが大変なこともある」は女子（59.4%）が男子（53.2%）より6.2ポイント高くなっている。

過去の調査と比較すると、全体、男女別ともに平成24年度と比べて大きな傾向の変化はみられない。

図表 7-3-2 育児に対する意識（赤ちゃんを抱いた経験別）



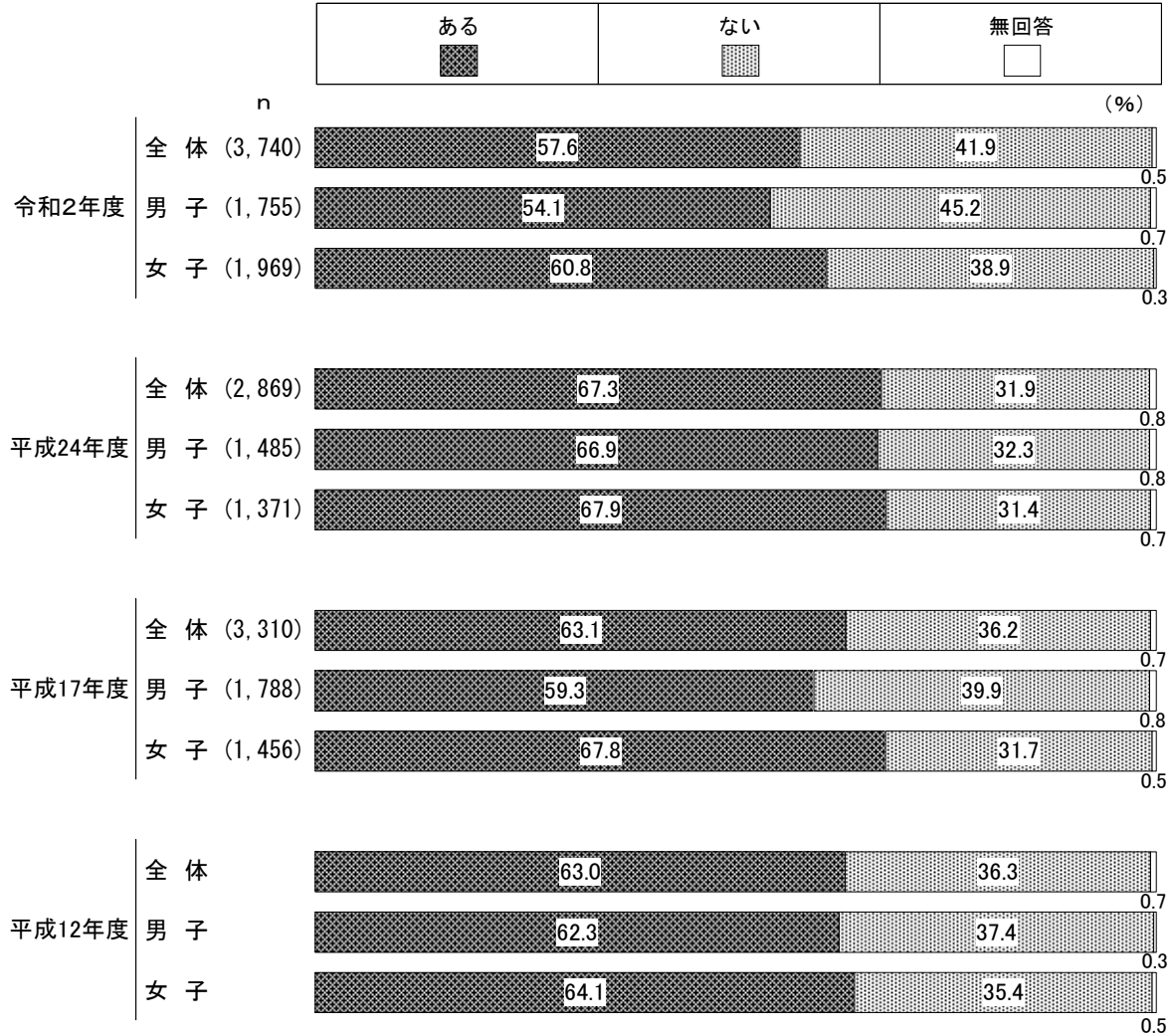
赤ちゃんを抱いた経験別でみると、「楽しそう」は“赤ちゃんを抱いた経験がある人”（22.0%）が“赤ちゃんを抱いた経験がない人”（11.9%）より 10.1 ポイント高くなっている。一方、「大変なだけ」は“赤ちゃんを抱いた経験がない人”（5.9%）が“赤ちゃんを抱いた経験がある人”（2.5%）より 3.4 ポイント高くなっている。

(4) 地域活動の経験

問41 これまでに地域活動の経験がありますか。

※地域活動とは、地域の清掃、学校以外におけるスポーツ、ボランティア、町のお祭りなどをさします。

図表7-4-1 地域活動の経験（経年比較）



地域活動の経験があるか聞いたところ、「ある」が57.6%、「ない」は41.9%となっている。

男女別でみると、「ある」は女子（60.8%）が男子（54.1%）より6.7ポイント高くなっている。

過去の調査と比較すると、全体では「ない」は平成24年度より10.0ポイント増加している。

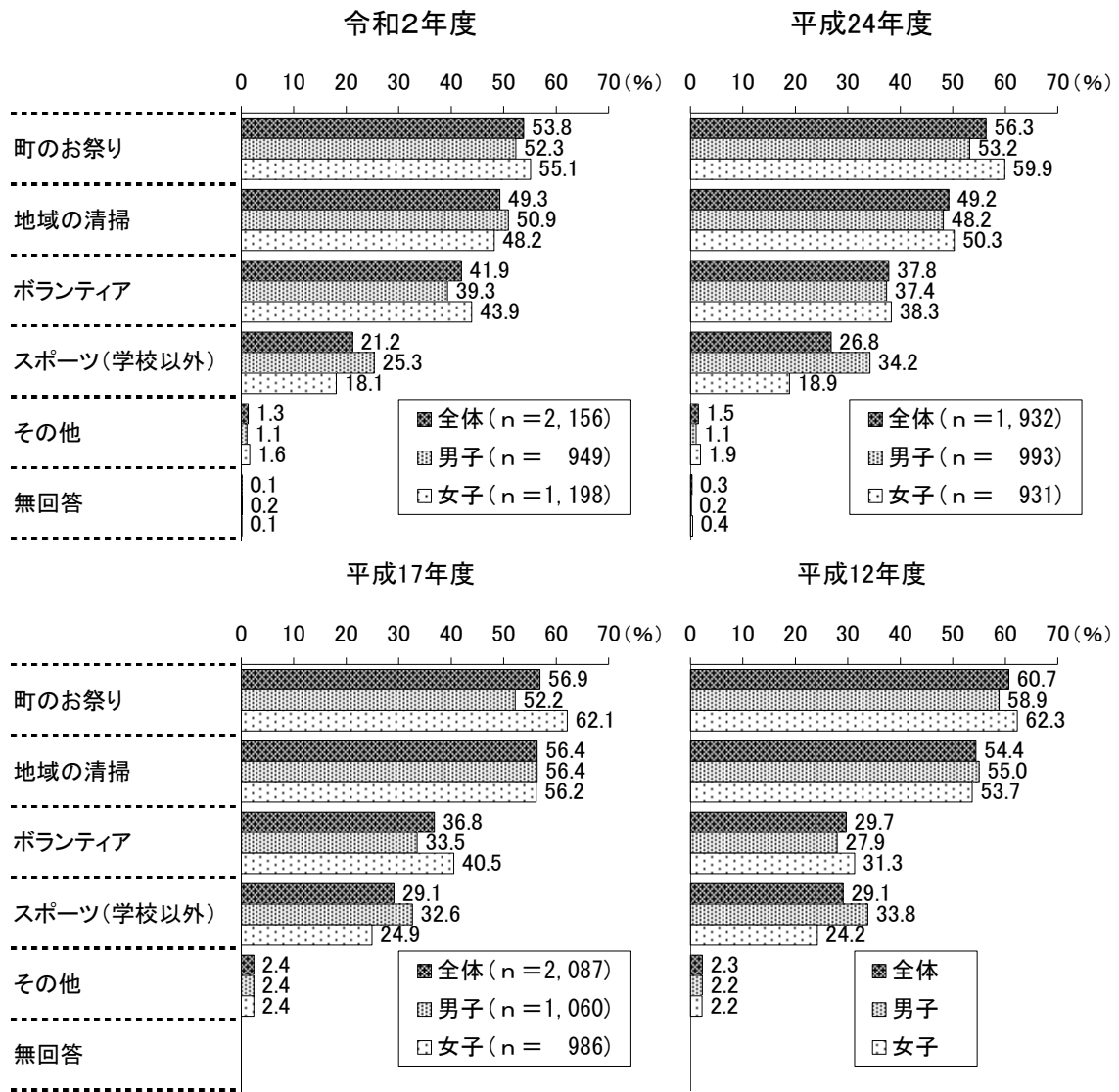
男女別では「ない」は平成24年度より男子で12.9ポイント、女子で7.5ポイント、それぞれ増加している。

(5) 地域活動の具体的活動内容

問41で「ある」と答えた方へ

問41-1 どのような地域活動ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

図表7-5-1 地域活動の具体的活動内容（経年比較）〔複数回答〕



地域活動の経験が「ある」と答えた人（2,156人）に、地域活動の具体的活動内容を聞いたところ、「町のお祭り」が53.8%で最も高く、次いで「地域の清掃」（49.3%）、「ボランティア」（41.9%）、「スポーツ（学校以外）」（21.2%）となっている。

男女別でみると、「スポーツ（学校以外）」は男子（25.3%）が女子（18.1%）より7.2ポイント高くなっている。一方、「ボランティア」は女子（43.9%）が男子（39.3%）より4.6ポイント高くなっている。

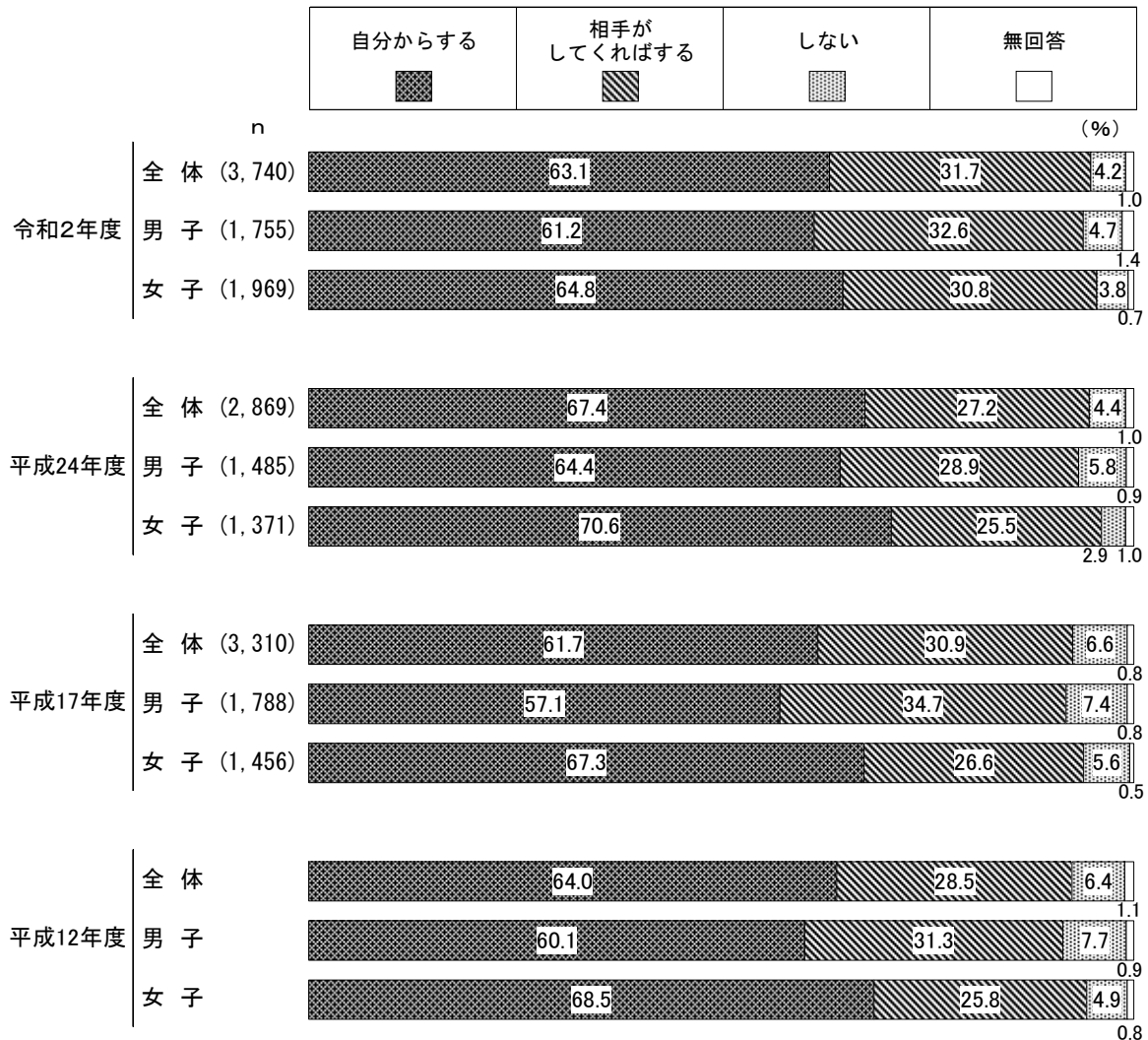
過去の調査と比較すると、全体では「ボランティア」は平成24年度より4.1ポイント増加している。一方、「スポーツ（学校以外）」は平成24年度より5.6ポイント減少している。

男女別では「ボランティア」は平成24年度より女子で5.6ポイント増加している。一方、「スポーツ（学校以外）」は平成24年度より男子で8.9ポイント、「町のお祭り」は平成24年度より女子で4.8ポイント、それぞれ減少している。

(6) 近所の人への挨拶

問42 近所の人と会った時、挨拶をしますか。

図表7-6-1 近所の人への挨拶（経年比較）



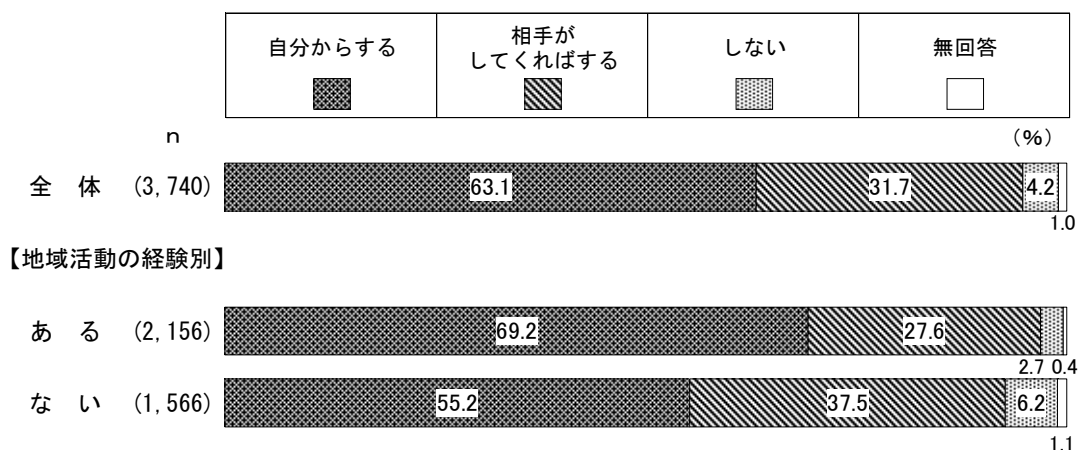
近所の人と会った時、挨拶をするか聞いたところ、「自分からする」が63.1%、「相手がしてくれればする」は31.7%となっている。一方、「しない」は4.2%となっている。

男女別でみると、「自分からする」は女子（64.8%）が男子（61.2%）より3.6ポイント高くなっている。

過去の調査と比較すると、全体では「相手がしてくれればする」は平成24年度より4.5ポイント増加している。一方、「自分からする」は平成24年度より4.3ポイント減少している。

男女別では「相手がしてくれればする」は平成24年度より男子で3.7ポイント、女子で5.3ポイント、それぞれ増加している。一方、「自分からする」は平成24年度より男子で3.2ポイント、女子で5.8ポイント、それぞれ減少している。

図表 7-6-2 近所の人への挨拶（地域活動の経験別）



地域活動の経験別で見ると、「自分からする」は“地域活動の経験がある人”（69.2%）が“地域活動の経験がない人”（55.2%）より 14.0 ポイント高くなっている。一方、「相手がしてくれればする」は“地域活動の経験がない人”（37.5%）が“地域活動の経験がある人”（27.6%）より 9.9 ポイント高くなっている。

Ⅲ まとめ

この調査は、令和2年9月～10月に県内の公立・私立高校（全日制）を地域の偏りがないように、保健所管轄地域16区から各1校ずつ無作為に抽出し、16校の2年生全員3,941人を対象に実施した。今回はその調査結果の分析をもとに、同様に実施した平成12年度、17年度、24年度の調査結果を比較し、分析を行った。

今回の調査で回答のあった生徒の男女比は、男子が46.9%、女子が52.6%となっている。家族構成は「核家族」が65.5%、「三世代家族」が19.5%、「母子家庭」「父子家庭」等を合わせて12.5%となっており、過去の調査に比すと「核家族」「母子家庭」が増加している。

日頃の生活では、朝食欠食者が男子に9.3%、女子に5.8%みられる。健やか親子21（第2次）では「朝食を欠食する子どもの割合」が評価指標となっており、朝食を食べない子どもの増加が課題となっているが、本調査では過去の調査と比べると「食べない」はあまり変化がなく、「毎日食べる」がやや増加傾向となっている。

起床時間は午前6時台が5%減少し、午前7時台が5%増加しており、そのほかの時間帯に変化はない。また、就寝時間は午前0時台が約40%、午前1時台が約20%と、約60%が午前0時以降に就寝している。夕食を家族と食べない理由を見ると、部活等で「帰宅が遅くなるから」が53.4%と過半数を超えており、就寝時間への影響が考えられる。

日頃の意識では「今の生活は充実感があり楽しい」等が増加するなど全体的に肯定的な傾向が見られるが、「なんとなくやる気がおきない」や「死んでしまいたいと思う」と否定的感情もやや増加している項目があり、留意が必要である。

社会対応力を問う項目では、「何か失敗したときに、すぐに謝ることができますか」に「あてはまる」が40.9%、「ややあてはまる」が44.5%で合わせると8割台半ばを超えている。「まわりの人たちが自分とは違った考えをもっている、うまくやっていけますか」も75.5%、「他人を助けることを、上手にやれますか」は66.7%、「自分の感情や気持ちを素直に表現できますか」は56.1%、「初対面の人に自己紹介が上手にできますか」は51.0%といずれも半数以上を占め、コミュニケーション能力について肯定的な感情が見られる。

また「悩みを相談できる人はいる」が83.4%と過去の調査に比すと最も多くなっており、その相手は「学校の友人」が84.8%、次いで「母親」が56.6%となっている。

健やか親子21（第2次）では、十代のメンタルヘルスを課題に挙げており、自殺死亡率を評価指標としている。成人を含む全体の自殺死亡率は改善された一方で、子どもの自殺については深刻な状態にある。さらに現在は新型コロナウイルスによる自粛の影響も大きい。自殺は防ぐことができる死であり、子どものこころの問題への支援が重要となる。

喫煙習慣のある人は0.4%、今は非喫煙者だが経験のある人は1.6%と、過去の調査に比すとどちらも大きく減少している。しかし、喫煙する者、特に男子の喫煙本数は増加している。

喫煙習慣がある学生について、たばこを吸う家族の有無を見ると「父親が吸う」は53.3%となっている。喫煙の心身への影響についての認知や相談相手の有無は、喫煙習慣との関連が見られないので、家族からの影響が大きいことが伺える。

飲酒習慣のある人は3.3%、今は飲まないが経験がある人は11.3%となっている。喫煙に比べ、飲酒については本人の許容度が高く、悪影響があることについての認知度は高いものの、飲酒抑制には繋がっていない。また、飲酒のきっかけとして「親からすすめられた」が17.9%となっており、本人だけでなく、周囲の大人への啓発活動も必要である。

薬物についての認知状況は、「大麻」「コカイン」「危険ドラッグ」がいずれも9割を超えている。また、心身への悪影響についての認知度も高く、不正使用を断る自信がある者は約9割となっている。しかし、薬物乱用が増加している理由として「薬物が簡単に手に入る」が48.2%、また「ストレス解消になる」が60.9%となっており、たばこやアルコールのように「手軽に入手でき使用できるもの」と考えられている可能性がある。さらに、喫煙や飲酒の習慣がある者ほど薬物への関心が高い結果が見られるため、喫煙・飲酒と併せて更なる啓発活動が必要である。

性に関しては「成人になるまでセックスはするべきではない」と「結婚や愛などに関係なくセックスはしてもよい」がそれぞれ増加しており、過去の調査に比すると性に対する考え方の多様性が進んでいることが伺える。

避妊方法の知識については「コンドーム」が99.1%、「ピル」が91.3%となっており、「ピル」の認知度が上がっている。一方で「膣外射精」が避妊方法とした者が41.3%いる。性感染症の認知度は「エイズ」が93.5%と最も高く、過去の調査より認知度が高いのは「クラミジア」「性器ヘルペス」「梅毒」「淋病」だった。

また、性に関して相談相手がいる者は33.1%となっており、6割以上は「相談の必要もない」と回答している。保健所で性感染症の検査を実施していることを「知っている」は64.7%となっており、昨年度開設したにんしんSOSちばを「知っている」は42.7%だった。

現代は性に関して様々な情報があふれており、正しい知識がなければ正しい選択ができない。このため、十代の子ども達に性に関する正しい知識をしっかりと伝えることが重要である。

IV 使用した調査票

令和2年度 健やか親子21実態調査 思春期保健に関する調査のお願い

「健やか親子21」は、平成13年から開始した、母子の健康水準を向上させるための様々な取組を、みんなで推進する国民運動計画です。平成27年からは第2次計画が始まっています。

千葉県ではこれを受け、思春期にある若者の保健対策に取り組んでまいりましたが、この度、その評価及び今後の施策の参考とするために、実態調査をすることとしました。つきましては、お忙しいところ恐縮ですが、本調査に御協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、調査はすべて無記名で行い、集計・分析に用いるので、個人が特定されることはありません。また、記入いただいた調査票は調査以外の目的には使用しません。

御不明な点がございましたら、下記の調査実施機関にお問合せくださいますよう、併せてお願い申し上げます。

※御記入にあたって※

- ・この調査は、大きく分けて次の6つの設問項目に分かれています。
1) 生活状況 2) 喫煙 3) 飲酒 4) 薬物 5) 性 6) 地域交流や自己意識
- ・各質問に対する回答は、基本的にはもっともあてはまる選択肢の番号に1つだけ○をつけてください。ただし、いくつでも○をつけてもよい場合がありますので、よく読んで回答してください。
- ・あまり深く考えず、気軽に本当のところを回答してください。
- ・書き終わったら、提出用封筒に調査用紙を入れて封をし、先生に提出してください。
- ・調査用紙は封を切られることなく（学校の先生などに結果を知られることなく）、下記の調査委託機関に送られます。

調査実施機関：千葉県健康福祉部 児童家庭課

TEL：043-223-2332

〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1

調査委託機関：株式会社エスピー研

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-11-20



思春期保健に関する調査



あなたのことについて、おうかがいします。
あてはまる選択肢の番号に○をつけてください。

F 1 性別

1 男性	2 女性
------	------

F 2 学校

1 共学である	2 共学でない
---------	---------

F 3 同居している人は誰ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1 父	2 母
3 兄姉	4 弟妹
5 祖父	6 祖母
7 おじ・おば	8 その他 ()
9 一人暮らし (寮生活を含む)	

あなたの日頃の生活についておうかがいします。
設問 1 次の問 1 から問 1 2 までの質問について、最もあてはまる選択肢の番号に 1 つだけ ○ をつけてください。

問 1 普段何時に起きていますか (休日を除く)。

1 午前 6 時前	2 午前 6 時台
3 午前 7 時台	4 午前 8 時以降

問 2 普段何時に寝ていますか (休日を除く)。

1 午後 10 時前	2 午後 10 時台
3 午後 11 時台	4 午前 0 時台
5 午前 1 時台	6 午前 2 時以降

問 3 週にどのくらい朝食を食べていますか。

1 毎日	2 週 4～6 日	3 週 1～3 日	4 食べない
------	-----------	-----------	--------

問 4 週にどのくらい家族と一緒に夕食を食べますか。

1 毎日 (問 5 へ)	2 週 4～6 日 (問 5 へ)
3 週 1～3 日 (問 5 へ)	4 食べない (問 4-1 へ)

問 4 で「4 食べない」と答えた方へ

問 4-1 食べない (食べられない) 理由は何ですか。最もあてはまる理由 1 つに○をつけてください。

1 部活で遅くなるから	2 塾で遅くなるから
3 アルバイトで遅くなるから	4 遊びで遅くなるから
5 自分以外の家族の帰宅が遅いから	6 一緒に食べたくないから
7 その他 ()	

問 5 門限は何時ですか。

- | | |
|--------------|-------------|
| 1 午後7時前 | 2 午後7時から9時前 |
| 3 午後9時から11時前 | 4 午後11時以降 |
| 5 門限はない | |

問 6 クラブ活動は参加していますか。

- | | |
|---------------|----------------------|
| 1 積極的に参加をしている | 2 在籍しているが、活動には消極的である |
| 3 参加していない | |

問 7 母親と会話をしていますか。

- | | |
|------------|--------------|
| 1 よく会話する | 2 だいたい会話している |
| 3 あまり会話しない | 4 会話しない |
| 5 母親はいない | |

問 8 父親と会話をしていますか。

- | | |
|------------|--------------|
| 1 よく会話する | 2 だいたい会話している |
| 3 あまり会話しない | 4 会話しない |
| 5 父親はいない | |

問 9 お小遣い（自由に使えるお金）は毎月どのくらいですか。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 5千円未満 | 2 5千円以上1万円未満 |
| 3 1万円以上2万円未満 | 4 2万円以上3万円未満 |
| 5 3万円以上4万円未満 | 6 4万円以上 |
| 7 特にお小遣いはない | |

問 10 あなたには親友がいますか。いる場合には、カッコ内に親友の人数を書いてください。

- | | | |
|----------------|-------|---------|
| 1 いる (人) | 2 いない | 3 わからない |
|----------------|-------|---------|

問 11 悩みを相談できる人はいますか。

- | | | |
|----------------|---------------|-----------------|
| 1 いる (問 11-1へ) | 2 いない (問 12へ) | 3 わからない (問 12へ) |
|----------------|---------------|-----------------|

問 11 で「1いる」と答えた方へ

問 11-1 相談できる人とは誰ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | |
|----------------|--|
| 1 学校の友人 | 2 母親 |
| 3 父親 | 4 兄弟姉妹 |
| 5 先生 | 6 先輩 |
| 7 アルバイト先の友人・知人 | 8 その他 () |

問12 次の16の質問について、最もあてはまる選択肢の番号に1つだけ○をつけてください。

	あてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる
1 できれば様々な経験をしてみたい	1	2	3	4
2 興奮したり、わくわくすることは好きだ	1	2	3	4
3 成功する見込みはあまりなくとも、あえて危険を冒す方だ	1	2	3	4
4 スピード感のある乗り物が好きだ	1	2	3	4
5 流行に合わせて趣味を変えるのは楽しい	1	2	3	4
6 常にメディアに接して、新しい情報を取り入れるのが好きだ	1	2	3	4
7 ハラハラさせることがあっても飽きさせない人と付き合うのが楽しい	1	2	3	4
8 今の生活は充実感があり楽しい	1	2	3	4
9 私ひとりがとり残されているようで寂しい	1	2	3	4
10 毎日、毎日、変化のない単調な日々でつまらない	1	2	3	4
11 自分がなさけなくていやになる	1	2	3	4
12 私をわかってくれる人がいないと思う	1	2	3	4
13 なんとなくやる気がおきない	1	2	3	4
14 世の中にはイライラすることが多い	1	2	3	4
15 将来大人になるのが楽しみである	1	2	3	4
16 死んでしまいたいと思う	1	2	3	4

設問 2

喫煙についてのあなたの考えや行動についておうかがいします。
次の問13から問19までの質問について、最もあてはまる選択肢の番号に1つだけ○をつけてください。ただし、問19については、あてはまる番号はいくつ○をつけてもかまいません。

問13 未成年者の喫煙禁止をどう思いますか。

- 1 当然だと思う
- 2 仕方がないことだと思う
- 3 成人が吸えて、未成年者が吸えないのはおかしいと思う
- 4 法律で決める必要はなく、個人の好きにしたらいいと思う

問14 あなたは、たばこを吸いますか、また吸う方は一日平均何本吸いますか。

- 1 吸う（1日平均 本）（問14-1へ）
- 2 吸ったことはあるが今は吸わない（問14-1へ）
- 3 吸わない（問15へ）

問14で「1吸う」または「2今は吸わない」と答えた方へ

問14-1 初めて吸ったのはいつですか。

- | | |
|-------------|-----------|
| 1 小学校入学以前 | 2 小学生の時 |
| 3 中学生の時 | 4 高校1年生の時 |
| 5 高校2年生になって | 6 覚えてない |

問15 たばこを吸うことによる心や身体への悪い影響について知っていますか。

- | | |
|---------|--------|
| 1 知っている | 2 知らない |
|---------|--------|

問16 受動喫煙（他人のたばこの煙を吸わされること）による健康への悪い影響について知っていますか。

- | | |
|---------|--------|
| 1 知っている | 2 知らない |
|---------|--------|

問17 たばこの煙に含まれない成分は次のうちどれだと思いますか。

- 1 一酸化炭素
- 2 ニコチン
- 3 塩化ナトリウム
- 4 タール

問18 たばこは、将来、肺がんなどになる危険率が高いと言われていたことを知っていますか。

- | | |
|---------|--------|
| 1 知っている | 2 知らない |
|---------|--------|

問19 家族の方はたばこを吸いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 父親が吸う
- 2 母親が吸う
- 3 兄弟姉妹が吸う
- 4 1～3以外の家族又は同居人が吸う
- 5 誰も吸わない

設問 3 **飲酒について**のあなたの考えや行動についておうかがいします。
次の問20から問23までの質問について、最もあてはまる選択肢の番号に1つだけ○をつけてください。

問20 未成年者の飲酒禁止をどう思いますか。

- 1 当然だと思う
- 2 仕方がないことだと思う
- 3 成人が飲めて、未成年者が飲めないのはおかしいと思う
- 4 法律で決める必要はなく、個人の好きにしたらいいと思う

問21 あなたは、お酒（ビール、チューハイなどを含む）を飲みますか。

- 1 飲む（問21-1、2へ）
- 2 飲んだことはあるが今は飲まない（問21-1へ）
- 3 飲まない（問22へ）

問21で「1飲む」または「2今は飲まない」と答えた方へ

問21-1 ① 初めてお酒を飲んだのはいつですか。

- | | |
|-------------|-----------|
| 1 小学校入学以前 | 2 小学生の時 |
| 3 中学生の時 | 4 高校1年生の時 |
| 5 高校2年生になって | 6 覚えてない |

② お酒を飲んだきっかけはなんですか。

- | | |
|------------------|---------------|
| 1 親からすすめられた | 2 友だちからすすめられた |
| 3 自ら飲んでみたいと思ったから | 4 覚えてない |
| 5 その他（ ） | |

問21で「1飲む」と答えた方へ

問21-2 どのくらい飲みますか。

- 1 1年間で数回飲む
- 2 月に数回飲む
- 3 週に数回飲む
- 4 ほとんど毎日飲む

問22 飲酒による心や身体への悪い影響について知っていますか。

- | | |
|---------|--------|
| 1 知っている | 2 知らない |
|---------|--------|

問23 未成年の飲酒は急性アルコール中毒になりやすく、場合によっては死亡することもあることを知っていますか。

- | | |
|---------|--------|
| 1 知っている | 2 知らない |
|---------|--------|

設問 4

薬物についてのあなたの考えについておうかがいします。

次の問 24 から問 30 までの質問について、最もあてはまる選択肢の番号に 1 つだけ ○ をつけてください。ただし、問 24 と問 30 については、あてはまる番号は いくつ ○ をつけてもかまいません。

問 24 乱用すると有害な薬物であると知っているものはどれですか。あてはまるものすべてに ○ をつけてください。その他にはさらに知っている場合、記入してください。

1 コカイン	2 MDMA
3 スピード	4 エス
5 ヘロイン	6 大麻
7 危険ドラッグ	8 その他 ()
9 いずれも知らない	

問 25 大麻や覚せい剤などの薬物乱用を繰り返すと、薬物依存状態（やめたくても、やめられない状態）になることを知っていますか。

1 知っている	2 知らない
---------	--------

問 26 薬物乱用を繰り返すことによって、脳など身体がぼろぼろになることを知っていますか。

1 知っている	2 知らない
---------	--------

問 27 薬物乱用を繰り返すことによって、何も無いのに物が見えたり（幻視）、実際には何も聞こえないのに声が聞こえたり（幻聴）するようなことがあるのを知っていますか。

1 知っている	2 知らない
---------	--------

問 28 大麻や覚せい剤などの薬物の不正な使用をすすめられたら、あなたは断る自信がありますか。

1 絶対ある	2 まあまあある
3 あまりない	4 全くない
5 わからない	

問 29 大麻や覚せい剤などについて、あなたの気持ちは次のどれに最も近いですか。

1 関心がない	2 見てみたい
3 試してみたい	4 経験したことがある

問 30 大麻や覚せい剤などの薬物を乱用する若者が増えているのはどのような理由からだと思いますか。あてはまるものすべてに ○ をつけてください。その他にはさらに理由があると思われる場合、記入してください。

1 薬物が簡単に手にはいるようになってから	
2 友達、仲間、先輩などに誘われるから	
3 薬物を使うことの怖さを知らないから	
4 薬物について誤った知識を持っているから（ダイエットになる等）	
5 学校や家庭がおもしろくないから	
6 ストレス解消のため	7 好奇心から
8 なんとなく	9 その他 ()

設問 5

性についてのあなたの考えについておうかがいします。

次の問31から問38までの質問について、あてはまる選択肢の番号に1つだけ○をつけてください。ただし、問32-1、問33、問36については、あてはまる番号はいくつ○をつけてもかまいません。

問31 高校生がセックスすることについてどう思いますか。次のうちからあなたの考えに一番近い番号を選択してください。

- | |
|----------------------------------|
| 1 成人になるまでセックスはするべきではない |
| 2 結婚の約束をしているのなら、年齢に関係なくセックスしてもよい |
| 3 深く愛し合っているなら、セックスしてもよい |
| 4 結婚や愛などに関係なく、セックスはしてもよい |

問32 避妊方法を知っていますか。

- | | |
|------------------|---------------|
| 1 知っている (問32-1へ) | 2 知らない (問33へ) |
|------------------|---------------|

問32で「1知っている」と回答した方へ

問32-1 どんな避妊方法を知っていますか。知っているものすべてに○をつけてください。

- | | |
|-----------|--------|
| 1 コンドーム | 2 ピル |
| 3 ペッサリー | 4 膣外射精 |
| 5 その他 () | |

問33 性感染症で知っているのはどれですか。知っているものすべてに○をつけてください。

- | | |
|----------------|------------|
| 1 淋菌感染症 (淋病) | 2 梅毒 |
| 3 HIV感染症 (エイズ) | 4 クラミジア |
| 5 性器ヘルペス | 6 尖形コンジローマ |
| 7 HTLV-1感染症 | 8 B型肝炎 |

問34 保健所で性感染症の検査をしているのを知っていますか。

- | | |
|---------|--------|
| 1 知っている | 2 知らない |
|---------|--------|

問35 性に関して相談できる人がいますか。

- | |
|-----------------|
| 1 いる |
| 2 相談したいがいない |
| 3 相談の必要もないのでいない |

問36 性に関して知りたいと思うことは何ですか。知りたいものすべてに○をつけてください。

- | | |
|-------------|-------------|
| 1 男性の身体のしくみ | 2 女性の身体のしくみ |
| 3 思春期の心理 | 4 男女交際 |
| 5 結婚の意義 | 6 セックス |
| 7 妊娠・出産 | 8 避妊 |
| 9 性感染症 | 10 特にない |
| 11 その他 () | |

問37 妊娠について心配事がある時に相談できる窓口(にんしん SOS ちば)があることを知っていますか。

1 知っている	2 知らない
---------	--------

問38 自分自身やパートナー、友達の妊娠について相談したい事ができた場合、にんしん SOS ちばに相談してみようと思いますか。

1 相談してみたい	2 相談はしない	3 わからない
-----------	----------	---------

設問6 周囲の人々との関わりやあなたの日頃の考えや行動についておうかがいします。
次の問39から問43までの質問について、最もあてはまる選択肢の番号に1つだけ○をつけてください。ただし、問39-1、問41-1については、あてはまる番号はいくつ○をつけてもかまいません。

問39 この1~2年の間に、赤ちゃんを抱いたことがありますか。

1 ある(問39-1へ)	2 ない(問40へ)
--------------	------------

問39で「1ある」と回答した方へ

問39-1 赤ちゃんを抱いたのは、どういう機会でしたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1 家族・親戚に赤ちゃんがいたから
2 近所に赤ちゃんがいたから
3 学校行事で
4 ボランティア活動で
5 その他 ()

問40 赤ちゃんを育てることについてどう思いますか。

1 楽しそう
2 だいたい楽しいが大変なこともある
3 大変なことが多く楽しいのは少しだけ
4 大変なだけ
5 わからない

問41 これまでに地域活動*の経験がありますか。

1 ある(問41-1へ)	2 ない(問42へ)
--------------	------------

*地域活動とは、地域の清掃、学校以外におけるスポーツ、ボランティア、町のお祭りなどをさします。

問41で「1ある」と答えた方へ

問41-1 どのような地域活動ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1 地域の清掃
2 スポーツ(学校以外)
3 ボランティア
4 町のお祭り
5 その他 ()

問42 近所の人と会った時、挨拶をしますか。

1 自分からする	2 相手がしてくればする	3 しない
----------	--------------	-------

問43 次の15の質問について、最もあてはまる選択肢の番号に1つだけ○をつけてください。

	あてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる
1 他人と話していて、あまり会話が途切れない方ですか	1	2	3	4
2 他人にやってもらいたいことを、うまく指示することができますか	1	2	3	4
3 他人を助けることを、上手にやれますか	1	2	3	4
4 相手が怒っているときに、うまくなだめることができますか	1	2	3	4
5 知らない人とでも、すぐに会話が始められますか	1	2	3	4
6 まわりの人達との間でトラブルが起きても、それをうまく処理できますか	1	2	3	4
7 こわさや恐ろしさを感じたときに、それをうまく処理できますか	1	2	3	4
8 気まずいことがあった相手と、上手に和解できますか	1	2	3	4
9 他人が話しているところに、気軽に参加できますか	1	2	3	4
10 相手から非難されたときにも、それをうまく片づけることができますか	1	2	3	4
11 自分の感情や気持ちを、素直に表現できますか	1	2	3	4
12 あちこちから矛盾した話しが伝わってきても、うまく処理できますか	1	2	3	4
13 初対面の人に、自己紹介が上手にできますか	1	2	3	4
14 何か失敗したときに、すぐに謝ることができますか	1	2	3	4
15 まわりの人達が自分とは違った考えをもっている、うまくやっていけますか	1	2	3	4

回答が終わったら、三つ折りにして
提出用封筒に入れて提出してね。



ご協力ありがとうございました。

思春期保健に関する実態調査
報告書

令和3年3月

発行 千葉県健康福祉部児童家庭課
〒260-8667 千葉市中央区市場町1番1号
電話 043(223)2332